

D3-E182



*89W71851 *

二紀二千年六百年記念編纂

東京製本
機械綴業
組合史

第一巻



inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue

Cyan

Green

Yellow

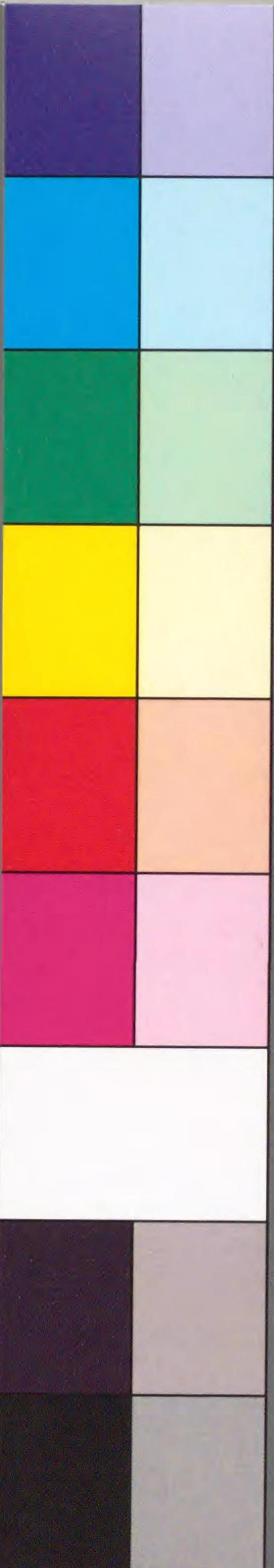
Red

Magenta

White

3/Color

Black



Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

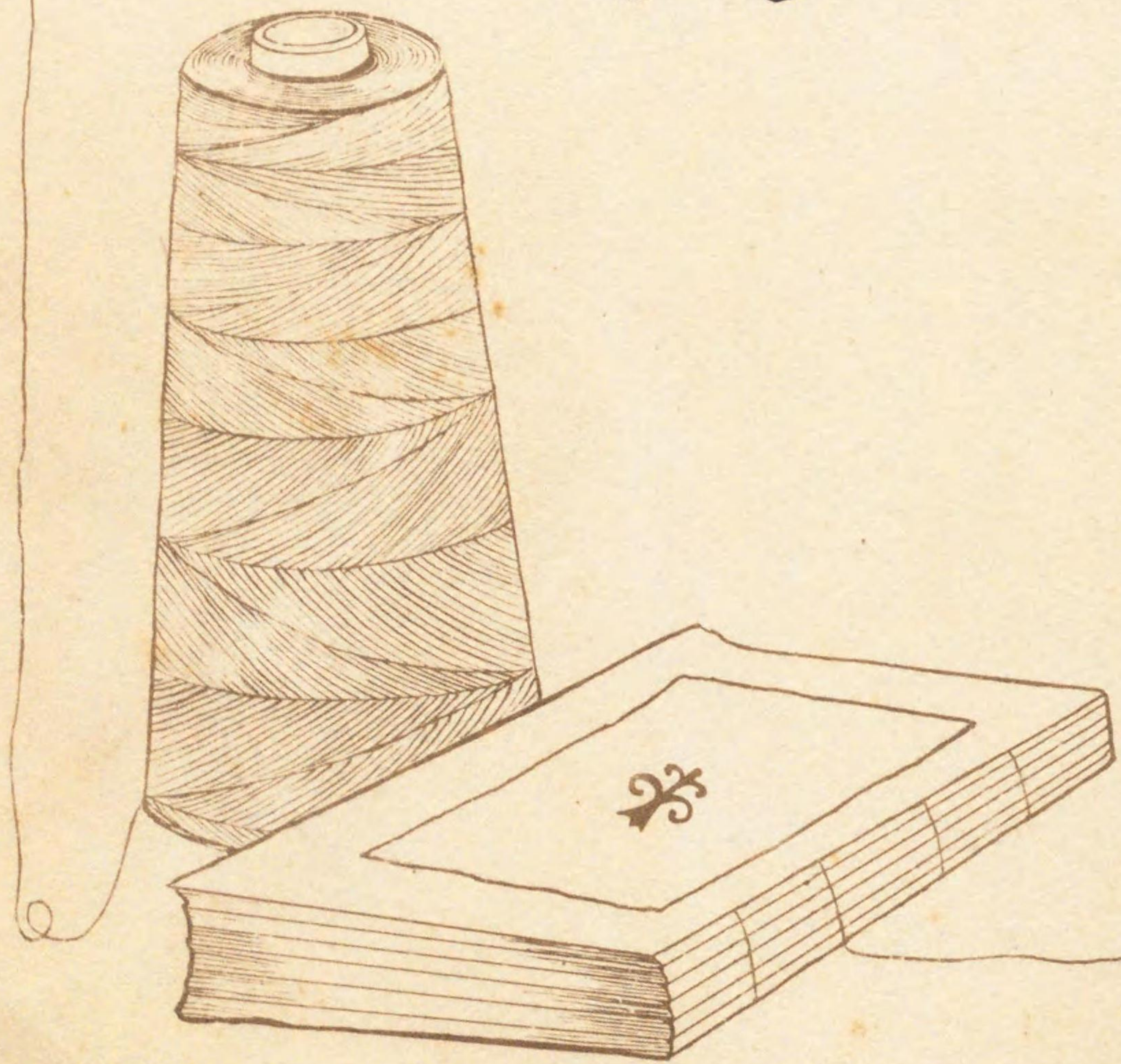




下平廣太郎
母家竹之介
大曾根仙之丞
鑑

東京製本
機械綴業

組合史



編共 一榮田柴・郎三留田井

D3
E182



89W71851

序

抑モ本組合ハ大正十五年九月ノ創設ニシテ當時未ダ本邦製本界ニ於テ機械綴ノ眞價ヲ知ラズ出版、製本ノ業未ダ今日ノ隆昌ヲ見ズ舊來ノ手工業ヲ以テ足レリト爲ス狀況ナリシモコノ時ニ當リ歐米先進國ノ長ヲ採リ敢然業界ニ革命的烽火ヲ擧グルヤ賛否交々ニシテ或ハ自己擁護ノ爲メニスル者アリ或ハ知ラザルガ故ニ迂遠ナル論議アリ利害、感情、相錯綜シテ果ツベキモ無カリシナリ

然ルニ此ノ間ニ處シ組合員ハ隱忍自重又他ヲ顧ミル事ナク一意専心此ノ業ニ精勵シ歩一步眞ニ臥薪嘗膽千辛萬苦ノ功ヲ積ミ今日ノ基礎ヲ築クニ至レルハ顧ミテ感慨實ニ無量ナルヲ覺エ爾來出版界製本業ノ盛衰ニ伴ヒ

多少ノ波瀾ハ免レザリシト雖モ逐年斯業ノ發達ヲ見ルニ至レルハ誠ニ遇然ニアラザルナリ

今ヤ組合員ノ協力甚ダ篤ク組合ノ運営亦極メテ時宜ニ適ヒ過去十五年間顯著ナル實績ト相俟ツテ帝都製本界ニ牢固タル地位ヲ獲得スルニ至リタルハ誠ニ欣快ニ不堪ト同時ニ自肅自戒以テ江湖ノ眷顧ニ答ヘ又以テ興亞大業ノ一翼ニ參劃スルノ決意ヲ以テ産業報國ニ至誠ヲ盡サン事ヲ期スルモノナリ

茲ニ本組合創立十五週年ヲ記念シ組合史ヲ編スルニ當リ聊カ所感ヲ記シ以テ序トナス

昭和十五年初夏

編纂者 井田留三郎

明治天皇御製

人もわれも道を守りて

かはらずば

この敷島乃

國もこうごかし

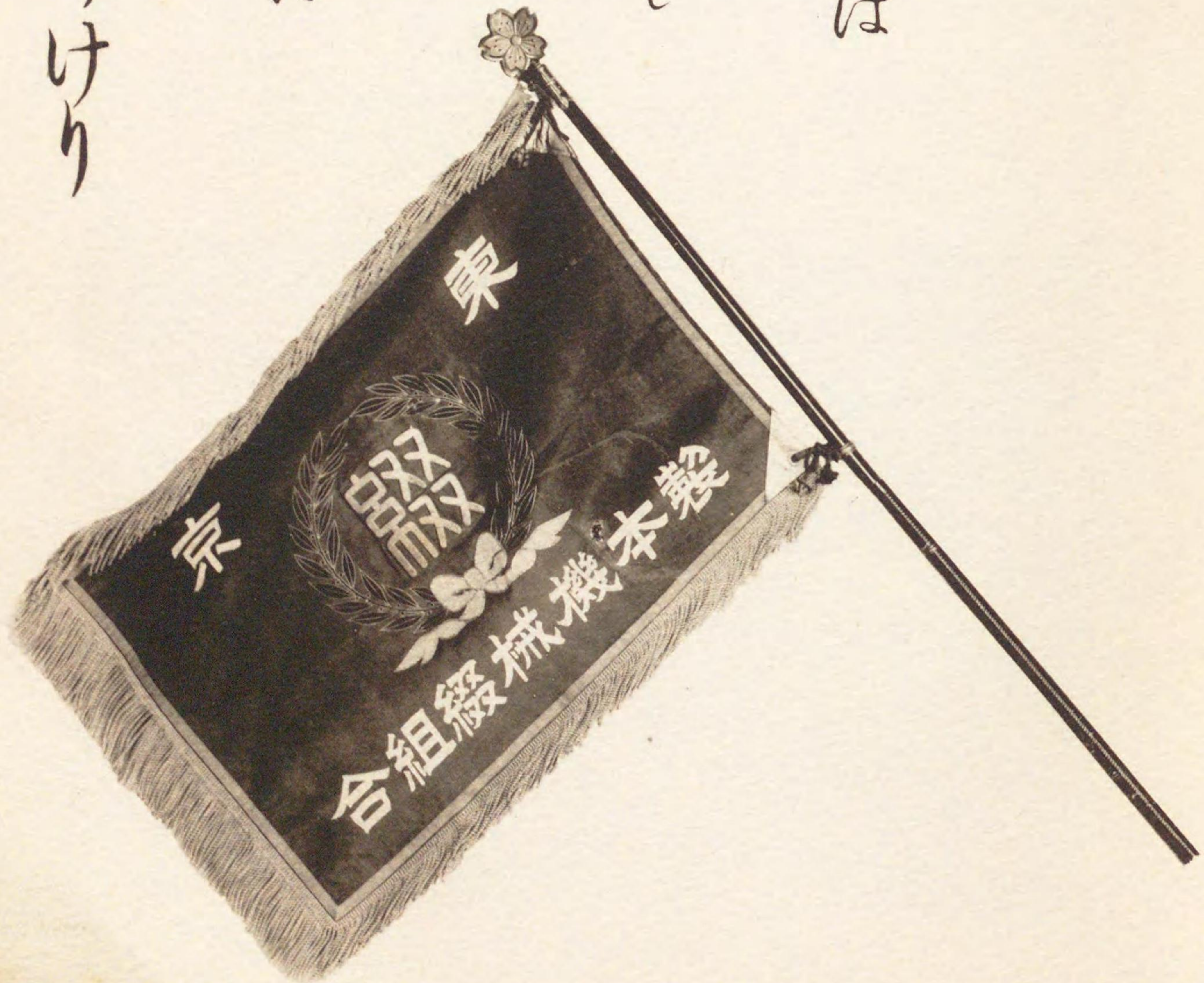
照憲皇太后御製

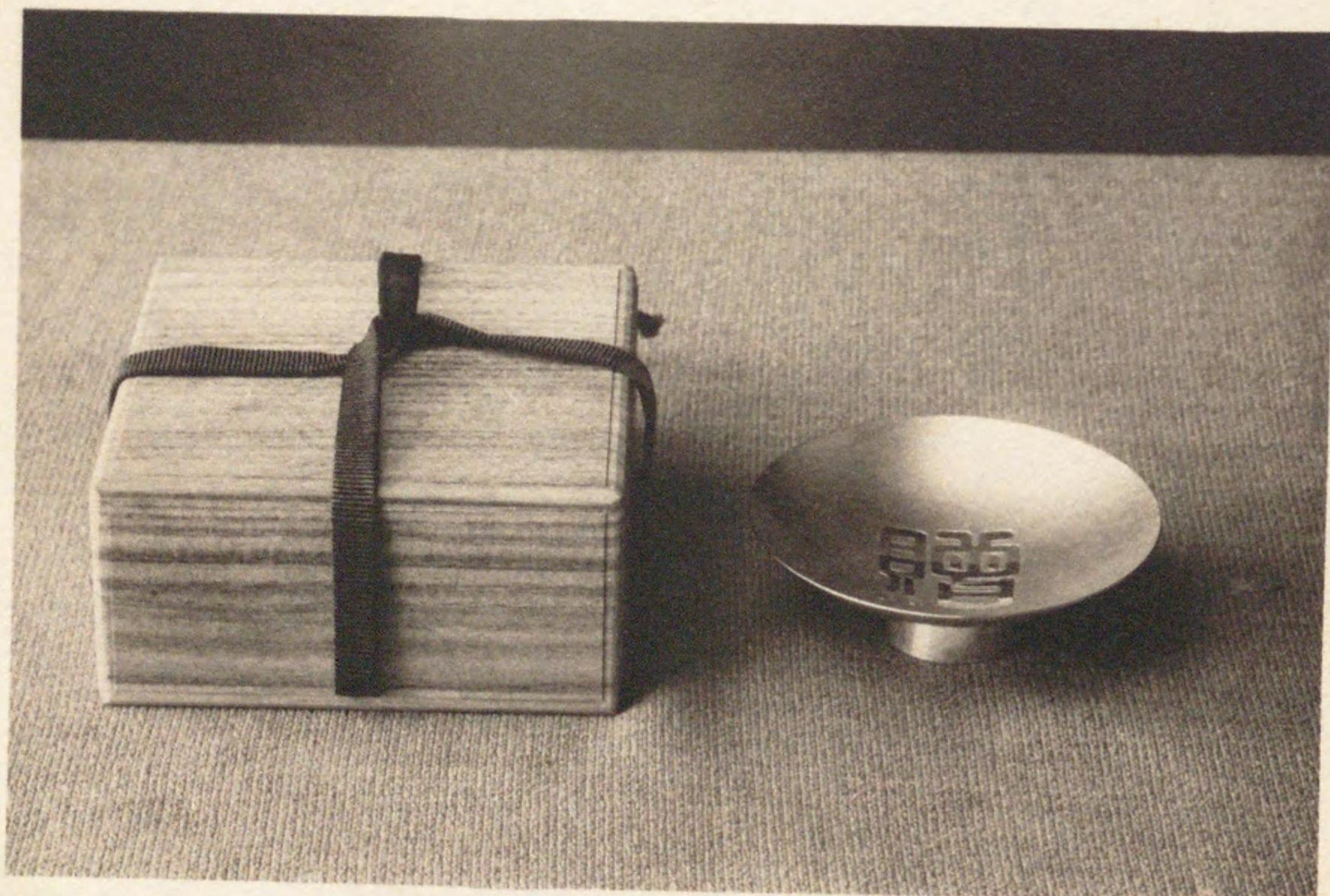
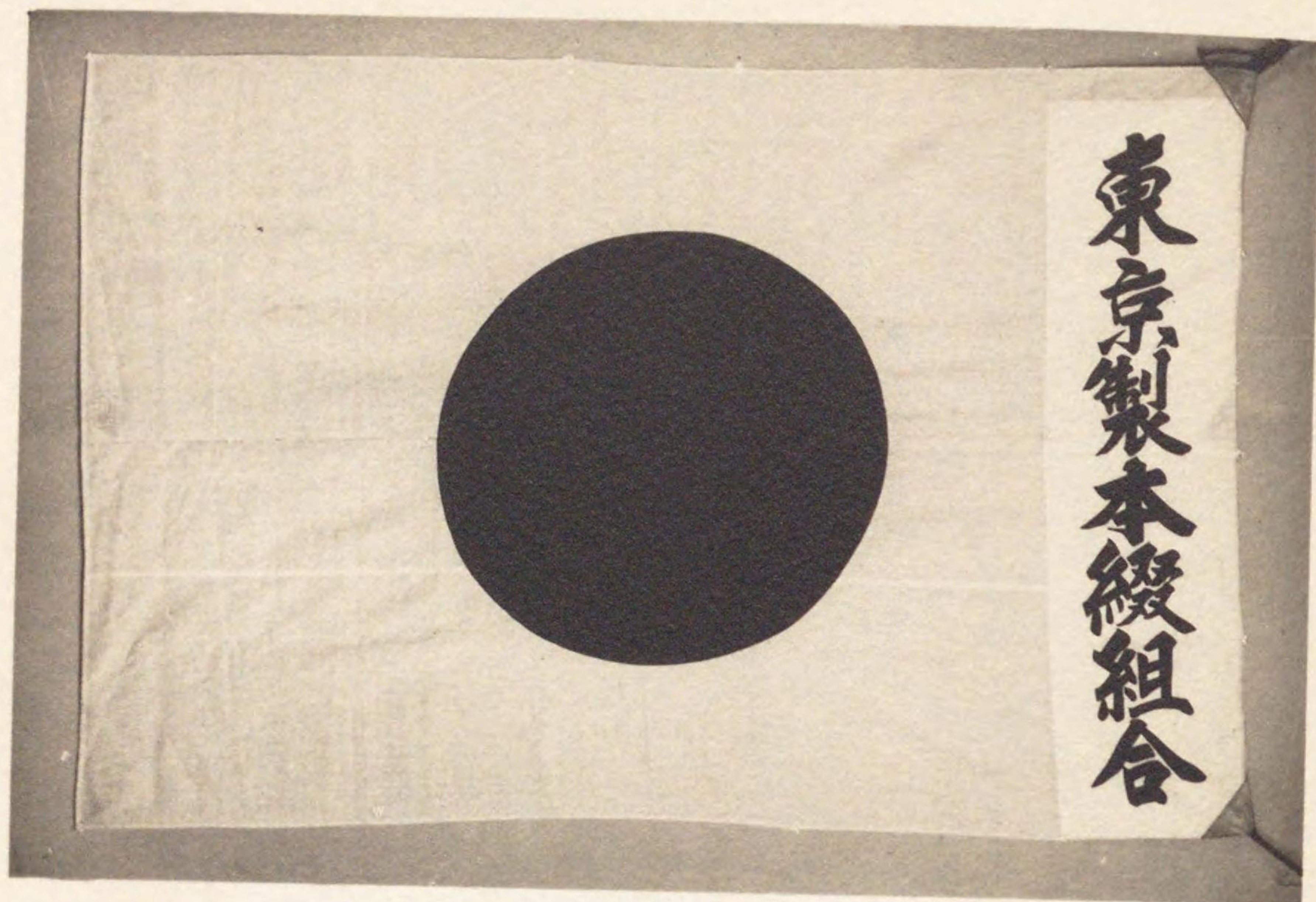
みがのれて光いでたる

玉みれば

人のこころに

ひとしかりけり





本組合拾週年記念銀盃

編纂ニ就テ

皇紀二千六百年ヲ紀念シ本組合ニ於ナモ大イニ有意義ナル計劃ヲ爲サントシツ、アリ

其ノ一着手トシテ井田氏ト共ニ組合史ノ編纂ヲ御依囑セラレタリ吾等固ヨリ菲才其ノ任ニアラズト雖モ駑馬ニ鞭チ組合員諸氏ノ御援助ニヨリ辛ジテ編スルヲ得タリト雖モ光輝アル本組合ノ歴史ノ全貌ヲ明ニスルヲ得タルヤ疑ナキヲ保セス只其ノ一斑ヲ示シタリトスレバ望外ノ幸ナリ

抑モ本邦ニ於テ製本綴ニ用フル機械ヲ始メテ輸入セルハ當時製本界ニ於テ麒麟兒ト言レシ山縣純次氏ガ歐米各國ヲ視察シテ各國製品中最モ優良ナル獨逸ブレマー會社製品ヲ輸入セシヲ嚆矢トス時ニ大正八年ナリ依テ

長合組代歴



下平廣太郎氏



母家竹之介氏



大曾根仙丞氏

同氏ノ功績アリテコソ吾々が今日機械綴業ヲ營ミツ、アル根原ニシテ吾々ハ同氏ノ功ヲ永久忘ルベカラザルモノナリトス本組合史ヲ編スルニ當リ大方ノ御參考ニ資スルモノナリ
次ニ組合員各位ノ御功績及御經歷ニ關シテハ詳述スベキモノ多々アリト雖モ省略セルモノ割愛セルモノ甚ダ多ク御諒承ヲ願フモノナリ
吾等元來文筆ヲ習ハズ其ノ意ヲ盡サザルヲ御寛容アラシコトヲ

昭和十五年七月

編纂者 柴田 榮 一

長合組代歴



氏秀 瀬横

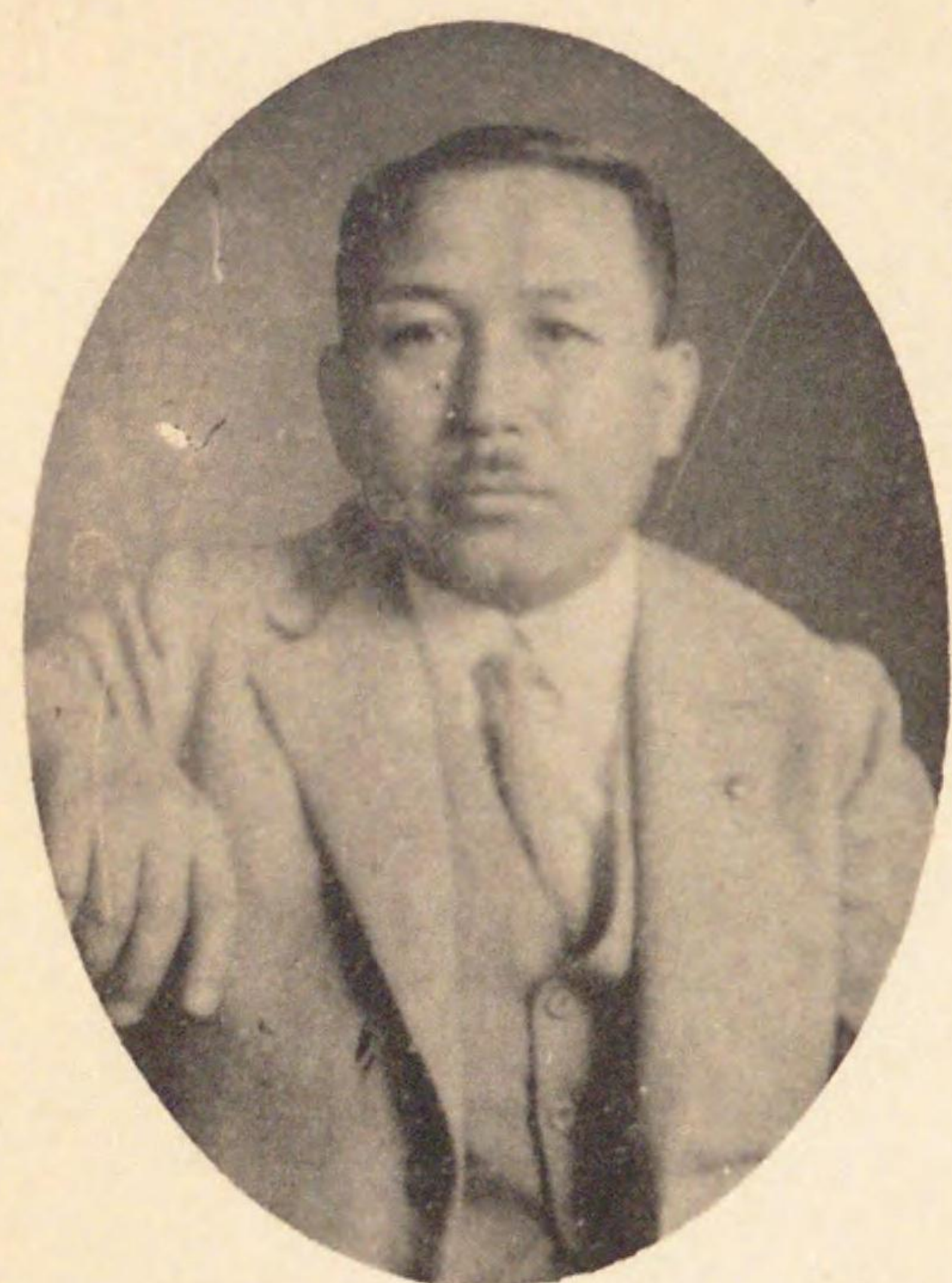


氏吉宇田篠

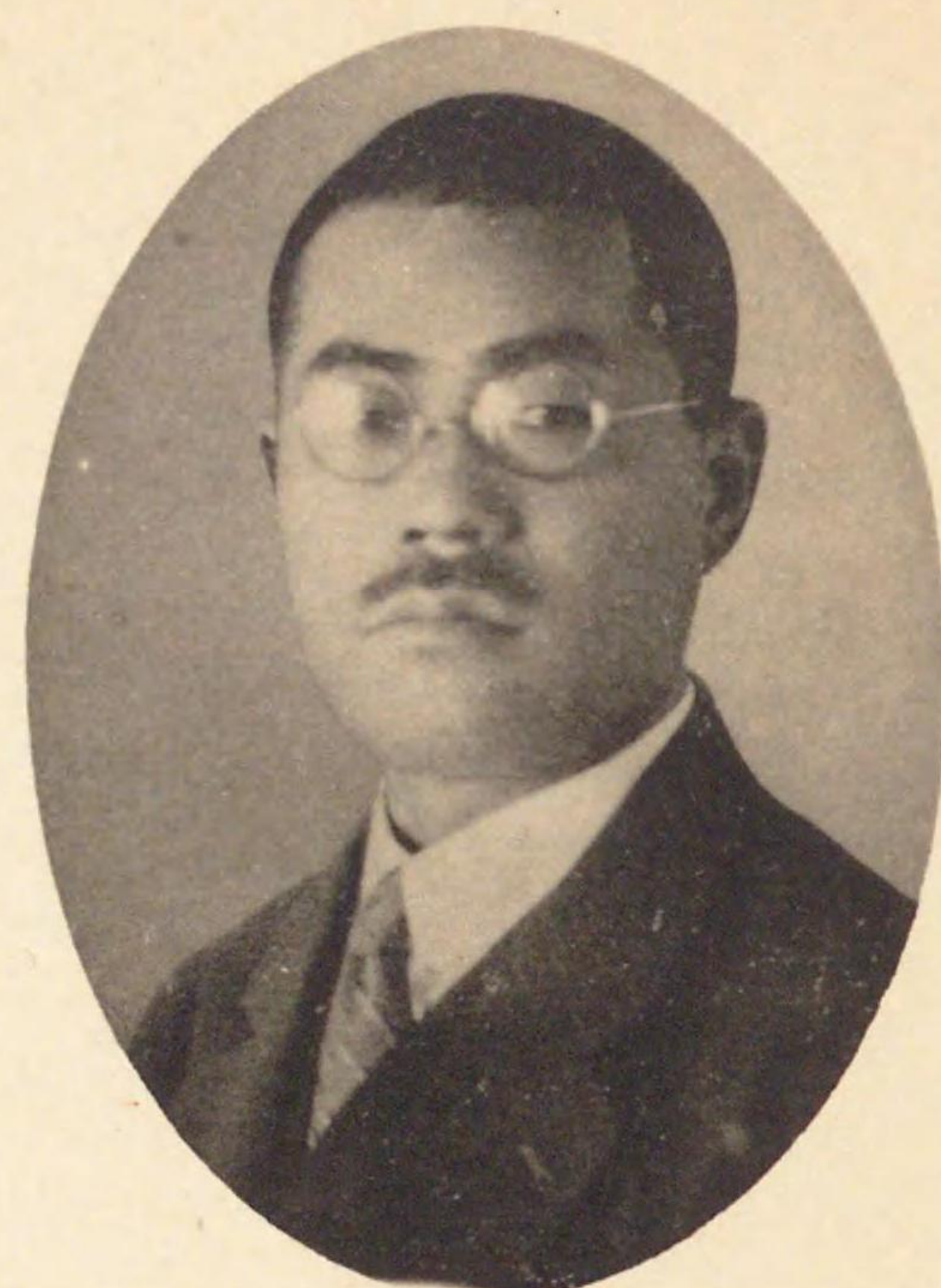


氏治竹口川

長合組副代歴



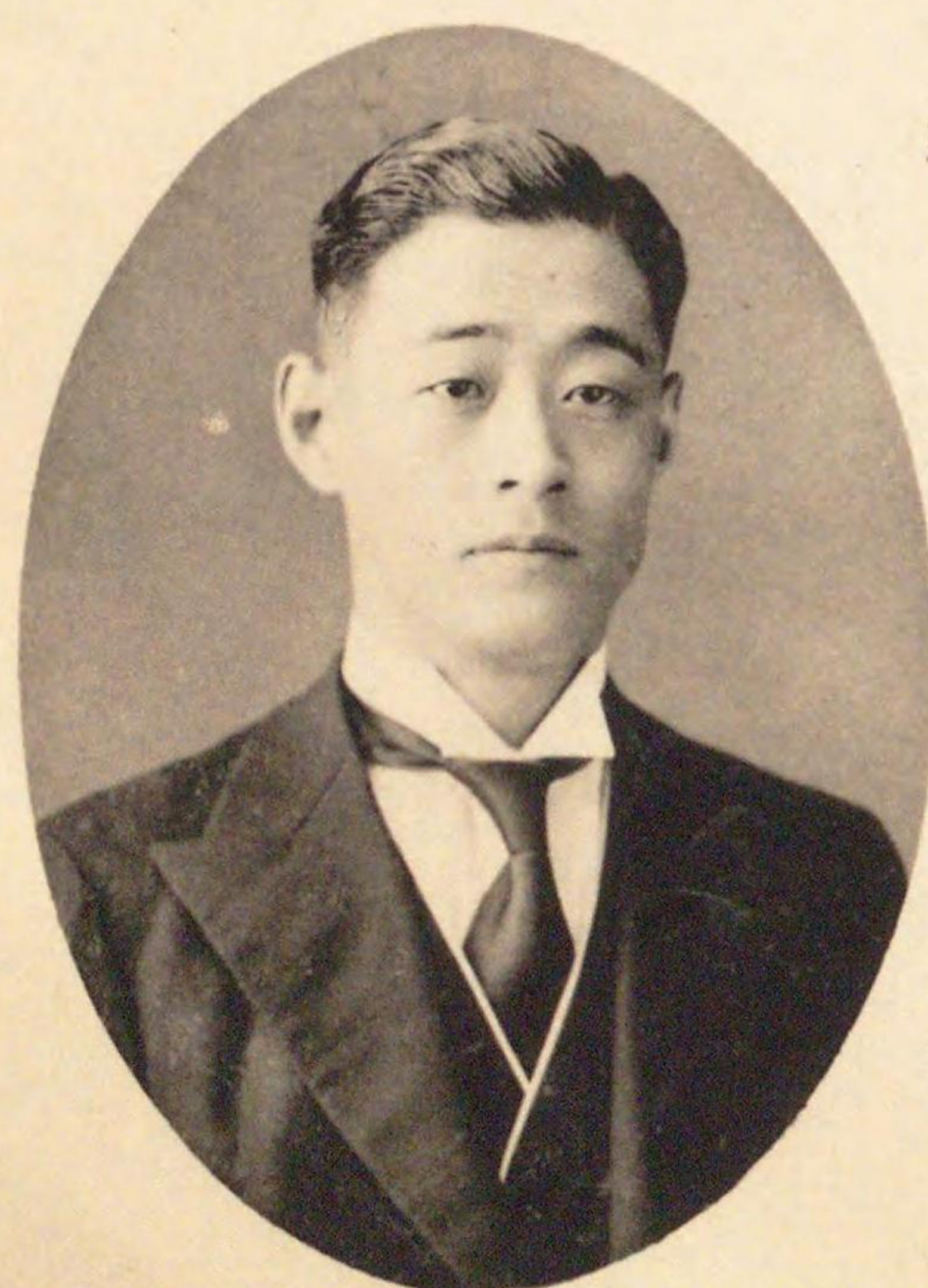
氏治雅中田



氏誠 藤 齋



氏吉虎谷蜂



氏二倉野浦



氏平範田増

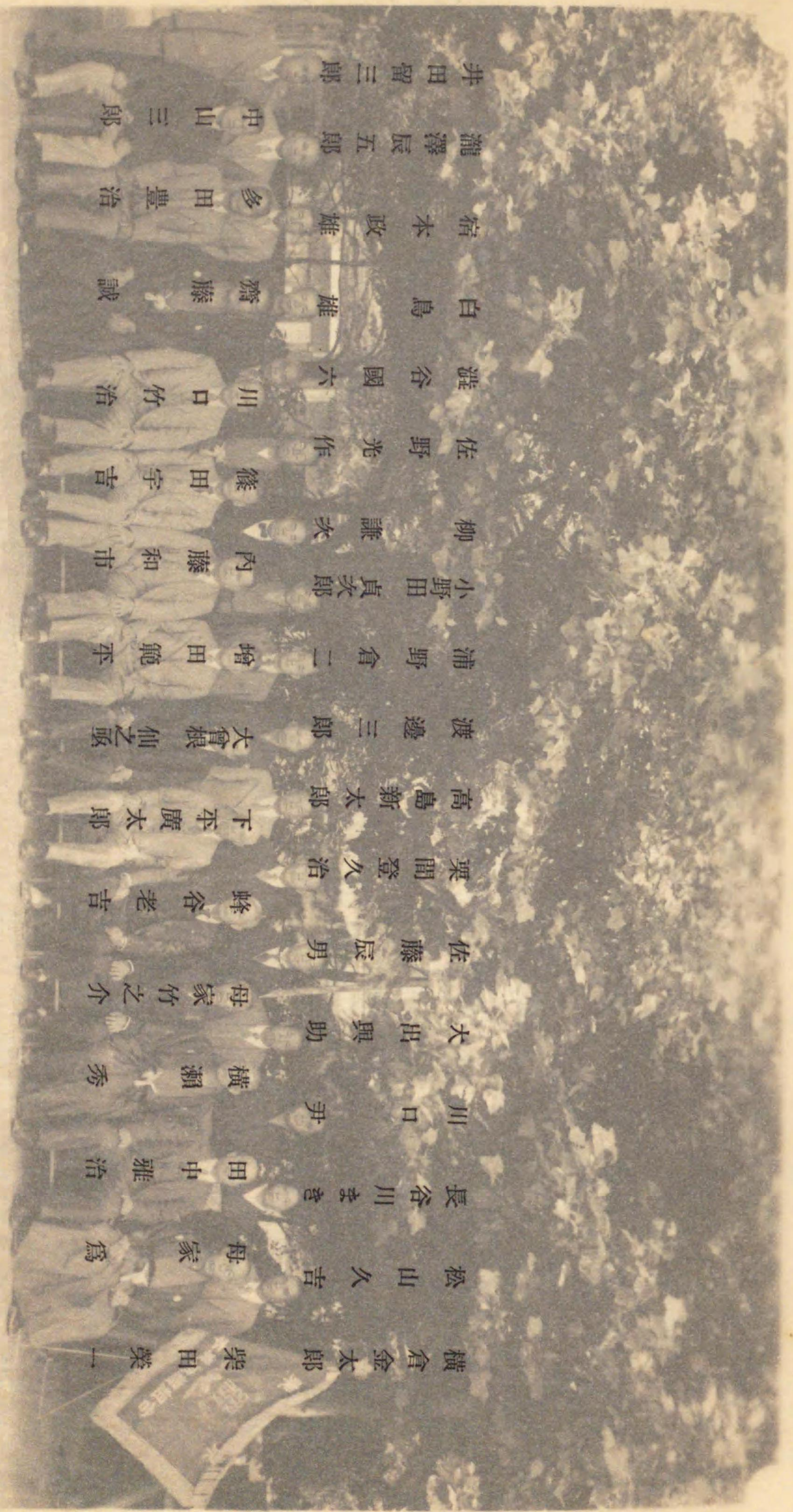
組合史編纂ニ就テノ御挨拶

現組合長 大曾根仙之丞

組合史編纂者側ヨリ何カ私ニ書イテトノ要求ナルモ元ヨリ淺學不筆却テ
光輝アル組合史ヲ汚ス懼レアルモ辭シ難ク一言申述ベマス
抑モ當組合ハ創立以來十五年ノ星霜ヲ迎フルニ至タ事ハ誠ニ慶賀ニ堪ヘ
マセン惟フニ之ノ間絶ヘズ經濟界ノ動搖ノ中ニ歩一步統制アル歩調ヲ迪
リ來リ今ヤ事變下四年而モ皇紀二千六百年ノ光輝アル歳ヲ迎フルト共ニ
健全ナル組合トシテ業界ニ君臨シ其ノ範タルノ榮ヲ有スル事ハ全ク組合
員諸彦ノ犠牲的團結力ノ賜ニシテ且ツ歴代幹部諸氏ノ努力ノ偉大ナルヲ
認識スルト同時ニ現在吾々トシテ一層責任ノ重大サヲ痛感シ組合ノ向上

發展亦組合員相互ノ親睦ヲ圖ラントスルモノデアリマス
 然シ各自ニ於テ組合ニ對スル自覺ト信念ガ有テモ相互間ノ親睦ガ保タレ
 ナケレバ組合ノ團結維持ハ望マレマセン故ニ組合員ノ親密度ノ深淺コソ
 本組合ノ強弱興廢否死活ノ問題デアルト確信シマス今日ノ如キ有事ノ際
 物資ノ統制ハ愈々逼迫セラレツ、アル此際吾々同業者ハ緊張ト協力ニ依
 リ戰事體制下ノ國難ヲ打開シ以テ初期ノ目的ニ向テ一路邁進サレン事ヲ
 切望スル次第デアリマス

茲ニ皇紀二千六百年ノ皇統ヲ奉祝スルト共ニ本組合十五週年ヲ迎フルニ
 當リ紀念亦協力ノ一端トシテ組合史ノ編纂ヲ肇メ日夜東奔西走克ク此ノ
 難事ヲ貫徹セラレタル井田柴田兩氏ノ勞ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ
 最後ニ組合員御一同ノ愈々隆盛ナラン事ヲ祈リ聊カ御挨拶ト致シマス



横倉金太郎 柴田榮一
 松山久吉 母家爲
 長谷川まき 田中雅治
 川口 尹
 大出興助 横瀬秀
 佐藤辰男 母家竹之介
 栗間登久治 蜂谷老吉
 高島新太郎 下平廣太郎
 渡邊三郎 大曾根仙之丞
 浦野倉二 増田龍平
 小野田貞次郎 内藤和市
 柳 謙次 篠田宇吉
 佐野光作 川口竹治
 澁谷國六 齋藤誠
 白鳥 雄 宿本政雄
 瀧澤辰五郎 多田豊治
 井田留三郎 中山三郎

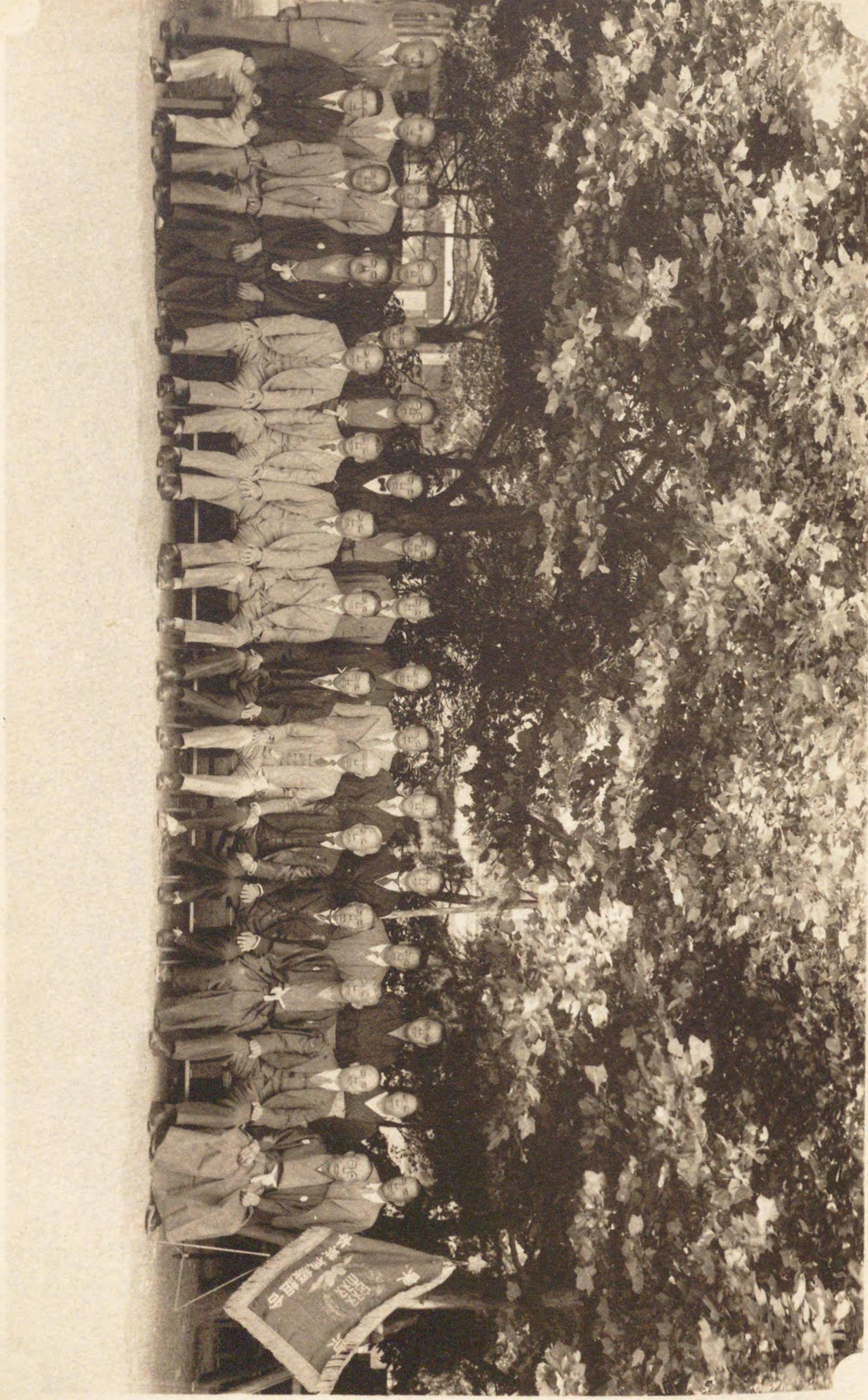
皇紀紀念組合組全

發展亦組合員相互ノ親睦ヲ圖ラントスルモノデアリマス
然シ各自ニ於テ組合ニ對スル自覺ト信念ガ有テモ相互間ノ親睦ガ保タレ
ナケレバ組合ノ團結維持ハ望マレマセン故ニ組合員ノ親密度ノ深淺コソ
本組合ノ強弱興廢否死活ノ問題デアルト確信シマス今日ノ如キ有事ノ際
物資ノ統制ハ愈々逼迫セラレツ、アル此際吾々同業者ハ緊張ト協力ニ依
リ戰事體制下ノ國難ヲ打開シ以テ初期ノ目的ニ向テ一路邁進サレン事ヲ
切望スル次第デアリマス

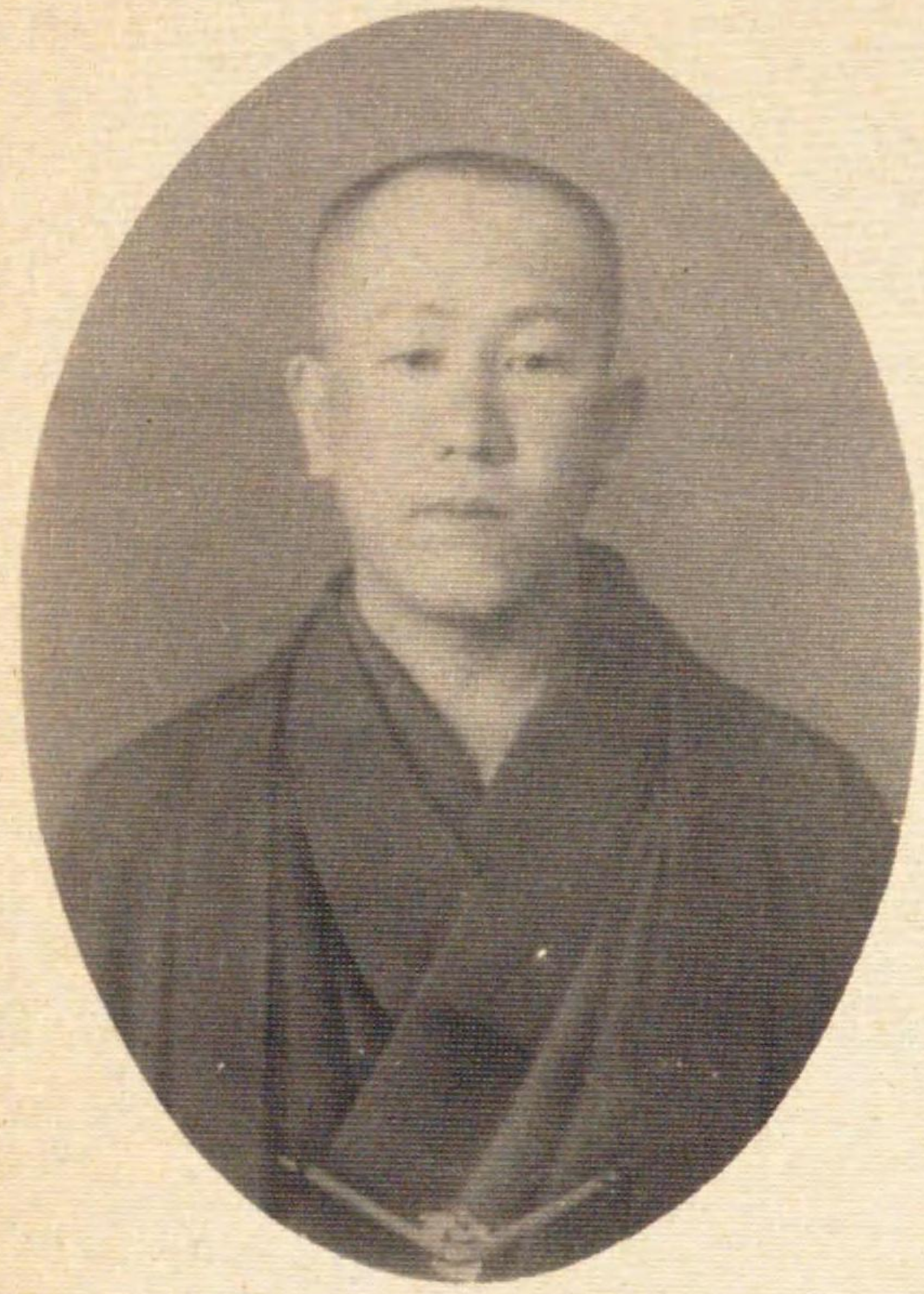
茲ニ皇紀二千六百年ノ皇統ヲ奉祝スルト共ニ本組合十五週年ヲ迎フルニ
當リ紀念亦協力ノ一端トシテ組合史ノ編纂ヲ肇メ日夜東奔西走克ク此ノ
難事ヲ貫徹セラレタル井田柴田兩氏ノ勞ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シ
最後ニ組合員御一同ノ愈々隆盛ナラン事ヲ祈リ聊カ御挨拶ト致シマス

横倉金太郎	松山久吉	長谷川まき	川口 尹	大出興助	佐藤辰男	栗間登久治	高島新太郎	渡邊三郎	浦野倉二	小野田貞次郎	柳 謙次	佐野光作	澁谷國六	白鳥 雄	宿本政雄	瀧澤辰五郎	井田留三郎
柴田榮一	母家爲	田中雅治	横瀬 秀	母家竹之介	蜂谷老吉	下平廣太郎	大曾根仙之丞	埴田範平	内藤和市	篠田宇吉	川口竹治	齋藤 誠	多田豊治	中山三郎			

眞篤念記員合組全



- | | |
|---------|-----------|
| 井田留三 浪 | 中山三 浪 |
| 齋野元五 浪 | 冬田豊 管 |
| 高本廻 敏 | 齋 繻 編 |
| 白鳥 敏 | 川口竹 管 |
| 齋谷國六 | 齋田守吉 |
| 齋禮光 弁 | 内 繻 味 市 |
| 時 繻 六 | 伊田禪平 |
| 小禮田貞夫 浪 | 大會 繻 心之選 |
| 齋禮會二 | 丁平 繻 太 浪 |
| 齋 繻 三 浪 | 齋 谷 孝 吉 |
| 高島藤太 浪 | 母 家 竹 之 介 |
| 栗間登八 管 | 齋 藤 表 |
| 齋 繻 元 畏 | 田 中 謙 管 |
| 大出興也 | 母 家 繻 |
| 川口 氏 | 齋 金 太 浪 |
| 長谷川孝吉 | 柴 田 榮 一 |
| 齋 山 八 吉 | |



現幹事長
柴田榮一氏



現會計
井田留三郎氏

組合史編纂者

井田留三郎氏ハ現會計柴田榮一氏ハ現幹事長ヲ担任シ本組合ニ於テ重キヲナセルノミナラス常ニ組合内部ノ親和ニ貢献スル所抄ニセテ吾人カ私カ敬服セルトコロニテ尚ホ今回ハ本組合ガ永年ノ光輝アル歴史ヲ有スルニ拘未ク傳フベキ記録無キヲ惜シニ組合史編纂ノ提案ヲ為セリ果セラレ哉組合長以下組合員各位ノ絶大ナル賛同期セテ集リ皇紀二千六百年ノ記念事業ノ一トシテ好箇ノ企ナルベシト衆議一決セリ然リト雖モ吾人ノ當惑セル果シテ何人カ克クコノ難事業ヲ完遂シ得ルヤテリタリ然レ西君ハ提案者トシテ敢然之ヲ編纂ヲ甘受セラレリ爾未西君ハ東奔西走又席ノ温ルヲ知ラス奮迅ノ努力ハ半歳ニ亘リ實ニ撓ム所多ク今茲ニ其ノ稿成ルヲ見ルニヨク本組合創立以來ノ沿革ヲ詳述シテ餘ストヨクナク記録材料ノ蒐集亦極メテ正鵠ニシテ微ニ入り細ヲ穿キ本組合ノ全貌ヲ明カシセラレタルハ吾人ノ轉々賞賛措ク能ハサル所ナリ加之各組合員カ或ハ卒直ニシテ飾ラザル或ハ又業者トシテノ感懷ヲ述ベラタル各人各様何レモ有益ニテ親和ニ満テタル感想文ヲ集録セラレタル如キハ凡庸ノ企テ及フベキニテ本組合ガ本事業担当者トシテ老練達識ノ士ヲ得タルヲ懌ラフモノナリ茲ニ西君ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表シ聊カ其勞ヲ報スル所以ナリ

昭和十五年七月七日

東京製本機械綴組合

帝國製糸株式會社前東京支店長ノ書翰

昭和十五年八月三十日

總務課長

尾上俊一郎

東京製本機械材料共同購買組合御中

拜啓 貴組合愈々御隆昌の段大慶至極に奉存候

陳者平素は殊の他御無沙汰申上げ何とも御詫びの申上様も無之失禮の段何卒不惡御海容の
程願上候

過日弊社東京營業所長武者小路氏より貴組合が創立十五週年記念を迎へられ候趣拜承仕り
實に光陰矢の如しの至言を如實に痛感仕候

事變下諸種の統制が強化されるにつれ周圍の事情に強要され尻に火がついてからいろいろ

の名目の下に組合を組織し統制に奔命しつつある各種事業界の周章狼狽振を尻目に磐若の基礎のもとに堂々の歩武を進めらるる貴組合の御發展振りは誠に異彩を放つものと慶賀の他無之候

思ふに十数年の昔幹部諸賢の先見の明と是に協力を惜まれざりし組合員各位の熱意に依る處と確信仕候

當時は組合に加入を肯ぜざる製本業者もあり又競争の立場にある製本系製造業者の策動もあり貴組合の失敗は即ち當時の營業所長としての小生經營の失敗であり當時の緊張感を思ひ浮べ感慨無量に有之候

貴組合の年代史に小生の寫眞を御のせ下さる由武者小路氏より承り候得共小生としては單に御助力申上げるに止まり何の御役にも立ち居り不申候に付御達慮申上げるが穩當かと愚考仕候

茲に謹而御厚意に謝すると共に貴組合の益々御隆盛ならん事を御祈申上候 敬具

昭和二年

初代組合役員



長合組副代初
氏丞之仙根曾大



長合組代初
氏郎太廣平下



昭和二年度役員

組合長	下平廣太郎
副組合長	大曾根仙之丞
會計	田中雅治
幹事	蜂谷虎吉
〃	母家竹之介
〃	川口竹治
〃	横瀬秀
〃	内藤和
〃	篠田吉
〃	平川廣雄



獻第壹貳〇叁號

受納書

一、愛國第四(天目)戰鬥機一部
價格金壹百五十圓也
右受納候也

昭和十二年九月二日

陸軍大臣 杉山

元

東京製本機械綴組合
代表 下平廣太郎 啟



愛國機獻納

我組合ハ支那事變
勃發スルヤ直ニ下
平廣太郎氏ヲ始メ
母家竹之介、蜂谷
虎吉、内藤和市、
浦野倉二氏ヲ代表
トシテ陸軍省ヲ訪
問愛國機作製ノ一
部ヲ献金ナス

事 業 史

一、大正十四年ヨリ組合設立ニ着手

一、昭和二年六月東京製本機械綴組合ヲ創立ス

一、組合看板ヲ調製シ各員ニ配備ス

横三寸五分

東京製本機械綴組合

綴組
合印

縦一尺三寸八分

一、東京製本機械綴組合規約制定ス

吾々が人生ニ處シテ將來進ムベキ方針ヤ辿ルベキ目標ヲ立テルニハ先ヅ過去ヲフリ返リ現在ヲ

顧ミソレカラノ考慮ヲ基礎ニ置テ未來ヘノ確立ガ期セラレルノデアアルマイカト思フ。

然ラバソノ過去ノ正シイ記録ヲ文献ノ上ニ殘シテ置クコトハ單ニ既往ノ變遷推移ヲ知ルコトニ

トマラズソレ等ノ事蹟ヲ後世ニ傳ヘテ後進者ノタメニ貴重ナ多クノ「參考資料」ヲ提供スル

ノモ亦先輩ノ社會的責務トモ信ズル者デアル。

故ニ本組合ガ産聲ヲ揚ゲタ時産婆役トモ云フベキ初代正副組合長下平廣太郎氏大曾根仙之丞氏

會計田中雅治氏幹事峰谷虎吉氏母谷竹之介諸氏ノ努力ニヨツテ作リアゲラレタ組合規約ヲ其儘

ニ掲載ス

編 者

東京製本機械綴組合同規約

- 第一條 本組合ヲ東京製本機械綴組合ト稱ス
- 第二條 本組合事務所ハ組合長宅ニ置ク
- 第三條 本組合ハ相互ノ親睦ヲ圖リ製品ノ改善並ニ製本業者ノ機關トナリ共存共榮ヲ計ルコト
- 第四條 本組合員ハ東京市内並ニ隣接町村内ニ於テ同一業ニ従事スル者ヲ以テ組織ス
- 第五條 本組合内ニ左ノ役員ヲ設ケ任期ヲ滿一ケ年トシ無報酬トス
組合長 一名 副組合長 一名 會計 一名 役員若干名トス
- 第六條 本組合員以外ニ新タニ開業シタル者ハ必ス入會ヲ獎メ會員ト爲スコト若シ入會ヲ拒絶シタル場合ハ組合維持保護ニ必要ナル凡ラユル方法ヲ講ジ飽迄對抗競争シ以テ組合ノ權威ヲ内外ニ知ラシムルコト
- 第七條 本組合員ハ一定ノ協定賃率(別表ノ通り)ヲ確守スルコト
- 第八條 本組合員ハ相互ニ仕事ノ融通緩和ヲ圖ルコト(賃率別表ノ通り)
- 第九條 本組合員ハ工賃未拂ノ爲メ迷惑ヲ蒙リ且ツ同業者ニ累ヲ及ボス如キ場合ハ未然ニ未拂者ノ氏名住所ヲ組合ニ通知シ組合ハ直チニ組合員一般ニ通知シ通知ヲ受ケタル組合員ハ絶對ニ其仕事ヲ爲サバルコト又申告者ハ未拂金ノ解決シタル場合ハ直チニ組合長ニ報告ヲ爲スコト若シ此ノ場

合他人ノ名儀ニテ仕事ヲ出シタル事ヲ發見シタル場合ハ名儀貸人ニ對シテモ同様ノ方法ヲ講ズルコト萬一違反シタル者ハ第一者ノ損害ヲ辨償スルコト

第十條 本組合員ハ組合維持費トシテ毎月金一圓宛ヲ納ムルコト尙基金トシテ機械一臺ニ付キ金拾五錢宛ヲ毎月納付スルコト、組合ノ殘餘金ハ郵便局預金ノコト(基本金ノ徵收ハ昭和二年七月ヨリトス)

第十一條 本組合ハ年二回(一月、六月)總會ヲ開キ尙緊急ヲ要スル場合組合長ハ總會又ハ役員會ヲ開クコトヲ得

第十二條 本組合ハ絶對ニ使用人ノ爭奪ヲ爲サバルコト若シ組合員中使傭人ヲ不都合ニヨリ解雇シタル場合ハ其事情ヲ組合ニ通知スルコト

第十三條 本組合員中ニテ熟練工ヲ新タニ雇傭セントスルトキハ必ズ前雇主ヲ調査シ一應照會ヲ爲シ承諾ノ上ニ非ザレバ雇ハザルコト、但シ在勤中何等不都合ノ行爲ナク本人ノ意思ニ依リ轉勤ヲ希望スル場合ハ雇主ハ不合理ニ拒ムコトナク本人ノ自由ヲ尊重スルコト

第十四條 本組合員ニシテ火災又ハ不可抗力ニ依リ委託セラレタル印刷物ヲ燒失破損セル場合一切其ノ辨償ニ應ゼザルコト

第十五條 本組合員ニシテ火災ニ罹リタル時ハ見舞金トシテ金壹百圓也ヲ組合ヨリ贈呈スルコト

第十六條 本組合員ニシテ家族ノモノニ幸不幸アリタル場合ハ戸主、妻、嗣子ニ限り金拾圓也ヲ祝儀又ハ弔

慰金トシテ贈呈スルコト

第十七條

本組合員ノ戸主病氣ニテ一ヶ月以上入院シタル場合ハ金拾圓也ヲ見舞金トシテ贈呈スルコト
但シ以上ノ祝、弔慰金及ヒ見舞金ニ對シテハ一切返禮ヲ爲サズルコト

第十八條

本組合ハ使傭人獎勵ノ目的ヲ以テ左ノ條項ニ該當シタル者ニ對シ毎年一回(一月)總會ノ協賛ヲ
得表彰スルコト

一、女工 滿三ヶ年勤續者ニシテ品行技術共ニ他ノ模範トナリ雇主ノ申告ニ依リ組合又適當ナ

リト認メタル場合賞狀ニ指輪一個ヲ添へ贈與スルコト尙五年、七年ト二年ヲ増ス毎ニ夫々

適當ナル方法ニヨリ表彰スルコト

一、男工 滿五ヶ年勤續者ニシテ品行、技術共ニ他ノ模範トナリ得ル者ニシテ雇主ノ申告ニ依

リ組合又適當ナリト認メタル場合賞狀ニ時計一個ヲ添へ贈與スルコト尙二ヶ年ヲ増ス毎ニ

夫々適當ナル方法ニ依リ表彰スルコト

第十九條

本組合員ニシテ前各項ニ違反シタル行爲アリタル場合ニ違約金トシテ金壹百圓ヲ組合ニ納ムル
モノトス

東京製本機械綴組合

組 合 役 員

組合長 下平廣太郎

副組合長 大曾根仙之丞

會計 田中雅治

幹事 (イロハ順)

同 蜂谷虎吉

同 母家竹之介

同 川口竹治

同 横瀬秀

同 内藤和市

同 篠田宇吉

同 平川廣雄

組合員住所氏名並ニ昭和二年六月現在使用機械數

(イロハ順)

神田區表神保町十番地

飯塚一郎 (二臺)

京橋區木挽町二丁目十三番地

蜂谷虎吉 (四臺)

京橋區木挽町一丁目十一番地

針田信一 (一臺)

神田區永富町一番地

原音松 (一臺)

神田區皆川町五番地

細野作藏 (二臺)

神田區旭町一番地

大曾根仙之亟 (八臺)

牛込區新小川町三丁目十九番地

母家竹之介 (四臺)

(電話牛込四九一八番呼出)

(電話神田一二四二番)

神田區猿樂町二丁目二番地

川島梅吉 (二臺)

(電話神田二四四八番呼出)

京橋區木挽町一丁目十一番地

川口竹治 (六臺)

京橋區南八丁堀二丁目十一番地

川口尹 (二臺)

神田區三崎町三丁目百三十九番地

横瀬秀 (四臺)

(電話九殿二八二六番呼出)

神田區表獲樂町二番地

田中雅治 (六臺)

(電話神田二九〇六番呼出)

神田區表神保町十番地

田中喜作 (二臺)

(電話神田一七一七番呼出)

神田區富永町一番地

内藤和市 (三臺)

(電話神田九三九番呼出)

京橋區新富町一丁目一番地

栗間登久治 (二臺)

小石川區諏訪町十三番地	手塚登 (三臺)
小石川區戸崎町四十五番地	佐藤久吉 (三臺)
牛込區山吹町二丁目百四十六番地	齋藤辰三 (二臺)
京橋區新富町三丁目一番地	篠田宇吉 (四臺)
神田區猿樂町二丁目十五番地	平川廣雄 (四臺)
神田區猿樂町二丁目四番地	下平廣太郎 (七臺)

(電話神田三七三二番呼出)
(電話神田二四四八番)

下平廣太郎氏

本組合ノ創立者タリ機械綴業ノ搖籃時代組合ノ必要ナル所請ヲ主唱シ或ハ各業者ヲ訪問シ勸誘ニ勉メ自費ヲ投ジ組合員ヲ表示スル看板ヲ作製配布スル等其ノ熱意ト努力ハ吾人ノ常ニ感激スル所ナリ爾來十有五年間之ガ育成ニ不斷ノ努力ヲ續ケラレ終始一貫本組合ノ爲メ貢獻セラレタルコトハ他ニ比スベクモナク既ニ組合長ニ就任セシコト五回ニ及ビ如何ニ組合員ノ信賴厚キカヲ證スルニ足ルベク同氏が組合長トシテノ功績亦枚舉ニ暇アラズ雖其ノ最タルモノハ購買組合ノ創設ニ盡碎セラレ帝國製糸株式會社ト購買ニ關スル特約契約ニ盡シ以テ今日ノ飛躍發展ヲ見ルニ至レルハ燦トシテ本組合史ニ永ク其ノ功ヲ傳フルモノナリ

感謝状

貴下ハ當組合創立ニ際シ日夜東奔西走良ク之ヲ完成シ一度選バレテ組合長トナルヤ專念組合ノ爲メ盡瘁シ再留任良ク今日ノ隆昌ニ導ク之實ニ君ニ負フ處甚大ナリ
 今回組合長ヲ辭セラルルニ際シ永ク其ノ功績ヲ傳フベク茲ニ銀盃壹組ヲ贈呈シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和參年貳月十五日

東京製本機械綴組合

組合長 大曾根仙之丞

下平廣太郎殿

役歴

昭和元年	組合長
昭和四年	顧問
同 五年	組合長
同 七年	組合長
同 九年	相談役
同 十一年	組合長
同 十三年前期	相談役
同 十三年後期	組合長
同 十四年	顧問
同 十五年	材料購買組合理事 長

略歴と感想

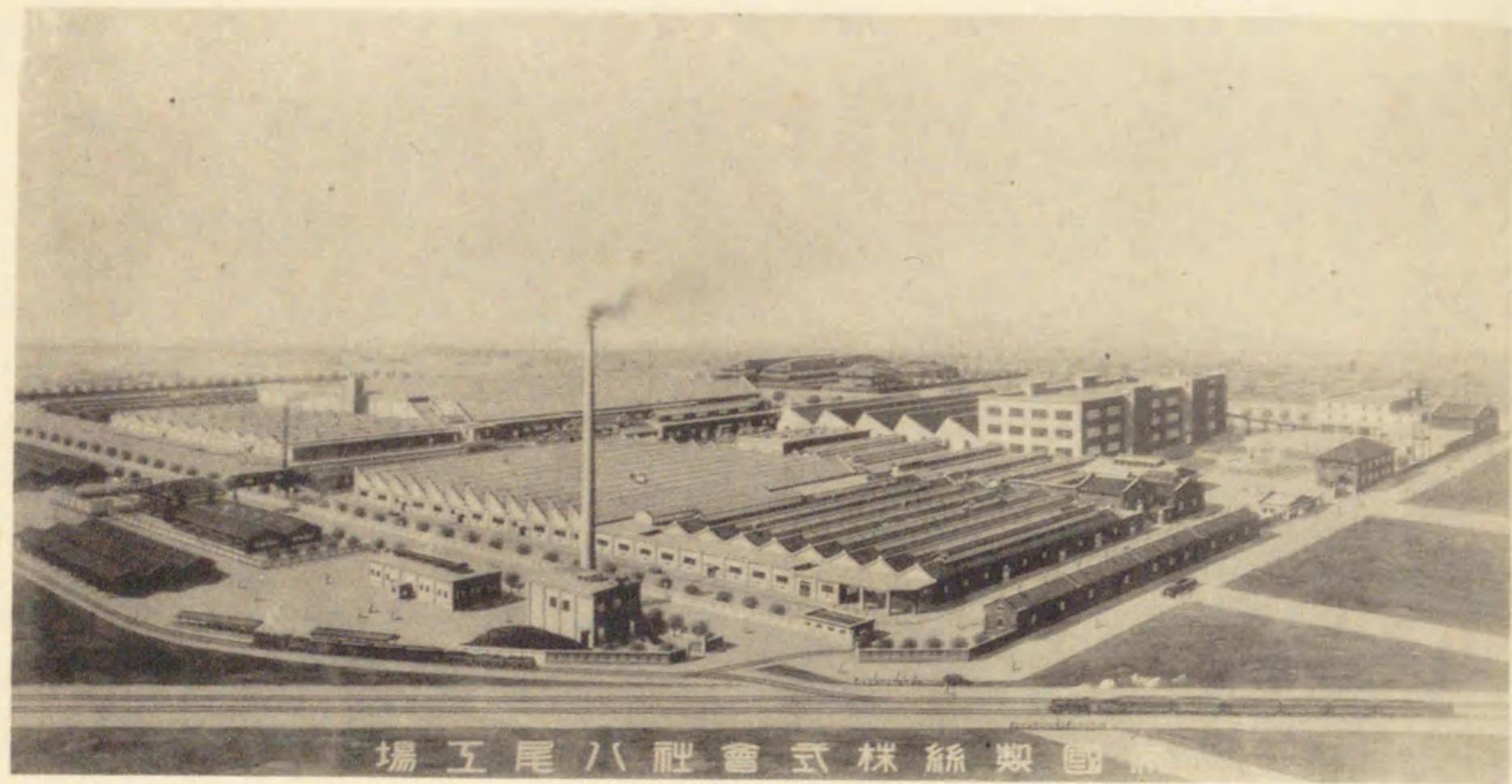
下平廣太郎

明治元年五月二十日岐阜縣益田郡小坂町大字長瀬區に生る、農業の傍ら材木業を營んでゐました。志を立て明治卅八年九月廿五日上京し、神田區新銀町に居を構えた、其の後木材の賣込御得意の開拒に奔走したが大戰後の不況に初志と違ひ、止を得ずコツバ屋を初め營む事二年有餘、神田區表猿樂町二番地に轉居して傍ら家内の内職として製本手綴を初める、綴本業で今日あるのも三十五年前の手綴内職からである。

大正二年神田大火災に類焼し現住所神田區猿樂町二丁目一番地に移轉し業を繼續す、其の中でも大正七八年頃の出版部數は歐洲大戰で好況の爲かなり多かつた、箱車で附近はもとより遠くは小石川の永川下まで運んで依頼したものだ。

大正十年秋たま／＼我が製本界の先覺者山縣氏により製本系綴機械を輸入し運轉使用中と聞き一度同工場に見聞して、其能率的な事仕上が大變奇麗な點等見極め、近く綴機械時代になると考へ早速／＼當時輸入先たるエル、レイボルド商館に綴機械の註文をなし十一年春開業し、續い

業創年八十二治明



途 用

軍 手 縫 用
 ミ シ ン 用
 製 本 用
 足 袋 用
 メ リ ヤ ス 用
 一 般 工 業 用

主 要 製 品

日ノ出印
 金 鍵 印
 ラ ケ ッ ト 印
 旗 日 印
 朝 日 印
 櫻 花 印

社 會 式 株 絲 製 國 帝

(内ルビ斯瓦)目丁五町野平區東市阪大

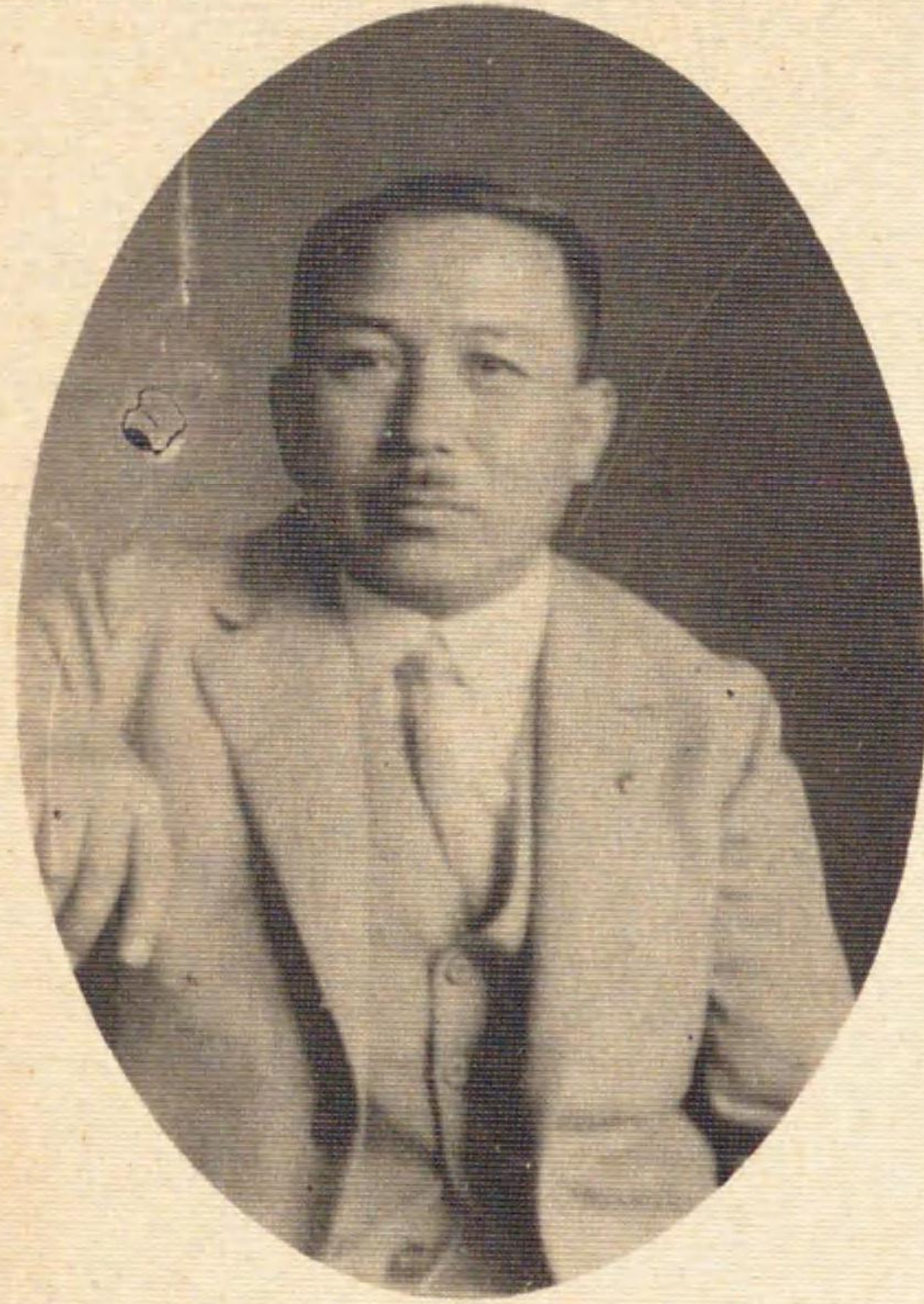
社 會 式 株 賣 販 糸 夕 力 國 帝

(内ルビ斯瓦)目丁五町野平區東市阪大
 (内ルビ馬傳)二町馬傳大區橋本日市京東

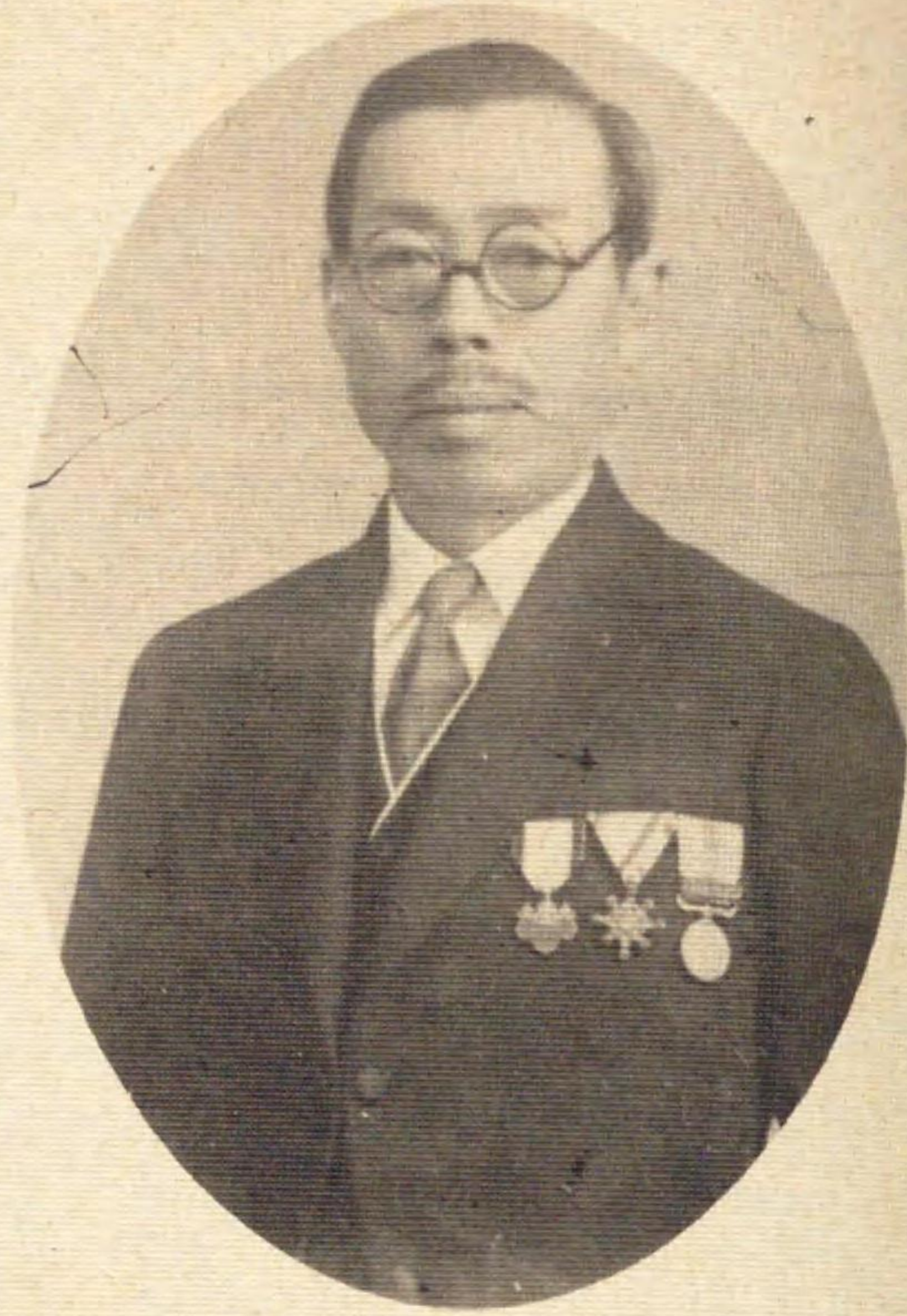
て一臺増設す、業に熟練した時偶々關東大震災に罹災した、何如とも致し方なく焼跡に文字通り
 の小屋を建て同年末頃より綴本あり手綴を以つて補ふ、大正十三年春池袋加藤製作所に焼機
 械の修理を依頼し再び機械綴を開業す、大正十四年末より圓本大洪水時代が來り各業者共に多
 忙を極め機械の増設新規業者の開業等同業者は相當多數になつた。
 兼て業者の大動團結、綴料金の協定相互の親睦と福利増進を圖る爲組合を組織すべく考へてゐ
 たので、母家、蜂谷、大曾根氏等と語ひ遂に大正十五年九月本組合の創立を見るに至つた、以
 來淺學菲才を省す選ばれて再度組合長の職を汚しつゝ今日此の隆盛なる我綴組合と生長したの
 も歴代組合長の御努力と組合員一同和信協力の賜と信じます。
 自分は開業當時此の仕事は必ず文化の向上と並行して出版物は増加すると確信を以つてゐたが
 はたせるかな業者一同夜に日に忙殺されてゐる、時に我が日本が聖戰四年新東亞建設と亞細亞
 の盟主として一大躍進途上にあるとき益々業界は繁忙を極める事と思ひます。
 皇紀二千六百年の輝しき年が我が組合の創立十五週年に相當し今日組合史編纂に努力せられた
 井田、柴田兩氏に感謝すると共に勞を謝し私の思ひ出と致します。

昭和三年

二代組合役員



長合組副代二
氏治雅中田

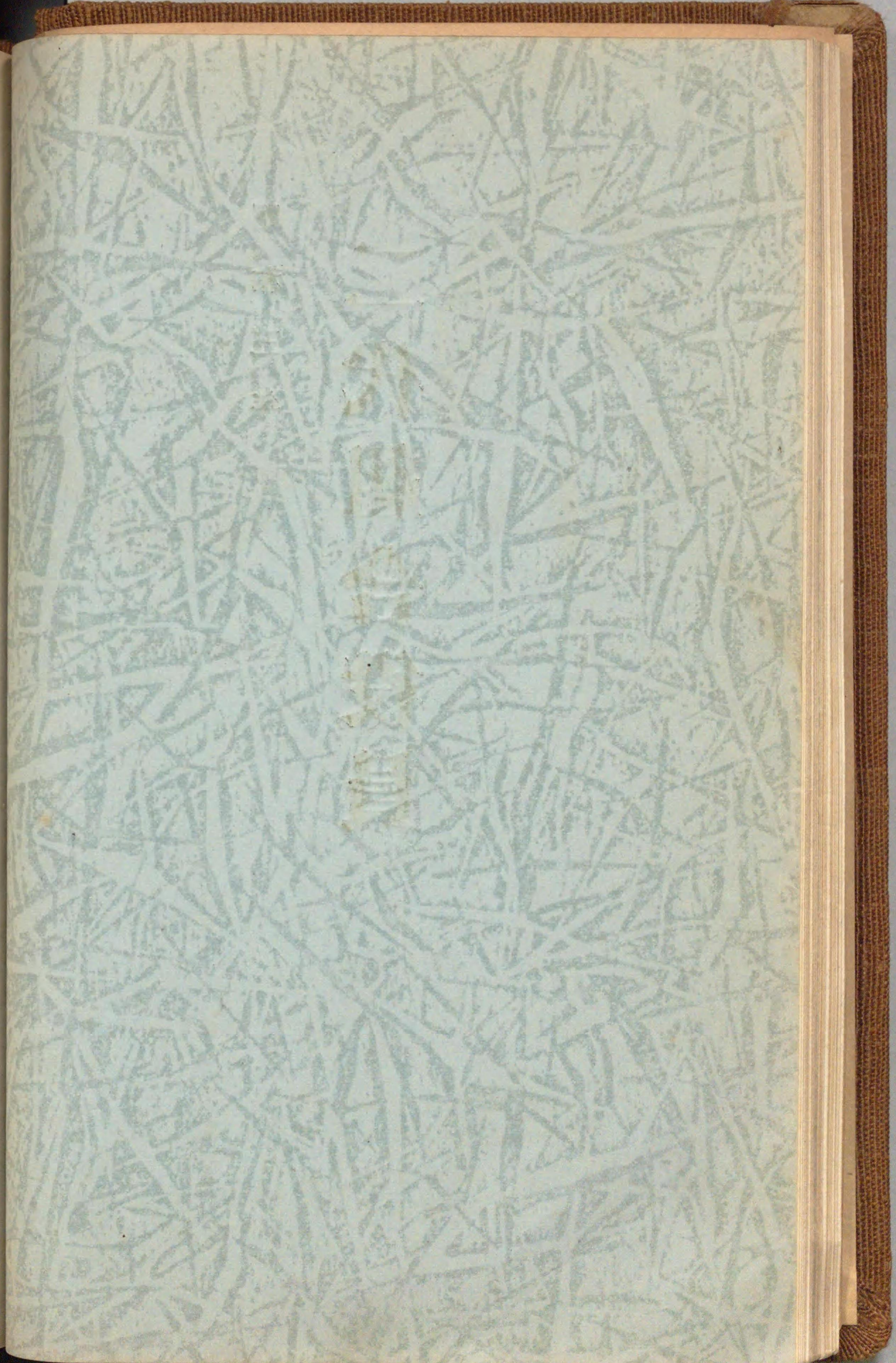


長合組代二
氏丞之仙根曾大



昭和三年度役員

組合長	大曾根仙之丞
副組合長	田中雅治
會計	母家竹之介
幹事	蜂谷虎吉
"	篠田宇吉
"	川口竹治
"	内藤和市
"	横瀬和秀
"	平原喜松
"	平川廣雄



事 業 史

昭和四年一月十日牛込區築土八幡前梅月ニ於テ定時總會及ビ新年
宴會ヲ開催ス出席者二十三名各工場ノ徒弟三年勤績ノ表彰式ヲ行
フ女工四名、男工二名、計六名徒弟表彰式ハ本回ヲ以テ矯失トス

一、京橋、神田、小石川ニ支部ヲ設置ス

一、昭和五年四月二十五日購買組合創立ス

一、同購買組合長ニ大會根仙之丞氏ヲ推選就任ス

感謝狀

貴下ハ創立當初ヨリ本組合ノ爲メ勤カラズ盡瘁セラレ衆望ニ應ジテ副組合長トナリ次イデ組合長ノ要職ニ立ツヤ至誠以テ斯界ノ發展ト同業者ノ福利増進ニ貢献セラル、所頗ル大ナリ特ニ昨今財界ノ不況ハ業界ヲ苦境ニ陥ラシメタルモ組合長ノ指導宜シキヲ得タルタメ今日ノ隆昌ニ至ラシメタル功勞ハ組合員ノ齊シク感荷措ク能ハザル所ナリ仍ツテ今回其ノ職ヲ辭セラル、ニ際シ銀盃一組ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

昭和四年二月二十五日

東京製本機械綴組合

大曾根仙之丞殿

役歴

昭和元年	副組合長
三年	組合長
四年	顧問
五年	購買組合長
七年	顧問
十五年	組合長

大曾根仙之丞氏

本組合創立ノ功勞者ニシシ初代副組合長トナリ組合中識見高ク人望亦厚ク定款ノ制定事務ノ整備等名實共ニ本組合ノ重鎮タリ、同氏ハ小石川、京橋、神田等ノ支部創設ニ盡シ業務ノ簡省ト地域的結果ヲ計リ同氏が第二次組合長タルニ及ビ購買組合ノ缺クベカラザルヲ主唱シ昭和五年漸ク之レガ成立ヲ見ルニ至リ初代購買組合長ニ就任ト同時ニ帝國カタン株式会社ト綴糸購買ニ關スル特約的契約ヲ締結シ組合ノ經濟基礎ヲ作レリ、今回日支事變ニ際シ逸早ク綿糸ノ統制ニ會ヒタルモ購買組合十有餘年ノ經歷ヲ當局モ認メ配給資格ヲ獲得シ以テ組合員ガ今日尙綴糸ニ對シ不安無キハ同氏ノ功績思フヤ切ナリ今ヤ興亞ノ大業ニ貢献セントスルニ當リ現組合長トシテ組合ノ劃期的繁榮ヲ斯シ努力シツ、アリ

略 歴

大曾根仙之丞

- 千葉縣夷隅郡出身、明治十四年八月二十四日生
- 明治二十八年三月中根村尋常高等小學校高等科卒業
- 同 二十八年四月同郡東村集義學校豫科ニ入學
- 同 三十三年三月同校本科卒業
- 同 三十五年十二月徵兵トシテ旭川ニ入隊
- 同 三十七年十月出征日露戰役ニ從軍
- 同 三十九年原隊へ歸隊ト共ニ除隊
- 同 三十九年七月上京ペートル合資會社ニ倅職
- 同 四十年七月廣島支店長拜命
- 同 四十二年一月支店長辭職、同年同月廣島市稅務課ニ倅職、同五月辭職
- 同 四十二年五月臺灣總督府會計課ニ倅職
- 大正八年十月本職ヲ辭ス
- 同 十三年五月上京、同九月綴業ヲ開業、中途製本、印刷、出版等ヲナシ見事失敗今日ニ至ル

嗚呼 回顧 六十年 述懷

六十歳をむなしく過ぎし我身なりいまよりさみと國とに盡さんと思ふ

「オンキカ」ハハハ

感 想

大曾根仙之丞

茲ニ皇紀二千六百年奉祝紀念ノ一端トシテ本組合史ノ編纂ノ衝ニ當リ日夜非常ナル努力ヲ續ケラレ初期ノ豫想ヨリ幾倍シタ精細緻密ナル組合史ヲ完了セラレタル井田、柴田兩氏ノ苦心ト努力ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表スルト共ニ過去十五ケ年間ノ感想ヲ元ヨリ文學ヲ解セザル故文章ニ銜ハズ率直ニ聊カ述べサセテ頂キマス抑モ第一ニ感想トシテ自分ノ頭ニ浮ビマス事ハ本組合ガ普通一般組合ニ比シ鞏固團結シ居ル事ハ自他共ニ疑ハザル處デアリマスガ此クモ融合團結シタル基因ハ勿論先輩諸士ノ努力ト一般組合員ノ先見ノ明アリシ賜ト確信スルノデ有リマスガ其ノ第一ハ購買組合ヲ逸早ク創立セシメタル事ハ與カツテ力多イ事ト思ヒマス自分ガ二代目組合長ノ席ヲ汚シタル昭和三年ハ組合費金壹圓機械壹臺ニ付キ金拾五錢ヅ、徵收シ居リタルモ組合創立日尙ホ淺キ爲メ會合等頗ル多ク殆ド會費ノ餘裕等無ク昭和四年一月初メテ勤續三年ノ徒弟ヲ表賞セシ時ハ組合員ヨリ宴會費金五圓表賞スル徒弟ノ雇主ヨリ一人ニ付キ金五圓ヅ、徵收セネバ成ラヌ状態ニテ雇主ヨリ徒弟ヲ表賞サレテ有難迷惑等ト多少ノ不平ヲ耳ニセリ此カル事ガ所謂ル組合ノ威信ヲ失墜シ引ヒテハ脫會トカ或ハ有名無實ノ組合ニナリ勝チナレバ何トカ組合ノ維持費ダケモ材料ニ依リ獲得シ同時ニ材料ニ依リ組合ノ統制ヲ取ル方法無キヤト先

輩諸士ト種々協議ノ結果或ル人ガ吾々ノ使用スル糸ヲ製造スルト聞キ早速其人ヲ呼ビ尋ネタルニ其レハ必ズ作ルガ相當ノ資金ヲ要スル故組合ニ於テ應分ノ補助セラレタシト申サレシモ前述ノ通り組合ニ餘裕ナキ爲メ下平氏母家氏蜂谷氏ト共ニ一人金壹百五拾圓ヅ、據出シ計金六百圓ヲ補助シタルモ仲々六ヶ敷キ糸故遂ニ失敗ニ歸シ聊カ悲觀狀態ニ陥リタルモ所謂ル不撓不屈愈々今度ハ帝國カタン糸株式會社當時ノ支店長尾上俊一郎氏ニ(目下大坂本社詰)圖リタルニ同氏ハ深ク本組合ノ立場ヲ諒トセラレ接洽數回ニシテ組合員外ノ綴屋ニハ現金ニテモ絶體賣ラヌ事組合ニ對シテハ配給並ニ集金ノ名ニ於テ綴糸壹個ニ付キ金八錢壹折金九拾六錢ヲ割戻シ吳ル、等々相互的堅實ナル契約ヲ締結シ漸ク此處ニ於テ組合ノ資力ハ一躍ニシテ豊富トナリ其ノ後多少割戻金ハ減ジタルモ尙ホ餘裕綽々トシテ組合ノ整備ニ徒弟ノ表賞ニ或ハ慰安會等々他ノ組合ノ遠ク及ザル事ヲ致シツ、然モ材料ニ依リ充分ナル統制ヲ取リ來ツタ事ハ偏ニ購買組合ノ力ニシテ現在ニテモ僅ノ組合手数料ヲ多トスル者有ルヲ耳ニ致シマスガ其レハ甚ダ認識不足ト申サネバナリマセン個人トシテ購入セバ勿論配給券ヲ持チ行キ打金拾六圓乃至拾六圓貳拾錢支拂ハネバ成ラヌ事ヲ考ヘネバ成ラヌト思ヒマス然シテ此ノ購買組合ニ共鳴サレ一方ナラヌ盡力致サレタ帝國カタン糸株式會社前支店長尾上俊一郎氏及ビ現支店長武者小路氏、兒玉氏等ノ尠カラザル援助ニ依リ今日ニ至リタル事ハ特ニ組合史ニ明記シ本組合ノ存續スル限リ購買機構等ノ如何ニ拘ラズ永久ニ吾々ハ忘レテハナラヌ事ト思ヒマス

其レト今一ツハ深川ノ鈴木鐵工場主鈴木氏デアリマス同氏ハ吾々業者ガ最モ幼稚ナリシ頃己ニ綴機ニ趣味ヲ持チ從テ精通セラレ居リ震災ノ爲メ飴ノ如ク成リ居リシ綴機ヲ幾十臺ト無ク修繕セラレ當時貧弱ナリシ吾々業界ヲシテ一躍手續ヲ捲土セシメ機械綴リニテ大量ノ得意ノ要求ヲ滿タスマデノ氏ノ献身ノ努力ハ眞ニ枚擧ニ逞アラズト言フベク個々ノ關係ハ別トシ吾々業界ニ盡サレタル功績ハ偉大ナリト言フベク故ニ綴機ト申セバ鈴木氏鈴木ト申セバ直グ綴機ト申ス如ク聲價ヲ得信望益々擧ガリ日本一東洋一ノ名人ト謠ハルルモ決シテ誇大ナラザルベク兎ニ角吾々業界ノ隠レタル恩人デアルト想フ其レカラ此レハ感想ト申ヨリ寧ロ希望デアルガ所謂ル社業界業界ヲ通ジ今ヤ日進月歩ト申ス事ハ己ニ後レ刻々ニ改善セラレ刻々進歩シツ、アル事ハ日支事變ニ付ケテモ亦歐洲戰亂ニ鑑ミテモ明瞭デアル、然ルニ吾々業界ハ組合創立以來己ニ十五年自分ガ開業以來早十七年ニ成ルモ一冊ノ分冊スルニ初メハ殼踏ミセズ見返シノ處ニ糊付ケ致シ居リタルカ殼踏ミヲ入レ糸ヲ切ルダケ分冊出來ル様ニ成タダケガ過去十七八年間ノ改善進歩デアル事ヲ考ヘルト甚ダ心細イ次第デアル自分ノ理想トシテハ何トカ考案シテ吾々ノ機械ヲ自動的ニ働カセテ見タイト思フ亦其レマデ行カヌ共組合員及ビ工員ノ頭ヲ擢リナバ幾分ニテモ能率増進ノ餘地アルベク工員デモ組合員デモ縱令ヘ少シノ發案デモ發案獎勵ノ意味ニ於テ發案者ニハ表賞狀ト功勞記章ヲ贈リ永ク其ノ人ヲ優遇シタラドウカト思フ此レハ古ヒ大正十四年ノ事デアルガ内藤氏ノ提案デ自分ト二人デ獨逸製ミシン針商綱市商店ニ交渉シ獨逸ノ針會社ヘ見本ヲ付

ケテ送り糸針ノ先ヲエグル事ヲ交渉セシニ流石獨逸ノ會社モ感心シ其ノ後獨逸品ハ全部先ヲエグル事ニ成リ從テ和製モ此レヲ眞似ル事ニ成タガ僅カナ事ナガラ日本而已ナラズ獨逸迄ガ此ノ永イ間糸ノカカリモ能ク從テ針ヲ損ゼザル利益ハ相當莫大ノ額ニ上ルデアラウ然シ偶々此様ナ話題ガ出ルト其レハ私ガ一番早ク知テ居タトカ今春ノ糸ト油ノ件モ其レハ三年モ前カラ知テ居タトカ抑モ其レガ個人主義トナリ組合全體ノ利益ニモ發展ニモナラヌ今ヤ業界モ財界モ變轉極リ無ク近クバ新體制ニ依リ如何ナル機構ニナルカ其ノ豫測モ許サヌ今日愈々吾々組合員ハ堅ク結束シ此ノ難局ヲ打破センニハ私滅奉組合ノ意志ヲ以テ當ル外ナク故ニ今後事ノ大少ヲ問ハズ少シニテモ自分デ良イト思フ事ハ直ニ組合ニ報告シ組合ハ直ニ此レヲ發表シ研究シ行カバ大ニ發展上有益ナラン

未ダ枯木モ山ノ脈ヒトカデ出鱈目デモ書キ序ニ書キ度キ事數々有リマスガ紙ハ統制否高價編者ノ井田氏ニアノ大キナ眼デクルリトヤラレルト恐縮シマスカラ此レニテ筆ヲ止メ終リニ臨ミ組合員各位並ニ他皆様ノ倍々御隆盛ト御健康ヲ御祈リ申マス

田 中 雅 治 氏

本組合創立ニ最モ功勞多ク明快博識ノ士ニシテ初代會計、二代副組合長トシテ組合ノ向上發展ヲ計リ殊ニ組合員ノ信任篤ク愈々同氏ニ期待スル處多カリシニ不幸病ノ爲メ事業ヲ嗣子忠治氏ニ任セ自カラハ靜養ノ爲メ郊外ニ於テ月花詩文ニ親ミ居ラル、ハ組合トシテノ損失大ナリト言フベク然シ其ノ親ニシテ此ノ子有リノ譬ヘノ如ク嗣子亦博識明論家ニシテ一舉一動老人モ遠ク不及誰カ同氏ニ大師様ノ尊稱ヲ呈セルヲ以テ明カナリ始終父ニ代リテ書記長、幹事長等ノ要職ニ就カレ前途愈々囑望サレツ、アリ

感謝狀

貴下ハ創立當初ヨリ本組合ノ爲メ尠カラズ盡瘁
セラレ昭和三年選レテ副組合長ノ要職ニ立ツヤ
至誠以テ業界ノ發展ト福利増進ニ貢献セラレタ
ル功勞ハ組合員ノ齊シク感荷措ク能ハザル所ナ
リ仍ツテ今回其ノ職ヲ辭セラル、ニ際シ花瓶壹
個ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

昭和四年二月二十五日

東京製本機械綴組合

田中雅治殿

略歴

昭和元年	會計
同三年	副組合長
同四年	幹事
同五年	幹事
同七年	幹事
同九年	幹事兼調査委員
同十一年	幹事
同十三年	書記長後期
同十四年	幹事
同十五年	幹事

田中雅治略歴

明治十七年東京府北多摩郡稻城村大丸ニ數代累ル萬屋號醬油釀造業兼荒物商家ニ生ル、小學校卒業後
立教中學ヲ卒ヘテ小石川博文館、大阪商船東京代理店、大阪三菱船舶部等ニ勤務ス、歸京後都新聞社
ニ勤ム、時タマ〜關東大震災ニ遇ヒタルモ幸ヒ社ノ無事ナルニ勤務ノ傍時代ノ要求ヲ察シ近親者ノ
協力ニ依リ神田區表猿樂町ノバラックニ現業ヲ開始シタリ以來幾多ノ盛衰ニ遇タルモ益々業界ノ前途
ニ光明ヲ認メ茲ニ都新聞社ヲ辭シ專念シテ業務ニ當リ、現在ノ地ニ新築移轉シタルナリ
其ノ間同業者ハ日ニ年ニ増加ノ一途ヲタドリ益々業界ノ進展ヲ見、茲ニ同志ト共ニ組合組織ノ必要ヲ
痛感シ幾多ノ難關ヲ經テ結成ニ到ル、偶々昭和八年病ヲ得、全快シタルモ業務一切ヲ子女ニ任セ、板
橋ニ靜養ス、目下工場ノ業績順調ニ進展ヲ見ツツアリ



町田德之助

町田商事株式會社 町田糸店株式會社

綿 絹 絹
 紡 糸 糸
 人 絹 糸
 維 糸 糸
 毛 糸 糸

町田商事株式會社



株式會社 町田糸店

① 町田糸店沿革

株式會社町田糸店ハ元治元年十二月現住所ニ於テ創始シ、屋號ヲ藤田屋ト稱シ糸類ノ製造販賣ヲ以テ業トシ、爾來七十七年ヲ經過セリ。此ノ間堅實ナル營業方針ノ基ニ逐次發展ヲ遂ゲ火災、震災ノ厄難ヲ受クルコト六回ニ及ビシモ其ノ都度發奮益々店礎ヲ固メ大正七年十一月資本壹百萬圓ヲ以テ株式組織ニ改ム、關東大震災後昭和三年十一月起行同四年十一月鐵筋コンクリート五階建現營業所新築落成ト共ニ引移リ店員壹百餘名ヲ數ヘ業態モ卸部、商事部、人絹部、小賣部ト名實共ニ充實シ、糸問屋ノ王座ヲ占ムルニ至レリ、昭和十四年十一月町田糸店ノ營業中卸部、商事部、人絹部ヲ分離シ町田商事株式會社ヲ創立シ内容ノ整備ヲ計リ軍、官廳御用ヲ始メ一般卸、小賣ノ營業ニ從事シ一意誠實、懇切ヲ信條トシ大方諸彦ノ御愛顧ニ報ヒンコトヲ誓願致シ居候

東京市淺草區駒形町一丁目一番地

株式會社町田糸店

社長 町田徳之助
取締役 町田三郎
同 町田利

加ハリ、北米各地ノ商業及工業ヲ視察歸朝ス。

明治四十二年日本織物協會評議員ニ推サレ、大正十年同會理事トナル。

明治二十二年株式會社東京貯藏銀行監査役ニ就任、同二十七年千住馬車鐵道株式會社取締役社長トシテ同社ノ整理ニ當リタル以來、東武鐵道株式會社、東京製絨株式會社、日本メリヤス株式會社、東京毛織株式會社、富士紡績株式會社、日本活動寫眞株式會社、各監査役、株式會社日進銀行取締役頭取富士製紙株式會社取締役等ニ歷任シテ、現ニ左記各會社ノ重役タリ。

東京人造絹糸株式會社取締役會長

東京艶糸株式會社取締役社長

株式會社町田糸店取締役社長

町田商事株式會社取締役社長

東洋パラスト工業株式會社取締役社長

株式會社二徳商會取締役社長

東京貯藏株式會社取締役社長

東京煉瓦株式會社監査役

共益倉庫株式會社監査役

日本纖維工業株式會社監査役

昭和九年九月財團法人町田報徳會ヲ設立シ其評議員兼理事長ニ推サル。

昭和十年八月財團法人池田獎學資金理事ニ就任ス。

昭和十一年財團法人共立女子學園商議員ニ就任シ共立女子專門學校、共立高等女學校、共立女子職業學校ノ經營監事ニ參與ス。

日清戰爭軍事黃海防費献金ノ廉ヲ以テ賞ヲ受クルコト數回。

昭和四年

三代組合役員



長合組副代三
氏吉虎谷蜂

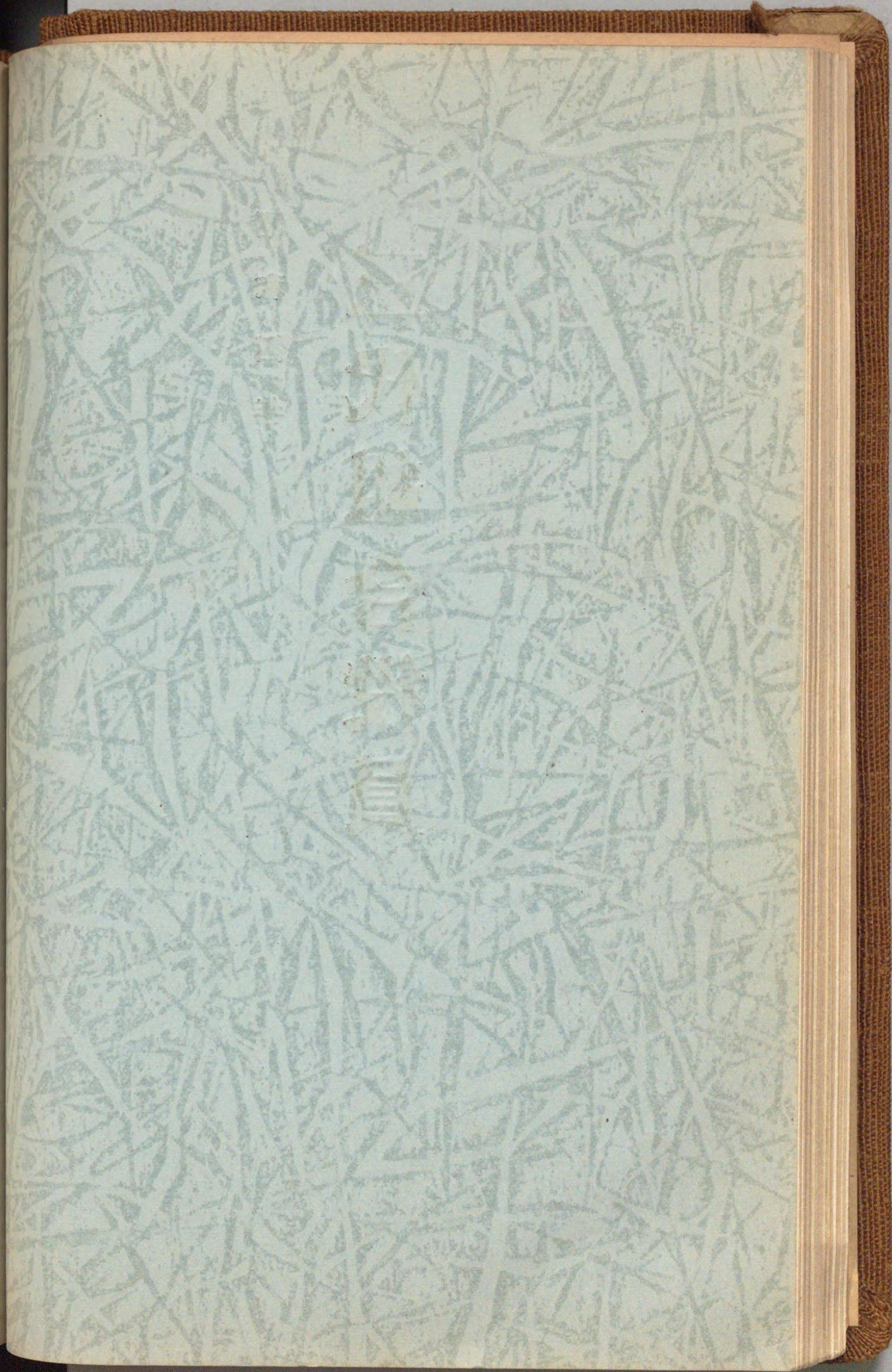


長合組代三
氏分之竹家母



昭和四年度役員

顧問	大曾根仙之丞	下平廣太郎	平川廣雄	川口竹治	篠田宇吉	大出與助	横瀬秀	田中雅治	内藤和市	會計	幹事	副組合長	組合長
												蜂谷虎吉	母家竹之介



事 業 史

一、昭和五年一月十日神田區神保町魚春料亭ニ於テ定時總會及ビ新年
宴會ヲ催ス出席者二十二名、各工場ノ徒弟三年四年勤績者表彰式
行フ女工四名、男工四名、計八名

一、組合旗調製ヲ提案ス

一、購買組合設立ヲ提案ス

一、昭和六年六月十五日母家竹之介、横瀬秀兩氏ハ組合ヲ代表シ商工
省工業試験所ニ至リ金鍵印六十番手續ノ長度試験ヲ申請ス

感謝狀

貴下ハ創立當初ヨリ本組合ノ爲尠カラス盡瘁セラレ衆望ニ應シテ副組長トナリ次イテ組合長ノ要職ニ立ツヤ至誠以テ斯界ノ發展ト同業者ノ福利増進ニ貢献セラル、所頗ル大ナリ特ニ昨今財界ノ不況ハ業界ヲ苦境ニ陥ヲシメタルモ組合長ノ指導宜シキヲ得タルタメ今日ノ隆昌ニ至ラシメタル功勞ハ組合員ノ齊シク感荷措ク能ハサル所ナリ仍ツテ今回其ノ職ヲ辭セラル、ニ際シ銀盃一組ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

昭和五年二月二十二日

東京製本機械綴組合

母家竹之介殿

役歴

昭和元年	幹事
三年	會計
四年	組合長
五年	會計
七年	會計
九年	相談役
十一年	會計
十三年	前期相談役
十三年	後期副組合長
十四年	相談役
十五年	材料共同購買組合 常務理事 顧問

母家竹之介氏

本組合創立ノ功勞者トシテ古來最モ難關ト稱セラル、三代目ノ組合長トナルヤ銳意組合ノ統制ト業界ノ發達向上ニ盡碎セラレ進ンデハ購買組合ノ創設ニ日夜東奔西走常ニ確固タル信念ヲ以テ勇往邁進萬難ヲ排シ昭和五年購買組合ノ成立スルヤ時ノ組合長ト共ニ帝國カタン株式會社ト極力交渉遂ニ特約的契約ヲ完成セリ其ノ功績偉大ナリト言フベク豊カナル人格ト熱誠トハ克ク衆望ヲ擔ヒ本組合ノ重要案件ニハ常ニ同氏ノ協力ニ俟ツ處甚ダ多ク現在顧問トシテ愈々組合ノ發展ニ盡力セラレツ、アリ

母家竹之介略歴

一、明治十六年三月九日茨城縣ニ生レ、同廿九年四月、十四歳ノ折上京、小石川區諏訪町鈴木藥局ニ入店、社會ノ第一歩ニ進ム。

一、明治卅七年日露戰役ニ從軍其功ニヨリ勳八等白色桐葉章及從軍徽章ヲ授與セララル、後鐵道院東京鐵道管理局ニ奉職大正十三年三月辭職。

一、大正十三年四月半込區新小川町ニ於テ製本機械綴業ヲ經營シ今日ニ至ル。

昭和五年
昭和六年

四代組合役員



長合組副代四
氏吉虎谷蜂

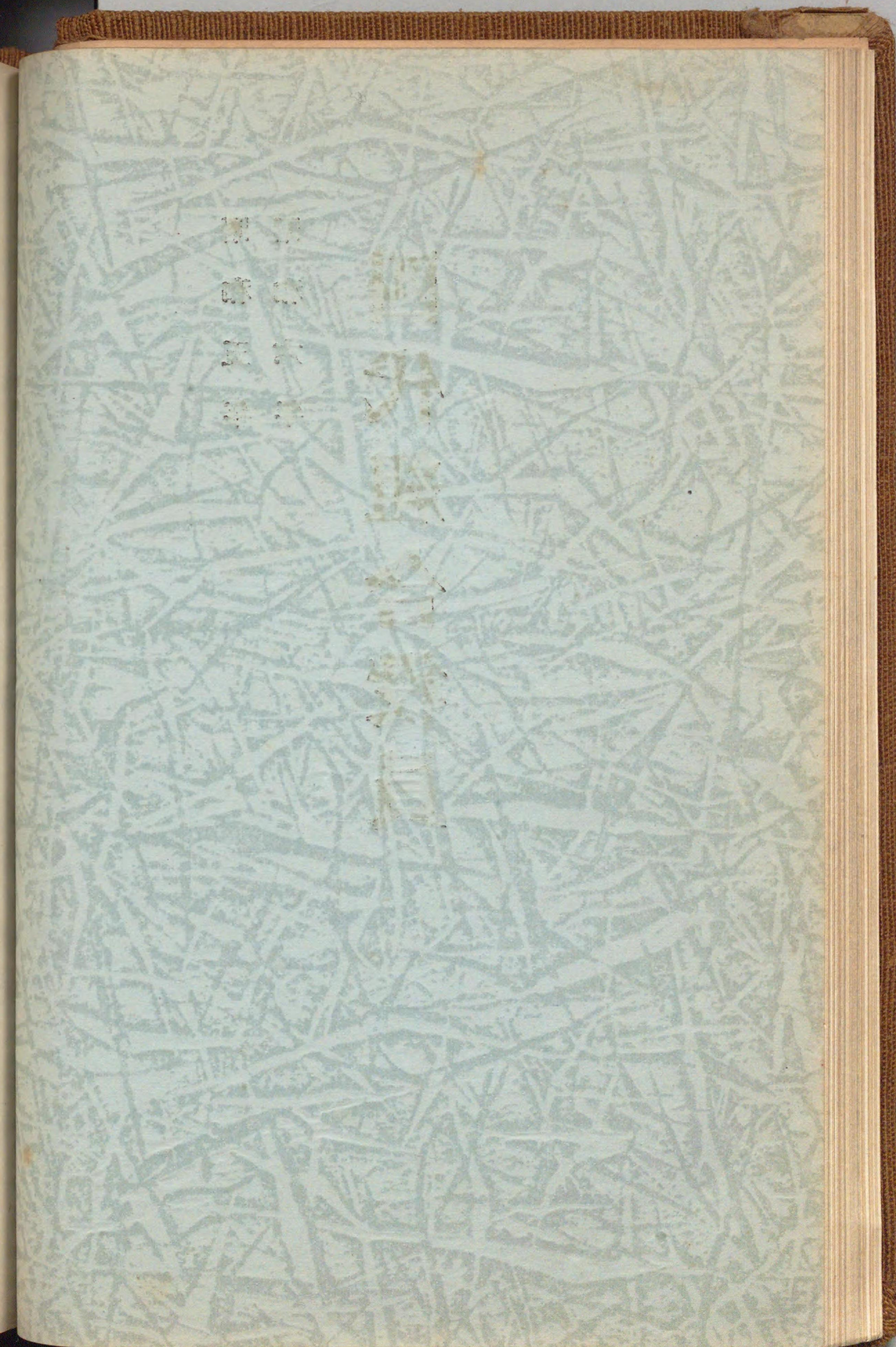


長合組代四
氏郎太廣平下



昭和五年度
昭和六年度 役員

組合長	下平廣太郎
副組合長	蜂谷虎吉
會計	母家竹之介
幹事長	内藤和市
幹事	田中雅治
幹事	横瀬秀
幹事	大出與助
幹事	中山三郎
幹事	川口竹治
幹事	浦野倉二
購買組合長	大曾根仙之丞



・ 事 業 史

一、幹事長ヲ置ク(幹事長ニ田中雅治氏ヲ推選就任ス)

一、組合旗ヲ調製ス

一、組合規約第五條ヲ改正シ役員任期ヲ滿二ケ年トス

一、昭和六年一月十五日芝いけす本店ニ於テ定時總會ヲ開キ各工場徒

弟三年、五年勤績者表彰式ヲ行フ女工十九名、男工一名計二十名

一、昭和六年二月七日前購買組合長大曾根仙之丞氏ノ功勞ヲ謝シ感謝

狀ヲ添ヘ置時計壹個ヲ贈ル

感謝状

貴下ハ本組合創立當時ヨリ組合ノ爲メ尠カラズ
 盡瘁セラレ昭和四年衆望ニ應ジ副組合長ノ要職
 ニ立ツヤ誠意業界ノ發展ヲ圖リ次イデ昭和五年
 再ビ選レテ副組合長ノ重職ニ就キ最モ難關視セ
 ラレタル購買組合ノ創立ニ貢献セラレタル處多
 ク其ノ功勞ハ組合員ノ齊シク感荷措ク能ハザル
 所ナリ仍テ今回職ヲ辭セラル、ニ際シ花瓶壹個
 ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

昭和六年二月二十五日

東京製本機械綴組合

蜂谷虎吉殿

役歴

昭和元年	幹事
三年	幹事
四年	副組合長
五年	副組合長
七年	顧問
十一年	相談役
十三年	前期相談役
十三年	後期幹事

蜂谷虎吉氏

組合創立功勞者ニシテ温厚ナル人格者ナリ組合創立當時ヨリ本組合幹部トシテ盡碎セラレ昭和
 四年副組合長トナリ購買組合ノ創立ニ卒先各員ヲ指導セラレ銳意之レガ創立ニ盡力セラレ昭和
 五年組合ノ成立ヲ見ルヤ帝國製糸株式會社トノ接渉幾十回カ遂ニ本組合ノ經濟的基礎ヲ築キシ
 功勞者ノ一人トシテ其ノ功ヤ燦タリ後顧問相談役ヲ歴任シ本組合ノ長老者タリ

蜂谷虎吉略歴

明治十一年十月二十八日東京市京橋區木挽町九丁目ニ生ル

十六歳―十九歳ニ至ル迄小間物化粧品商ニ從事

十九歳春獨立シテ製本折綴請負業開始ス

明治三十一年十二月 佐倉歩兵第二聯隊ニ現役ニテ入營

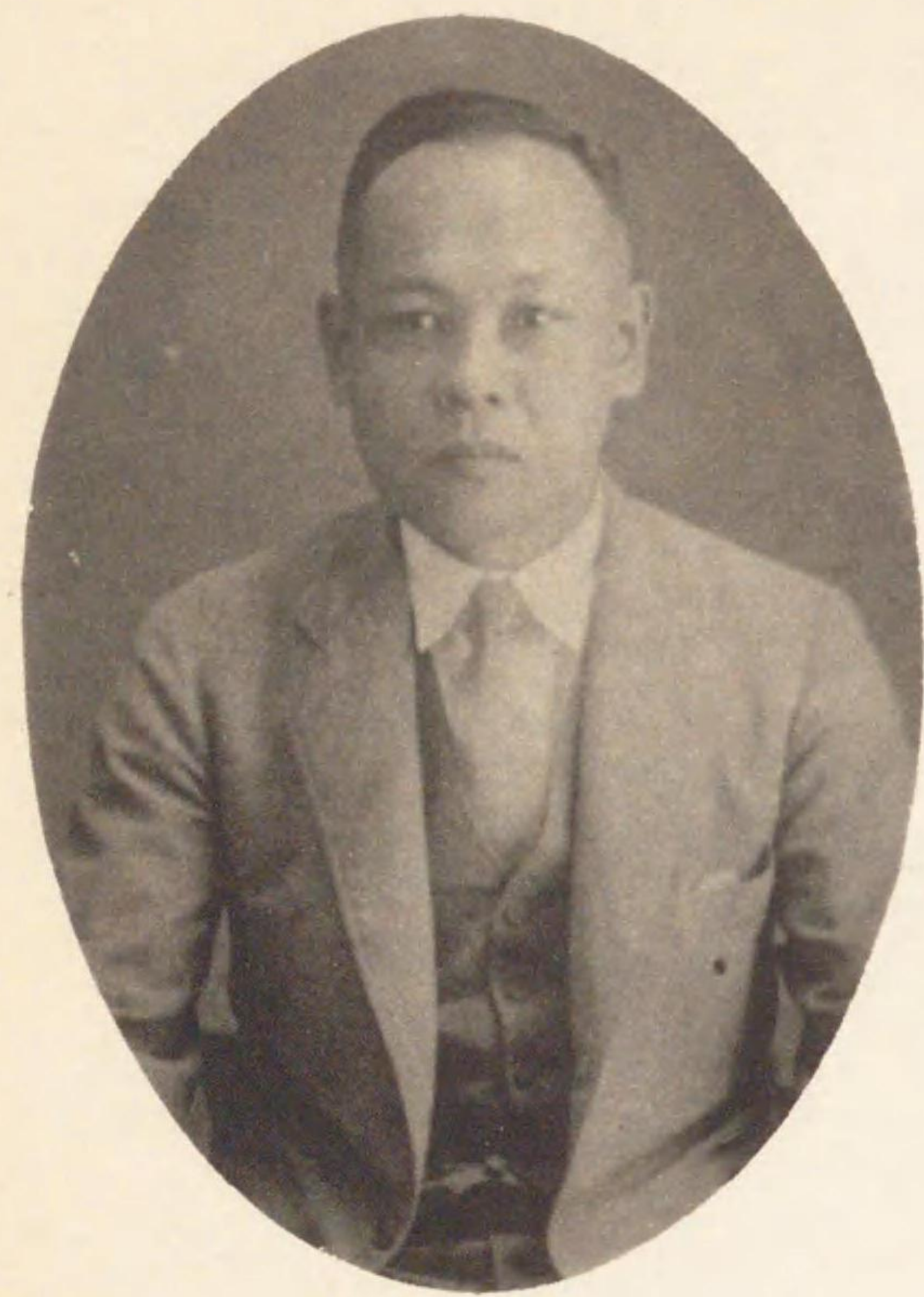
同 三十四年 除隊

同 三十七年 日露戰役ニ出征勳八等白色桐葉章ヲ下賜サル

大正十四年 機械綴本業ニ轉ジ現在ニ至ル

昭和七年
昭和八年

五代組合役員



五代副組長
川口竹治氏



五代組長
山下廣太郎氏



昭和七年
昭和八年
度役員

組長	副組長	會計	幹事長	幹事	調幹	調査	員兼	顧問
山下廣太郎	川口竹治	母家竹之介	横瀬雅治	田中雅治	大出與助	篠田宇吉	内藤和吉	浦野倉二
								增野平
								齊藤誠
								川口三郎
								中山三郎
								蜂谷虎吉
								大曾根仙之丞

昭和七年
昭和八年
度役員

事業史

一、調査員ヲ置ク

一、昭和七年一月十二日小石川大國ニ於テ定時總會ヲ開キ各工場徒弟三年、五年勤績者表彰式ヲ行フ、女工十七名、男工十名、計二十七名

一、昭和七年六月三日熱海温泉玉之井旅館ニ於テ臨時總會ヲ開催ス午後六時出席者二十五名

一、昭和八年一月二十三日小石川大國ニ於テ定時總會ヲ開キ各工場徒弟三年、五年勤績者表彰式ヲ行フ、女工十六名、男工五名、計二十一
十一名

一、昭和八年一月二十三日小石川大國ニ於テ總會ノ決議ニヨリ表彰者ノ勤績年限ヲ男女共ニ五ケ年トス

組 合 旗

一、建國貳千六百年意義ある理想高らかに

國力揚よ事業を伸ばせ

その意氣この意氣吾等の組合旗

二、平和は光る榮へる吾等の文化事業

精神指導の旗風に燃る心は一億一心

その意氣この意氣吾等の組合旗

三、旗風なびく青空高く天をつく凱歌は揚る

誇る名譽勇士を護れ

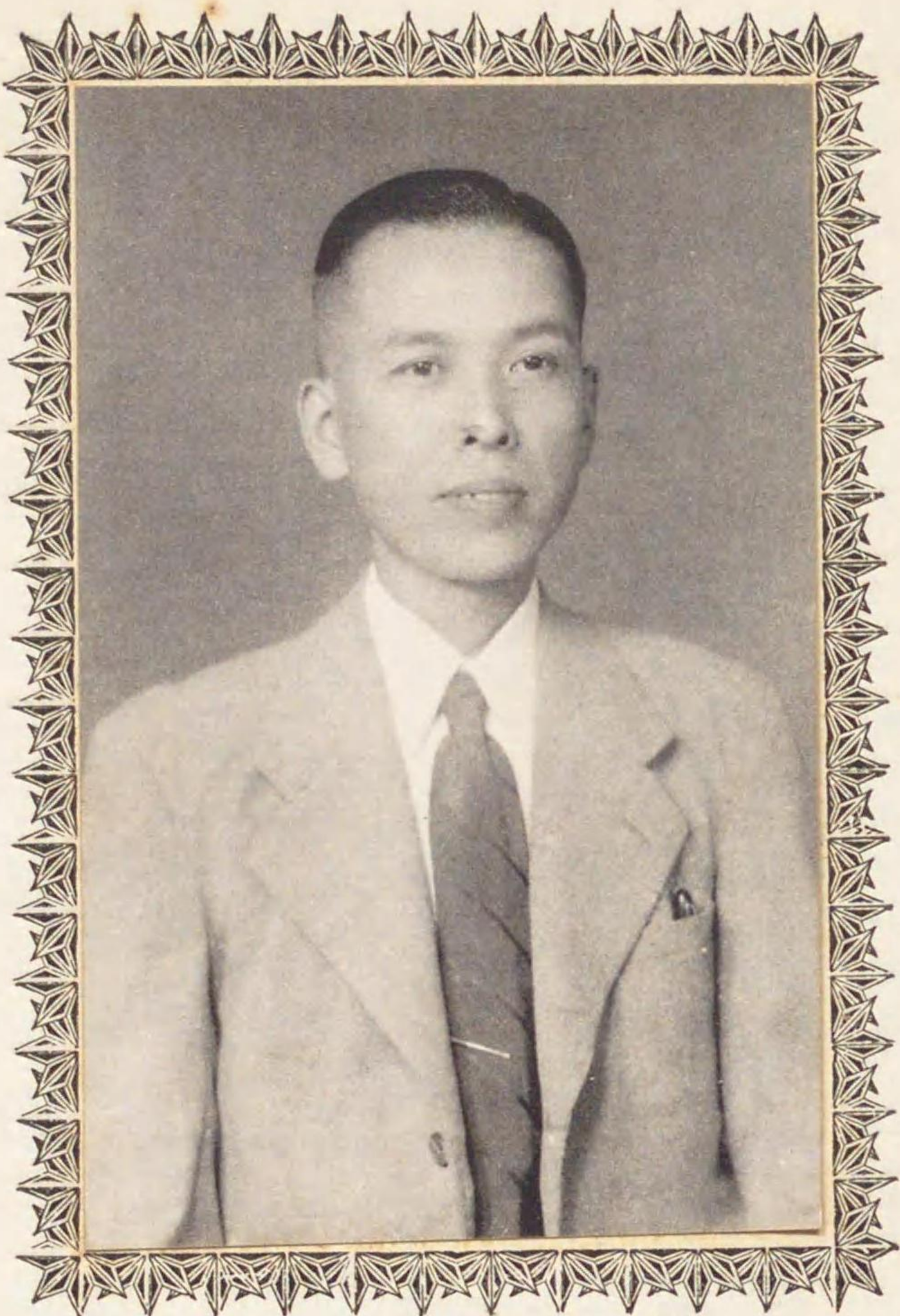
その意氣この意氣吾等の組合旗

柴 田 榮 一

略 歴 鈴木 春吉

- 一 明治卅一年五月九日埼玉縣入間郡飯能町在ニ生ル
- 一 家業生絲製造ヲ營ム
- 一 明治四十一年上京本所茅場尋常高等小學校卒業
- 一 大正元年機械製造ヲ志シ京橋入舟町芳賀印刷機械製造所へ徒弟トシテ入所
- 一 同六年無事満期修了
- 一 大正拾年印刷機械製造工場ヲ開業
- 一 同十二年九月關東大震災ニテ工場焼失翌十月工場再建焼失セシ糸綴機械ノ修理ニ着手現在ニ至ル

鈴木 春吉 氏



所 感

鈴木鐵工所主

此の度貴組合十五週年記念として組合創立以來且て例なき組合史御發刊に當り皆様と一緒に心から慶祝する一人であります。發刊に當り日夜業務を他所に涙ぐまじき御奮闘なされし井田、柴田外諸氏の御勞苦や如何ばかりと感激致してあります

此の永遠に記念すべき組合史へ不肖私にも何か書けとの御言葉にて只々感謝の外はありません。これ共仕事では相當自信が有りますが書く事は極く不得手で思ふ事の半分も書現はせず誠に残念であ

りますが、唯私が始めて綴機械を手掛けてから皆様と今日まで綴機械屋として過し其の間に於ける機械の進歩と綴業の發展等を振り返つて見るに私が綴機械を始めて手掛けたのは工場を開業した翌年則ち大正十一年で當時京橋にありし植木製本所が高田商會を経てプレーマー會社から四臺外に二臺を輸入し其の取付けから試運転までを引受けましたのが始まりでした。

當時日本人には使いきれないと云ふ難しい機械で運転の結果は一臺當り一萬枚か一萬五千枚位で流石豪放な故植木氏も此れでは大勢の女工を使ひ仕事の豫定はとれず困るから何とか一臺當り二萬枚以上出来る様に女工達に仕込んで呉れと云はれ私も工場を始めたばかりで困りましたが日本人には使ひきれないと云ふ機械だけに興味をもち丁度二ヶ月ばかり綴部の監督と云ふ事で毎日通ひ研究の傍ら監督をしまして其の爲か段々能率が上り漸やく豫定の枚數も出来る様になり植木氏始め私も安堵しました處が彼の大震災にて折角調子の好くなつた處を焼いてしまひ同時に私の工場も焼けましたが苦心をして造へた紙折機械や綴機械または自分の工場の機械の殘骸をながめ何とか一日も早く元の通りに直して運轉しなくてはならずと焼跡から烟の立つのを眺めながら田舎へ行き山から材木を切出し田舎で工場を切込み漸やく十月には工場が出来修理に取掛りました

幾月かの後に一臺完成試運転の結果はどうやら使へる様になり其れから次々と諸所より修理を依頼され數を重ねる内に仕事も上手になり市中で焼けた半數以上は私の工場に直したと思ひます

是れが皆様と御知合になつた始めでした、併し此の時分には機械綴業者としては極く少く機械綴は保ちが悪いと云ふ製本屋さんが多かつたと思ひます其れは手綴より糸は細いし縮らぬからでした

其の頃は私も研究は浅いし使ふ人も始めてなので随分苦勞をしたものです、丁度三年程綴の研究をし機械各部の働さ又は調節等を會得し綴上りは大變好くなり機械綴を嫌つていた製本屋さんも段々機械綴に替る様になりました。處へたしか昭和二年と思ひます出版界異變とも云ふべき全集流行時代が來たのでした。先づ改造社が日本文學全集を豫約募集し第一回の配本數四十萬以上といふ、次が新潮社の世界文學是れまた四十萬以上、第三が春秋社の明治大正是れが三十萬以上と云ふ事で次々に色々な全集が發行され其の數は知れません。此の時文化は進み最早手綴の時代では無く各發行所共機械綴でなければいけぬと云ふ事になり是れが機械綴今日の隆盛を見たのであります

當時機械臺數は少く出版物は多く日々に機械の必要に迫られ業者の方も多くなりましたが悲しいかな外國へ注文しても半年は掛り何とか國産機を製造しなければと發奮早速製造に着手昭和二年六月漸やく完成試運転の結果調子は上々好評を博し一時に注文殺到大多忙を極めました。是れ國産機製造の元祖と云ふ所以であります、かうして數を追ふ毎に部分改良し獨得の技術を加へ鈴木式糸綴機械は生れたのであります。幸ひ外國品に劣らぬ性能を有し各位の御高評を得誠に光榮の至と存じます

星霜ここに十五年、かくして發展榮ゆく機械綴業こそ現代文化に重大なる役割を有し各員また堅實なる組合のもとに益々向上せられ、此の前途や實に洋々たる事を感ぜられます

此の長き年月に不肖身に餘る御引立を忝し多事多難の秋組合各位の好路伴として一層の努力を致す考であります。宜敷御後援のほどを。

終りに臨み意義ある十五週年記念を祝福し組合員各位の御健勝を祈り筆を止めます。

光のあらわれ

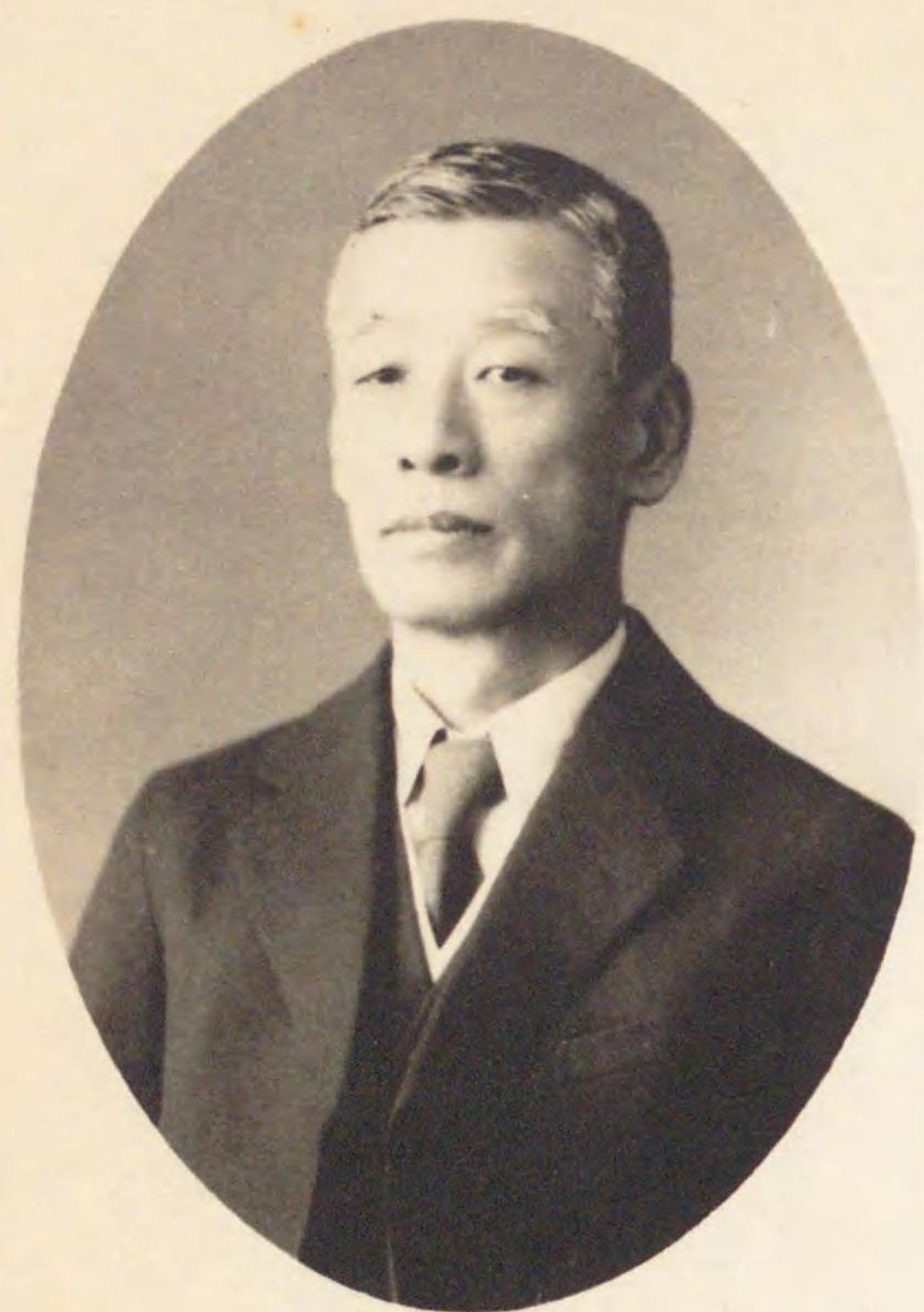
編者

美しい神の國紀元貳千六百年御皇室幾千代の御榮へを壽ぎ奉り。世界に比類無き萬世一系の天皇を
いただく一億の民草は此の偉大なる榮え有る皇國に生れたことは無上の光榮では有りませんか、聖
戰ここに四ヶ年遙か故國を離れ廣漠たる大陸の第一線に立ち或はソ満國境に勇敢に奮闘なさる勇士
の華々しき姿が壯快極なく目に浮び力強い限りでは有りませんか、御蔭様に殊に山河草木の景色に
も變り無く恵まれ恐怖を離れ心配をも忘れ平穩なる生活を送るは勇士の御蔭でなんと御禮の御言を
申上たらよいでせうか、勿體ないとも有難とも云ひませうか、感謝と云ふ貳字を以て綴るより他に
は有りませぬ。護國の神に奉られし勇士、又は名譽有る戦傷勇士のほまれは永遠に私たちの腦裏に
深くつたへ置きましよう。

皇國の爲に盡忠報國至誠の基に立ち勇躍しなされる皇軍勇士の武運長久を皆様と共御祈り申上ましょ
う、此の年は組合に取りましては誠に喜ばしい事で組合創立十五週年に廻りあい一層意義深くなら
しむる爲に組合史編輯を致されることに成りました思へば幾多の記念事業の内でも物語を綴る歴史
は皆様の心のこもつたあらはれとでも申ましよう今日のような立派な組合基礎と成りました事は申
す迄も有りませぬ慈父よ兄弟よ慈愛の満ちました寶輝の賜と感謝致します願くば之から先益々心を
一つにして和親一體と成りまして親しき友よなつかしき君よと仲よく語りひつゝ組合の爲に働さま
せう。筆の終りに偉大なる力と云ふ一字を以て結びたいと思ひます。

昭和九年
昭和十年

六代組合役員



長合組副代六
氏吉宇田篠

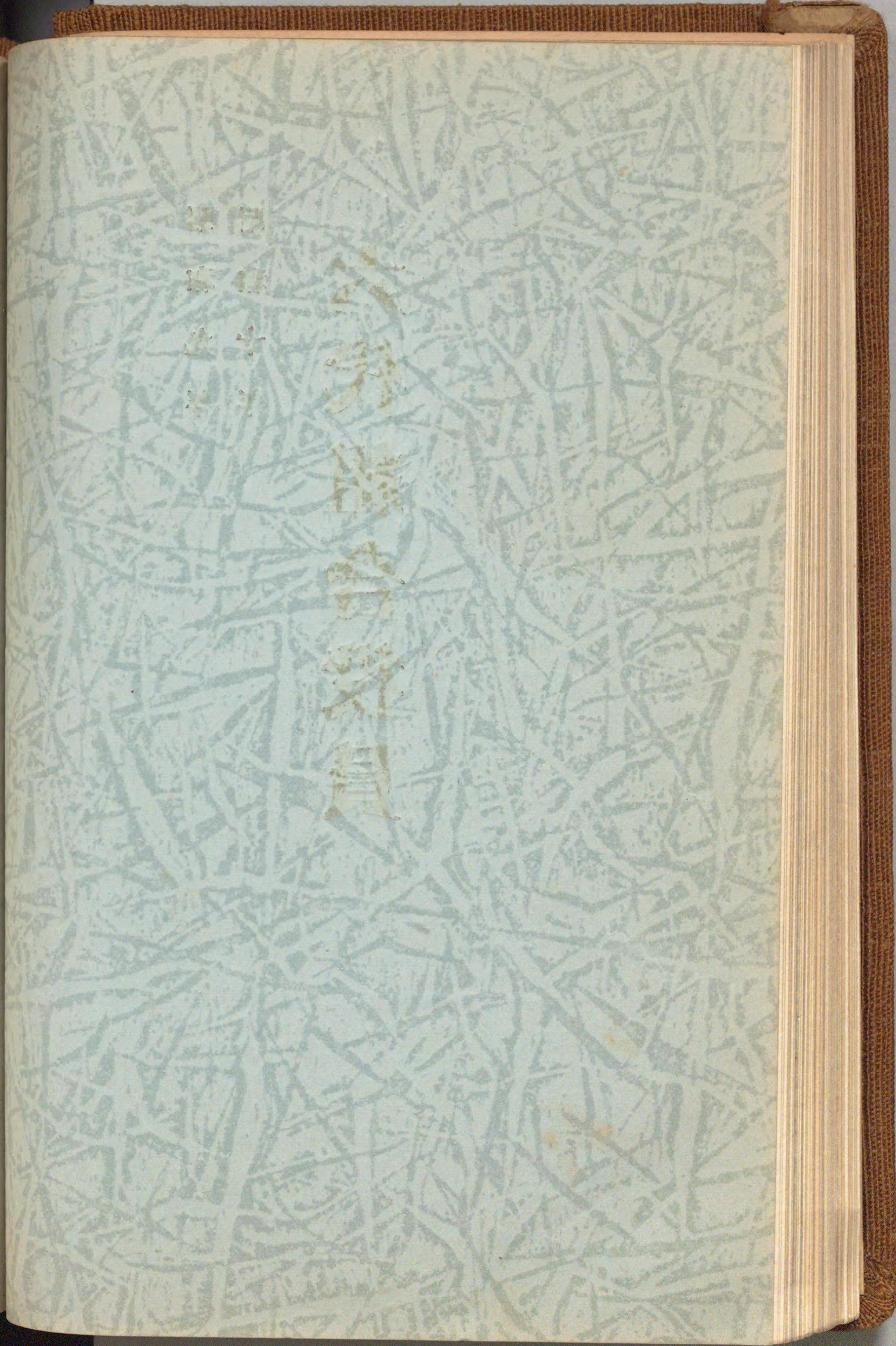


長合組代六
氏秀 瀬横



昭和九年度
昭和拾年度
役員

組 長	瀬 横	副 組 長	篠 田	會 計	川 口	幹 事 長	浦 野	幹 事	大 出	幹 事 兼 調 査 員	内 藤	田 中	齊 藤	中 山	渡 辺	下 平	相 談 役	母 家
長	瀬	長	宇 吉	竹 治	倉 二	助	助	市	和 市	治	治	誠	郎	郎	郎	太 郎		之 介



事業史

- 一、得意先登録制ヲ實施シ得意先登録名簿作成ス
 - 一、重要記録簿購入設置ス
 - 一、顧問制ヲ廢シ相談役ヲ設ク
 - 一、昭和九年二月十四日日本組合相談役下平廣太郎、母家竹之介両氏ノ功勞ヲ謝シ記念品トシテ金蒔繪九火鉢各壹對ヲ贈呈ス
 - 一、昭和九年一月八日總會ノ決議ニヨリ徒弟勤續者表彰年限ヲ男子七年女子五年トス
 - 一、昭和九年八月十四日購買組合創立五週年記念ニ際シ組合員ノ親睦ヲ圖ル目的ニテ鬼怒川温泉ニ泊旅行ヲ行フ（出席者二十三名）
 - 一、昭和九年九月十一日組合規約第二十三條ニ依ル得意先登録證ヲ認印ノ上申告者各員モ交付ス
 - 一、昭和九年十月十四日購買組合五週年記念ニ際シ組合員家族慰安ノ爲メ利益金ヲ左ノ方法ニテ配當ス
- 購買組合創立當初ヨリ昭和九年七月分迄各自糸ノ使用量ニ對シ壹打ニ付キ金貳拾錢也ヲ割戻ス
割戻金額合計金壹千七百貳拾九圓八拾錢也此數量八千六百四拾九打

一、昭和十年一月二十三日十二社辨天閣ニ於テ定時總會及ビ新年宴會ヲ開催（出席者二十四名）
 一、本組合ハ京橋、神田、小石川ノ支部ヲ承認シ組合員一名ニ對シ毎月金三十錢也ヲ補助ス

横 瀬 秀 氏

本組合創立當時ヨリ幹部トシテ組合ノ爲メ多大ノ盡力アリ昭和七年幹事長同九年組合長ノ重職ニ立ツ
 ヤ該博ナル知識ヲ以テ規約ノ改革等終始組合ノ向上發達ニ盡瘁セテ爾後相談役等ヲ歴任シ功績最モ
 著シキモノアリ尙ホ將來共氏ニ期待スル處多シ

感 謝 狀

貴下ハ本組合長就任中能ク組合ノ發展融和ニ盡
 瘁セラレ其功勞甚タ偉大ナリトス今回期滿チ職
 ヲ辭セラル、ニ當リ聊カ紀念品ヲ贈呈シ深ク感
 謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年三月

東京製本機械綴組合
 組合長 下平廣太郎

横 瀬 秀 殿

役 歴

同	同	同	同	同	同	同	同	昭 和 元 年	幹 事
同	同	同	同	同	同	同	同	三 年	同
同	同	同	同	同	同	同	同	四 年	同
同	同	同	同	同	同	同	同	五 年	同
同	同	同	同	同	同	同	同	七 年	幹 事 長
同	同	同	同	同	同	同	同	九 年	組 合 長
同	同	同	同	同	同	同	同	十 一 年	相 談 役
同	同	同	同	同	同	同	同	十 三 年 後 期	幹 事
同	同	同	同	同	同	同	同	十 四 年	同

横瀬秀略歴

明治四年十月十日生當七十歳

明治廿四年中學卒業後郷里茨城縣北相馬郡相馬町役場に収入役を振出しに助役となり在勤六年中廿五歳の時明治廿八年郡會議員に當選満期後明治三十七年八月渡米四十四年九月歸國

大正二年上京諸會社の事務に従ひ俸給生活を爲せしが大正十二年九月一日の大震災災に遭遇し無一物となりて郷里に歸り將來の經營方針に付き沈思默考する事二年大正十四年九月再び上京機械二臺を買入れて現業を開く時に年五十五歳なり營々十五年漸く現下の状態となり生活の安定を得るに至れり健康は成功の母とか成功は努力の賜とかを實地に經驗した先人の金言のいつわらざる事を世の人に告げたくこそあれ

所

感

横

瀬

秀

自己ありて父母あり即ち我家の歴史を爲くる吾等綴本業者又歴史なかざるべからず、組合員井田並に柴田の兩氏茲に視る所あり數月前より之れが編纂を企圖し組合草創時代より現組合長に至る迄順次組合の沿革等を記載せらる加之寫眞等を入れて錦上更らに華を添ふの感あり其勞苦察するに餘あり一日來りて余に所感を徴せらる依而左に聊か蕪言を吐露して所感を述ぶる事とす

○
出版業者ありて製本業者あり製本業者ありて綴業者あり製本業者にして機械を所有し營業を爲す者ありと雖も吾等專業者と比較する時は收支能率其他の點に於いて到底不合理の點尠ならず空しく寶の持ち腐れとして保存するのみなり

○
西洋文化の輸入時代に於ける製本業者が洋書製本を爲す時代は既に過去に屬し今や綴本業も獨立專業となり製本業者に對して叩頭辭を卑ふし三拜九拜仕命を待つと云ふ時代は去つて相互對立融和相通ず

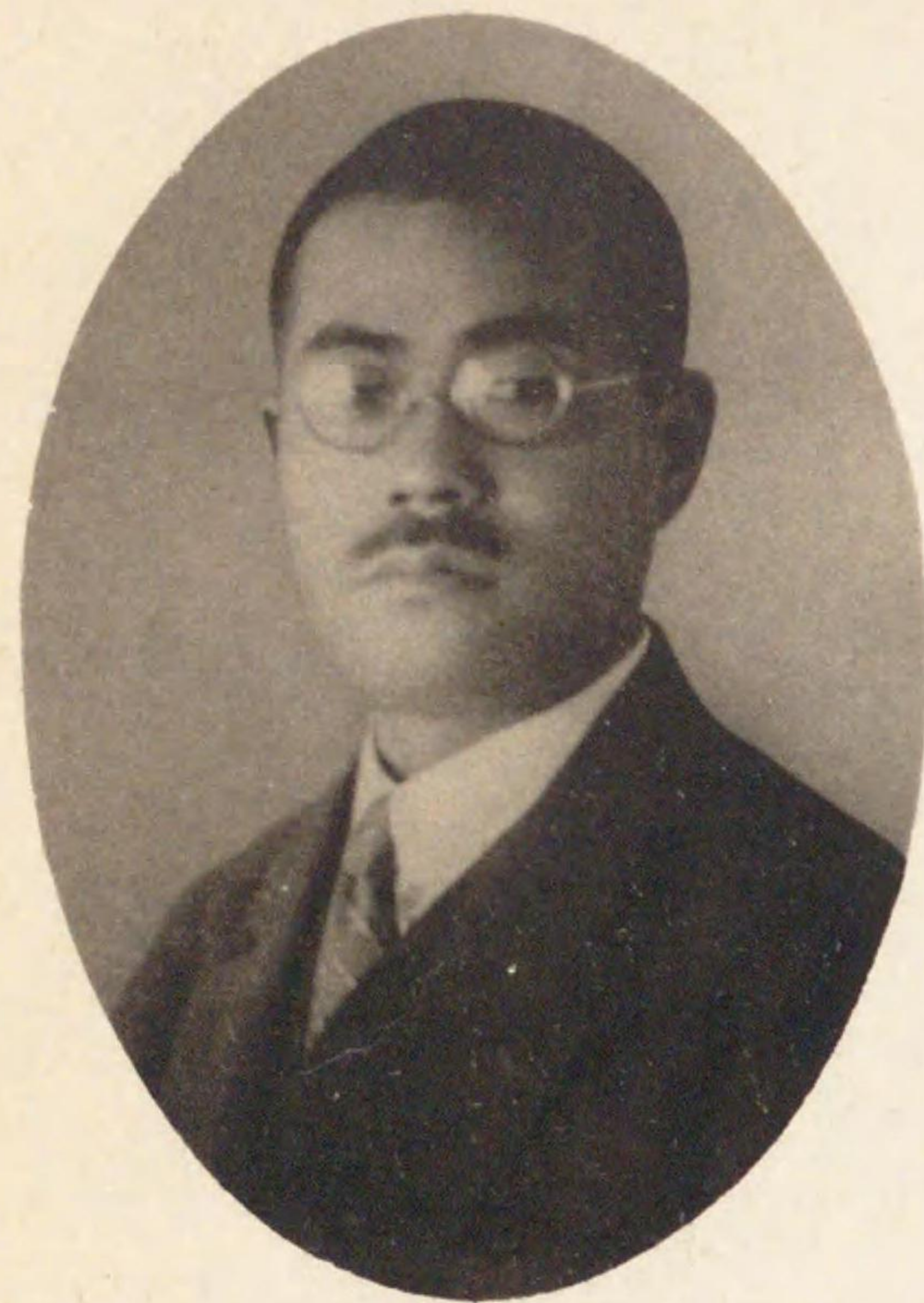
るの境地に達せり

○

顧みれば同業者間に於て得意の争奪あり得意の争奪は賃銀の低落を來たし相互に不況を啣ちたるも一度得意先の名簿を作り登録して相侵かさず賃銀を協定して低落を防ぎ目下稱々少康を持續するに至りたるは快欣に堪へざる次第なり願くは今後組合員合同一大會社を組織し八時間乃至十時間の操業を爲し理想的營業に就かれん事を希望するものなり終りに望み一言を附加ふるが本事業は文化事業の一部を爲すものにして東亞帝國の興隆と共に益々發展するものなれば現組合員の所有する機械數にては満足の効果を擧げ得ざる可く宜しく其準備に怠らず充分の覺悟を爲し置かれん事を重ねて冀求するものなり

昭和十一年
昭和十二年

七代組合役員



七代副組長
齋藤誠氏



七代組長
下平廣太郎氏



昭和十一年度
和十二年度
役員

- | | |
|------|-------|
| 組合長 | 下平廣太郎 |
| 副組合長 | 齋藤誠 |
| 會計 | 内藤和子 |
| 幹事長 | 母家竹之介 |
| 幹事 | 田中雅治 |
| 多田豐治 | 渡辺三郎 |
| 母家為 | 浦野倉二 |
| 中山三郎 | 宿本熊吉 |
| 細野作藏 | |

昭和十一年度
和十二年度
役員

事業史

同	同	同	相談役	蜂谷虎吉	調査員長	浦野倉二
同	同	同	同	横瀬秀	調査員	中山三郎
同	同	同	同	川口竹治	同	細野作藏
同	同	同	同	篠田宇吉	同	母野家
同	同	同	同	同	同	宿本熊吉

一、昭和十一年一月十六日午込東五軒町よしのニ於テ定時總會及ビ新年宴會開催ス
各工場徒弟五年、七年勤續者表彰式ヲ行フ

女子一名 男子三名 計四名

一、昭和十一年三月二十二日前幹部役員四名ニ感謝狀ヲ添ヘ記念品ヲ贈呈ス

一、昭和十一年四月七日各組合員ニ組合手帳ヲ配付ス

一、昭和十一年八月三日日本組合滿十週年記念祝賀總會ヲ日光湯本温泉南間ホテルニ於テ開催シ（出席者二十六名）全組合員ニ記念銀盃ヲ贈呈ス

一、昭和十一年九月二十六日下平廣太郎、母家竹之介兩氏ハ本組合ヲ代表シ帝國製絲株式會社東京營

業者ヲ訪問シ本組合ヨリ十週年記念品トシテ銀盃及ビ感謝狀ヲ贈呈ス
支店長武者小路氏ノ謝辭アリ

一、昭和十一年十一月二十五日共同印刷株式會社ヨリ主婦之友新年號附録七拾萬部ノ大量注文アリ
本組合ニテコレヲ受註シ組合員各自ノ機械臺數ニヨリ適當ニ割當テ全組合員協力シ期日マデニ克
ク之レヲ納付ス（コノ綴代金六千九百七拾九圓七拾六錢也）尙共同印刷株式會社ヨリ謝禮金參百
圓ヲ受納ス

一、昭和十二年一月十一日巢鴨富久政料亭ニ於テ定時總會及新年宴會ヲ開催シ各工場徒弟五年七年十
年勤績者表彰式ヲ行フ、女子七名、男子二名、計九名

齋 藤 誠 氏

同氏ハ稀ニ見ル辨論家ニシテ各種議案ニ對シ穩健ナル主張ト明確ナル論議トヲ以テ事ニ當ルタ
メ組合員ノ信任篤ク昭和七年來幹事及調査員等ヲ歴任シ同拾一年選レテ副組合長ノ要職ニ就ク
ヤ献身組合ノ向上發達ニ盡碎セラレ今ヤ聖戰下ニ會計トシテ物資經濟上最モ複雑ナル秋ニ病軀
モ不顧專心組合ノ爲盡力セラレツ、アリ

感謝状

貴下本組合副組合長就任中能々組合ノ發展融和ニ盡瘁セラレ其ノ功勞甚ダ偉大ナリトス
今同期滿チ職ヲ辭セラル、ニ當リ聊カ記念品ヲ贈呈シ深ク感謝ノ意ヲ表ス

昭和拾參年四月

東京製本機械綴組合

組合長 川口竹治

齋藤 誠殿

齋藤誠略歴

明治卅四年四月五日北海道石狩國樺戸郡月形村ニ生ル
拾七歳ノ折上京神田錦町新井製本所徒弟
廿一歳ヨリ廿八歳迄神田區錦町牧製本所ニ勤續
昭和參年五月現住所ニ製本綴業ヲ開業爲シ現在ニ至ル

役歴

昭和七年	幹事兼調査員
同九年	同 同
同十一年	副組合長
同十四年	幹事長
同十五年	會計

思ひ出の記

さいとうまこと

思出で話との編者よりの御希望により筆をとりて見ましたが今更何を書いてよいのやら一向筆が動きさうもない。一體私は苦しかつた事も亦嬉しかつた事も過去に、こだはらぬ性質なので私の過去一切が無の世界なのです、随つて思出話などと言ふ様なものゝ持合せがない、強いて思出と云はるれば幼き頃の母の乳房である、慈愛に満ち恩愛にかゞやく、あの豊かなふくらみを持つ、おつばいである、此ような事を申すと私は變體性慾者の様に思はれるかも知らんが決して左様でない事をお断りして置きます。私は現在でも母のふところに、しつかり抱擁されて思出での愛の乳房に、過去一切は覆ひ盡されて居ります。母の愛の偉大なる其力こそ即ちこれが私の思出話の全部であります。現在名譽ある組合の下に組合員の一人として其末席を汚がす事の出来たのも、母が歩ませてくれた愛の賜のと、染々母の豊満なりし、乳房を思ひ出さずには居られませぬ。
一愛とはなんぞや

「愛とは勘忍をなし又人の益を圖るなり、愛は妬ます誇らず驕傲らず、禮を尊び私利を求めず惡を念はず不義を喜ばず、愛は絶體なり」

こんな事を先生の質問に答へたる子供の頃を思ひ出します。我々の組合も歴代組合長の、即ち母の心

愛の力に指導訓育せられ、今日の如き磐石の安きに置かれた事を思ふ時、唯々感激に堪へない次第であります、我々組合員は相互に母であり兄弟であらねばなりません、互譲自戒愛に對する大に愛を高調し愛の組合を築く事に努力致したいと思ひます。愛を離れて人生なし愛を離れて組合なし、是れが私の思ひ出であり、考であります。

昭和十三年前期

八代組合役員



八代副組長
篠田宇吉氏

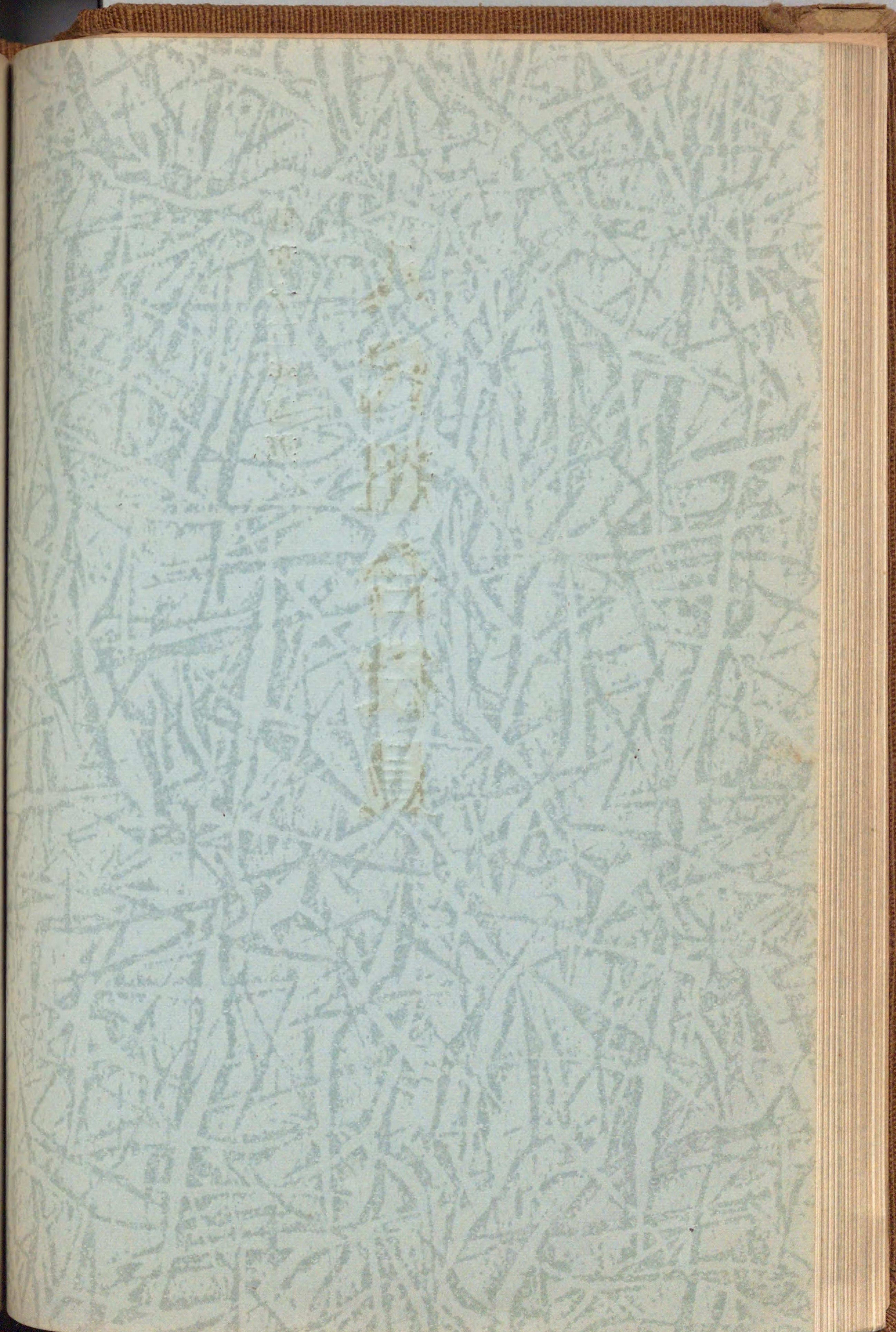


八代組長
川口竹治氏



昭和十三年度前期役員

- | | |
|------|-------|
| 組合長 | 川口竹治 |
| 副組合長 | 篠田宇吉 |
| 會計 | 内藤和市 |
| 幹事長 | 中山三郎 |
| 幹事 | 栗間登久治 |
| " | 多田豊治 |
| " | 増田範平 |
| " | 渡辺三郎 |
| " | 母家為 |
| 相談役 | 下平廣太郎 |
| " | 母家竹之介 |
| " | 蜂谷虎吉 |



事 業 史

一、昭和十三年一月十三日品川辨慶ニ於テ定時總會及ビ新年宴會ヲ開

催ス(出席者二十四名)

各工場徒弟五年七年勤績者表彰式ヲ行フ

女子五名 男子四名 計九名

感謝狀

貴下本組合會計就任中能ク組合ノ發展融和ニ盡
 瘁セラレ其ノ功勞甚ダ偉大ナリトス今回満チ
 職ヲ辭サル、ニ當リ聊カ記念品ヲ贈呈シ深ク感
 謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年三月

東京製本機械綴組合

組合長 下平廣太郎

川口竹治殿

役歴

昭和元年	幹事
三年	同
四年	同
五年	同
七年	副組合長
九年	會計
十一年	相談役
十三年前期	組合長
十三年後期	幹事兼統制委員
十四年	同
十五年	同

川口竹治氏

本組合創立當時ヨリ幹事トシテ組合ニ盡サレ寡書實踐己ガ信念ニヨリ常ニ行動ヲ慎ミ組合員中
 ノ範タリ昭和七年選バレテ副組合長トナリ續イテ會計等ノ要職ヲ歴任シ同十三年衆望ニ應ジ一
 時組合長ノ重職ニ就キシモ家事ノ御都合ニ依リ直辭職セラレタル事ハ組合ノ爲メ甚ダ遺憾ナリ
 然シ爾後モ幹事トシテ組合ノ爲メ盡力セラレツ、アリ

川口竹治略歴

明治二十五年千葉縣竹岡ノ貧農ニ生ル年十三歳ニシテ上京本郷區弓町ノ某質店ニ徒弟トナルニ
十四歳迄十二年間勤續シ二十五歳ノ時京橋區内某質店ノ店員トナル二十八歳ノ時或ル人ノ媒妁
ニテ神奈川縣下ノ某呉服店ニ婿養子トナリシモ養父ト意見ノ素通セザリシ爲大正十一年五月再
ビ上京セシモ十餘年間從事セシ業務モ資本ノ關係上營ムコト不能不止得呉服ノ行商ヲ營ム當時
深川區古石場町ニ住ム析シモ大正十二年ノ關東大震火災ニ遭遇シ一物モ得ズ裸カ一貫トナリ遂
ニ石川島造船所倉庫係ニ入社滿一ケ年ニシテ退社呉服行商當時最負ニ預リシ製本業黒岩清志氏
惜シクモ先年故人トナラレシ同氏ノ懇情ニヨリ將來性アルヲ説カレ始メテ大正十五年五月一日
木挽町一丁目ニ製本機械綴業ヲ開業シ昭和二年現在ノ所ニ移轉今日ニ至ル

昭和十三年後期

九代組合役員



長合組副代九
氏众之竹家母

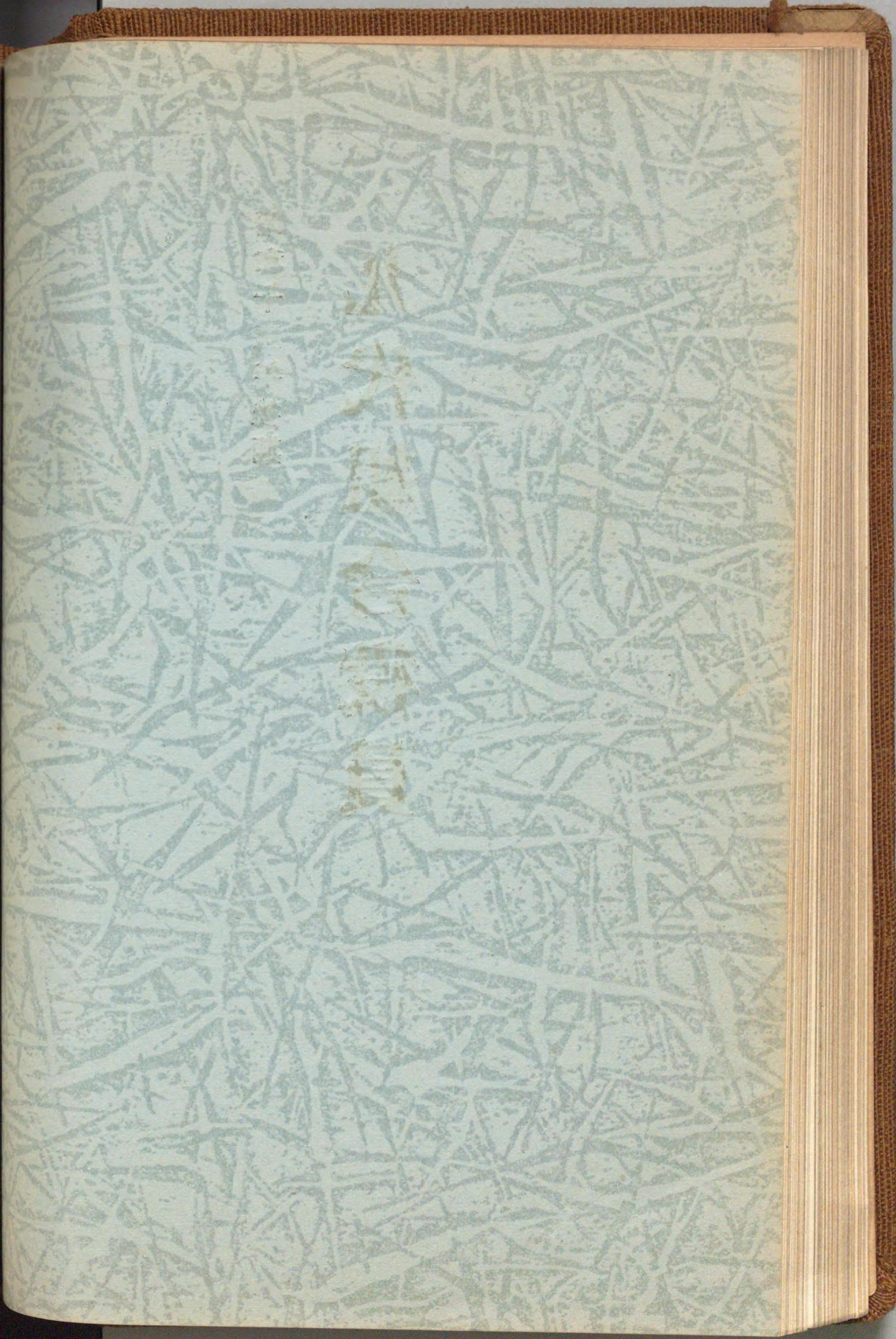


長合組代九
氏郎太廣平下



組 長	下 平 廣 太 郎	副 組 長	母 家 竹 之 介	會 計	內 藤 和 市	書 記 長	田 中 雅 治	幹 事 長	篠 田 宇 吉	幹 事	橫 瀨 宇 吉	大 出 與 助	多 田 豐 治	增 田 範 平	高 島 新 太 郎	浦 野 倉 二	川 口 竹 治	蜂 谷 虎 吉
--------	-----------------------	-------------	-----------------------	--------	------------------	-------------	------------------	-------------	------------------	--------	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------

昭和十三年度後期役員



事業史

一、糸、針、統制上左記ノ委員ヲ設ク

統制委員

川口 竹治

内藤 和市

柴田 榮一

多田 豊治

小野田貞二郎

高島新太郎

一、組合ノ統制強化ヲ圖ル爲組合各員ヨリ金壹百圓也保證積立金ヲ徵集ス

一、昭和十三年四月一日規約第五條ノ一部改正シ相談役ヲ廢シ新ニ書記長一名ヲ置ク（推選ノ結果田中雅治氏就任ス）

一、規約第二十五條ヲ改正シ表彰者年限男女工共五ヶ年トシ新ニ十年制ヲ設ク

吾等ノ作業所

一、朝な夕なに思へば古郷の父母に諭サトされて心を鍛へ腕を練れ

いつも明るく清らかに進むは吾等の作業所

二、今日キヨウは楽しく此の腕に真心こめて技ワザを練れ胸ムネに希望をいただきつ

いつも明るく清らかに進むは吾等の作業所

三、明日アスに滿ち来る能率は實ミソ力リチカラこそ共存共榮の鏡カガミぞと

いつも明るく清らかに進むは吾等の作業所

柴田榮一



佐々木静一氏

製綴機製並糊
本及機械作
針糸專修
金綴門理
品

東京市豊島區巢鴨五丁目一、一四八

佐々木製作所

主 佐々木静一

電話大塚(86)七八五
一番 振替口座東京九〇四二〇六番

御 挨拶

佐々木製作所主

筆の初めより毎度有難う御座いますと申上ます。

東京製本綴組合創立拾五週年を迎へ記念として組合史が編纂致されると聞き、大變御目出度い事と存じます、心から御喜び申上ます。

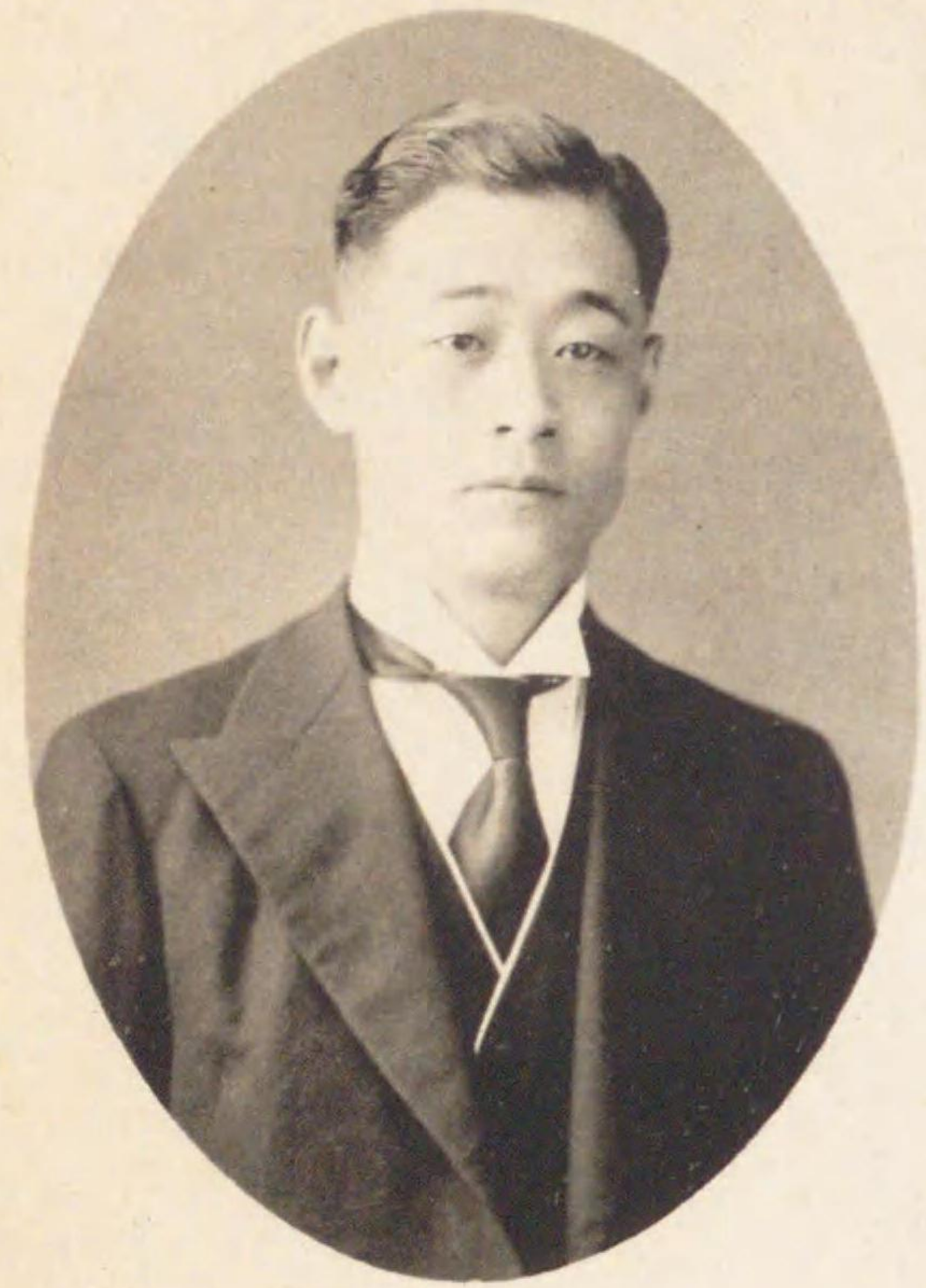
本年は皆様御承知の通り皇紀貳千六百年、誠に意義深く銘記すべき年で、我國は新東亞建設の爲未曾有の聖戰遂行中であります。故に物資の不足は必然起るべき事で、これが對策として自由經濟から統制經濟へ、個人主義より全體主義へ移行しつつあります。我等生産の業に従ふ者一人一人が長期戰の闘士として産業報國の熱意をもつて、スフの作業服に外米腹で、水産皮革の靴はいて、大いに頑張らうではありませんか。

當製作所製品は専ら外國製品が横行してをるその中であつて、これを優に凌駕するの域に到達して居りますが、舶來品尊重の氣風に押されて、今だ一般化されずに居ましたが、輸入品杜絶と共に斷然頭角を顯し組合員諸士の間に愛用され微力を盡させて頂き居ります事は深く感謝致して居ります。今後共製品の向上發展に意を注ぎ、江湖の御得意諸士の御期待に添はむと努力致す次第であります。

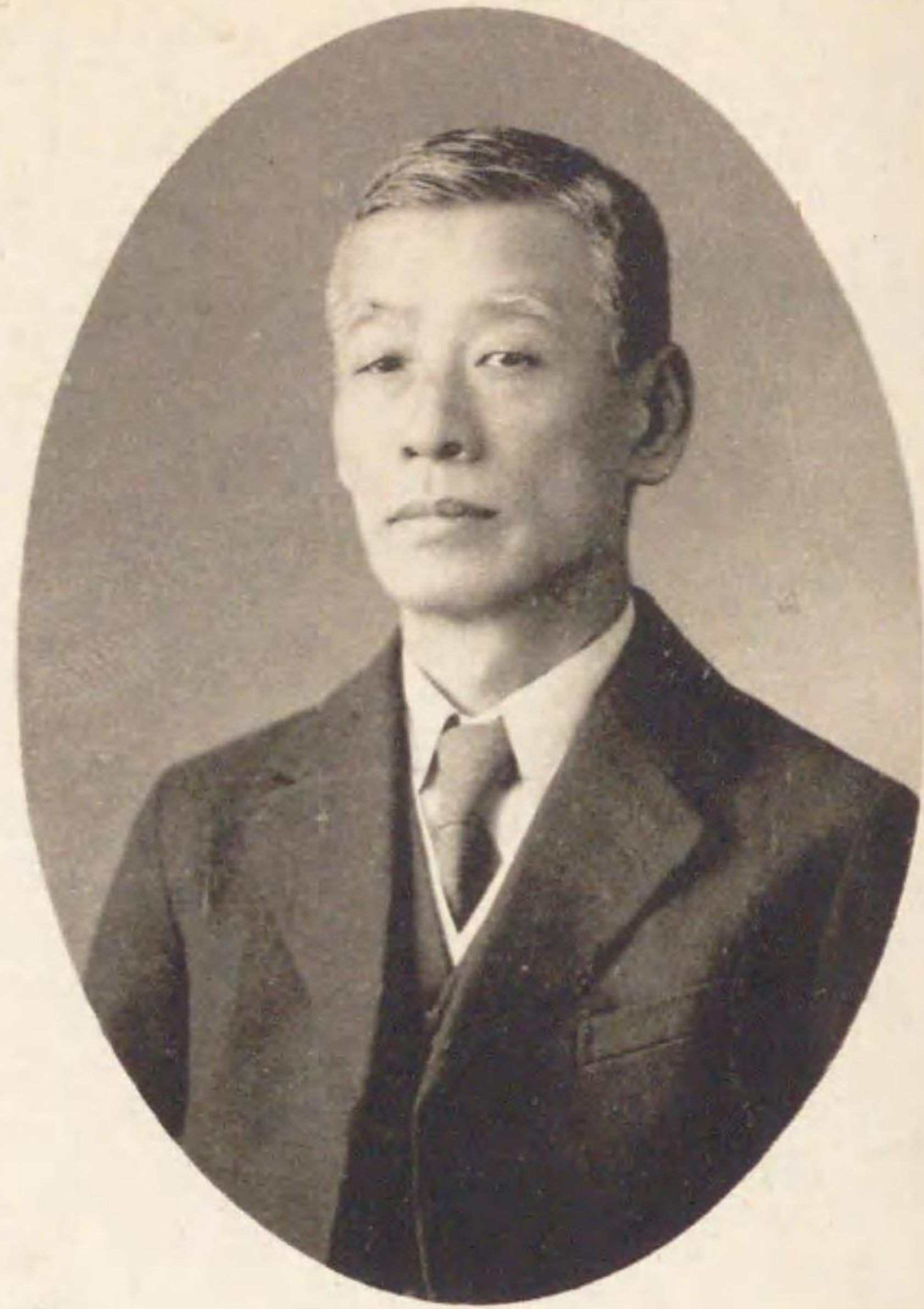
敬 白

昭和十四年

十代組合役員



長合組副代拾
氏二倉野浦

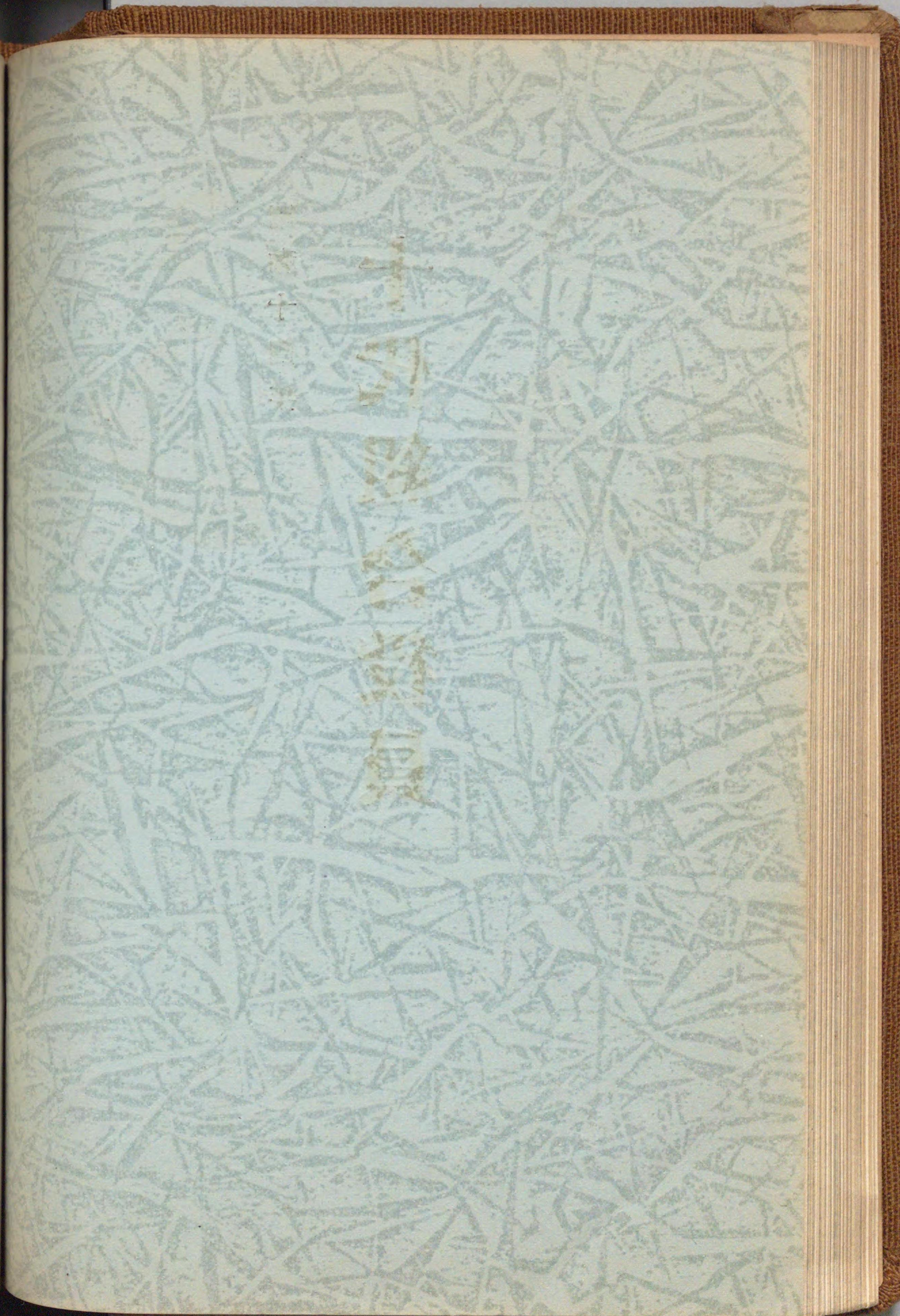


長合組代拾
氏吉宇田篠



相談役	"	"	"	"	"	"	幹事	幹事	書記	會計	副組合長	組合長	
母家竹之介	下平廣太郎	大曾根仙之丞	田中雅治	内藤和秀	横瀬三郎	渡辺三郎	母家竹治	川口竹治	齊藤誠	多田豊治	増田範平	浦野倉二	篠田宇吉

昭和十四年度役員



事業史

一、昭和十四年一月十日品川辨慶ニ於テ定時總會及ビ新年宴會ヲ開催シ各工場徒弟五年勤績者表彰式ヲ行フ 男子十名 女子七名 計十七名

一、昭和十四年二月十八日綴工賃ヲ東京府經濟部ニ於テ東京製本組合ト協議ノ結果工賃ノ制定ヲ計ル
(仕上ハ持込順ヲ原則トス)

一、昭和十四年三月ヨリ當分ノ間毎月十日定時總會ヲ錦町俱樂部ニ於テ開催スル事ニ決議ス

一、昭和十四年五月組合規約改正冊子(附組合員名簿)發行各員ニ配付ス

一、東洋製絲株式會社ト糸ノ取引ヲ始ム

一、昭和十四年五月十日材料共同購買組合ヲ設置シ理事制ニ依リ左ノ役員ヲ設ク

理事 長	下 平 廣 太 郎	常任理事	母 家 竹 之 介
理 事	内 藤 和 市	會計兼理事	多 田 豊 治
監 事	篠 田 宇 吉		

一、昭和十四年五月組合規約第六條ヲ改正シ定時總會ヲ毎年一月、五月、九月ノ三回ニ改ム

感謝狀

貴下ハ本組合創立當時ヨリ或ハ幹事ニ或ハ副組合長トシテ組合ノ爲メ盡瘁セラレ次イテ昭和十四年衆望ニ應シ組合長ノ要職ニ立ツヤ時正ニ日支事變ノ爲メ諸物價ハ騰貴シ隨テ業界ノ單價向上ヲ計リ續イテ材料ノ統制ニ會ヒタルモ誠意此レニ當リ今日ヲ得セシメタルハ組合員ノ齊シク感荷措ク能ハサル所ナリ仍テ今回其ノ職ヲ辭セラル、ニ際シ金壹封ヲ贈呈シ謹テ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十五年三月一日

東京製本機械綴組合
組合長勳七等 大曾根仙之丞

篠田 宇吉 殿

役 歴

昭和元年	幹事
三年	同
四年	同
七年	同
九年	副組合長
十一年	相談役
十三年前期	副組合長
十三年後期	幹事長
十四年	組合長
十四年	購買組合監事

篠田 宇吉 氏

同氏ハ前組合長ニシテ日支事變ニ依リ一般物價ノ騰勢ニ準ジテ當然本組合ニ於テモ綴料金ノ統一ト値上ゲトハ全組合員ノ要望スル處ナリト雖モ之レガ實現ハ容易ナラザル苦心ヲ要セリ然ルニ同氏ハ其ノ難局ニ處シ退イテハ組合員ノ結束ヲ鞏固ニシ進ンテハ當局トノ交渉亦肯綮ニ當リ之ノ難事ヲ成就セラル其ノ努力タルヤ大ニ賞スベキナリ

昭和元年以來幹事幹事長副組合長等ヲ歴任シ其ノ功亦大ナリ

篠田宇吉略歴

明治拾四年二月東京市京橋區寶町ニ生レ拾貳歳ニシテ商業見習ノ爲メ兩親ノ膝下ヲ離レ初メテ社會ノ荒波ニ身ヲ投セシモ家貧ナレドモ孝子ナラズ糶テ、加ヘテ熱シ易ク冷メ易キ性格ヲ保持スル結果書店ノ丁稚ヲ振出しニ銀行、運送、漆器、製本、學生、官吏ト轉々トシテ其ノ去就定マラサリシモ最後ニ遞信省通信局ノ雇ヲ拜命スルニ及ビ漸ク生活ノ安定ヲ得ルニ至リ明治三十七年合名會社藤田組小坂鑛山用度課ニ轉勤シ明治四十一年再轉日本鑛業株式會社日立鑛山調度課後買鑛課ニ在勤スルコト拾年ニシテ大正八年病ヲ得テ職ヲ辭シ爾後自由生活ヲ續ケ居リシガ大正十一年淺草ニ於テコロタイブ印刷業ヲ經營シタルモ營業ノ確立ヲ目前ニシテ不幸大正十二年關東大震災ニ遭遇シ二十年間ニ渉ル勞苦ノ結晶ヲ灰燼ニ歸シ萬事ハ槿花一朝ノ夢ト散リ四十年ノ永キ生涯ヲ終リシ當時ハ落膽失望ノ淵ニ沈淪セシモ翻然トシテ復興ヲ決意シ大正十三年朽木縣宇都宮及藪塚ニ於テ石材ノ採掘販賣業ヲ開始セシモ作業意ノ如クナラズ運拙ナクシテ是又失敗ニ終リシモ七轉八起ノ信念ヲ以テ大正十四年再度十二歳ノ丁稚ニ生レ返リ當時製本業界ニハ機械綴業ガ不可缺ノ要素ヲナスト共ニ事業ノ將來性アルヲ察知シ芝區内ニ小工場ヲ設ケ營業ヲ開始セリ後京橋區新富町ニ移轉シ現在ニ至ル最近ハ業界モ時局ノ波ニ便乘シ安定ヲ見ルニ及ビ本業ノ傍ラ立川瓦斯株式會社ニ勤務セリ。

所 感

篠 田 宇 吉

光輝アル紀元二千六百年ヲ記念スル爲メ本組合沿革史ヲ編纂セラル、コトハ眞ニ時宜ヲ得タル企圖ト存シマス業務多端ノ折柄進ンデ此ノ難業ヲ完遂セラレシ編者井田、柴田ノ兩君ノ熱意ト御努力ニ對シ深甚ナル感謝ヲ表スル次第デアリマス。本組合モ設立以來時勢ノ變遷ニ伴ヒ幾多ノ難關ニ逢着セシモ組合員ノ一致協力ニヨリ克ク之レヲ突破シツツ忍苦十有餘年遂ニ理想ノ大半ヲ達成シ今日大磐石ノ基礎ノ上ニ巍然トシテ其ノ榮譽ヲ誇ル組合旗ノ下ニ全組合員ヲ抱容シ能ク使命ヲ完フシツツアルコトハ實ニ欣快ニ不堪ル所デアリマス其處デ何ガ組合ヲシテ今日有ラシメタカ夫レニハ本史上ニ特筆大書スベキニ大原因ガ存スルト想マス其ノ一ハ材料購買權ノ獲得デアリ其ノ二ハ得意登録制ノ設定デアリマズ就中後者ハ世上ニ未ダ其ノ類例ヲ見サル規定ニシテ組合員一同ガ共存共榮ノ意義ヲ能ク理解シ人生ト不可分ノ生存競争ノ渦中ヨリ離脱シテ其ノ天與ノ美德ヲ表現セシモノニシテ天下無二ノ存在デアリ又以テ各方面ヨリ羨望視セララル所以モ亦茲ニ存スルト察スルノデアリマス尙ホコレ有ル限り本組合ハ健在ニシテ前途ノ隆盛又期シテ侍ツベキモノアリト確信スルモノデリマス然シナガラ如何ニ組織ガ完全デアリ又基礎ガ強固デアルトモ決シテ自惚レテ組合依存心ヲ起シ又ハ橫暴ナル所爲ガ有ツテハナラスノデアリマス之レハ今回ノ獨佛戰爭ニ於テ能キ教訓ヲ與ヘラレタノデ有マシテ消極的防禦戰ヲ以

テ臨ンダ佛軍ガ難攻不落ト世界ニ誇ルマデノ線要塞ガ獨軍ノ進取的攻撃作戰ト新兵器ノ出現ニヨリ一瞬ニシテ撃破サレ終ニ降伏ノ悲惨事ヲ見タコトハ明カニ佛軍ガマデノ線要塞ノ防備力ヲ過信シテ佛國ノ全土ヲ此ノ一線ニ依託シタコトニ基因スルト思フノデアリマス夫レ故ニ吾人ハ佛軍ノ轍ヲ踏マヌ様何時如何ナル事態ガ突發スルトモ直チニ之レニ對應スベキ戰備ノ充實ヲ圖ルコトガ組合ノ萬全ヲ期スル唯一ノ道ト存スル次第デアリマス

人の行く裏に道あり花の山

コノ句ハ古來ヨリノ金言デアリマシテ人ノ行ク道ヲ同ジ様ニ行ツテモ駄目デアル人ノ行カヌ裏道ニ成功ガアルト云フ意味デアリマス前述ノ中ニモ包含サレテ居ル通り本組合ガ他ノ組合ノ行ハサルコトヲ行ヒテ繁榮シ獨乙軍ガ他國ニ無キ新兵器ヲ創造シタル爲メニ勝利ヲ博シタノデアリマス、デスカラ吾々モ常ニ人ノ行カザル裏道ノ探究ニ努メ様デハアリマセンカ。

浦野倉二氏

同氏ハ昭和五年幹事ノ要職ニ就キ同七年幹事兼調査員、同九年幹事長、

同十四年副組合長ノ重職ニ立ツヤ時恰モ事變下ノ爲メ材料ノ統制等々

ノ難問續發セシモ終始組合長ヲ補佐シ組合ヲシテ安泰ナラシメ其ノ新

進氣鋭タル手腕ハ將來ヲ期待セラレツ、アリ

感謝狀

貴下ハ昭和拾四年選ハレテ本組合副組合長トナルヤ時恰モ日支事變ノ爲メ諸物價高騰ノ結果隨テ業界ノ單價向上乃至材料ノ統制等々難關ニ逢著セシモ能ク組合長ヲ補佐シ今日有ラシメタルハ組合員齊ク感荷措ク能ハザル所ナリ仍テ茲ニ金壹封ヲ贈呈シ謹ンデ感謝ノ意ヲ表ス

昭和拾五年參月一日

東京製本機械綴組合

組合長勳七等 大曾根仙之丞

浦野 倉 二 殿

役 歴

昭和五年	幹事
同 七年	同 兼調査員
同 九年	幹事 長
同 十一年	幹事兼調査委員長
同 十三年後期	幹事
同 十四年	副組合長

略 歴

浦 野 倉 二

- 一、明治參拾六年十二月一日新潟縣高田市城外ニ生レ榊原子爵ノ後裔
- 一、大正八年十一月上京東京市神田區三崎町會田製本工場徒弟トシテ五ヶ年勤績ス
- 一、大正拾參年一月朝鮮歩兵第八拾聯隊ニ入隊大正拾參年八月十六日精勤章附與セラル大正拾參年十一月二十五日一等卒同日上等兵ヲ命ゼラル同十二月一日伍長勤務大正拾四年十一月二十四日歸休除隊善行證書下士適任證書附與セラル
- 一、大正拾四年十二月上京牛込福山製本所及小石川共同印刷製本部等ニ在勤ス
- 一、昭和參年十一月現住所ニ於テ製本機械綴業ヲ經營今日ニ至ル
- 一、目下帝國在郷軍人會員組長副班長現分會理事帝國在郷軍人會々長陸軍大將鈴木莊六閣下ヨリ表彰狀附與セラル
- 一、昭和拾五年五月三日東京市方面委員ヲ命ゼラル

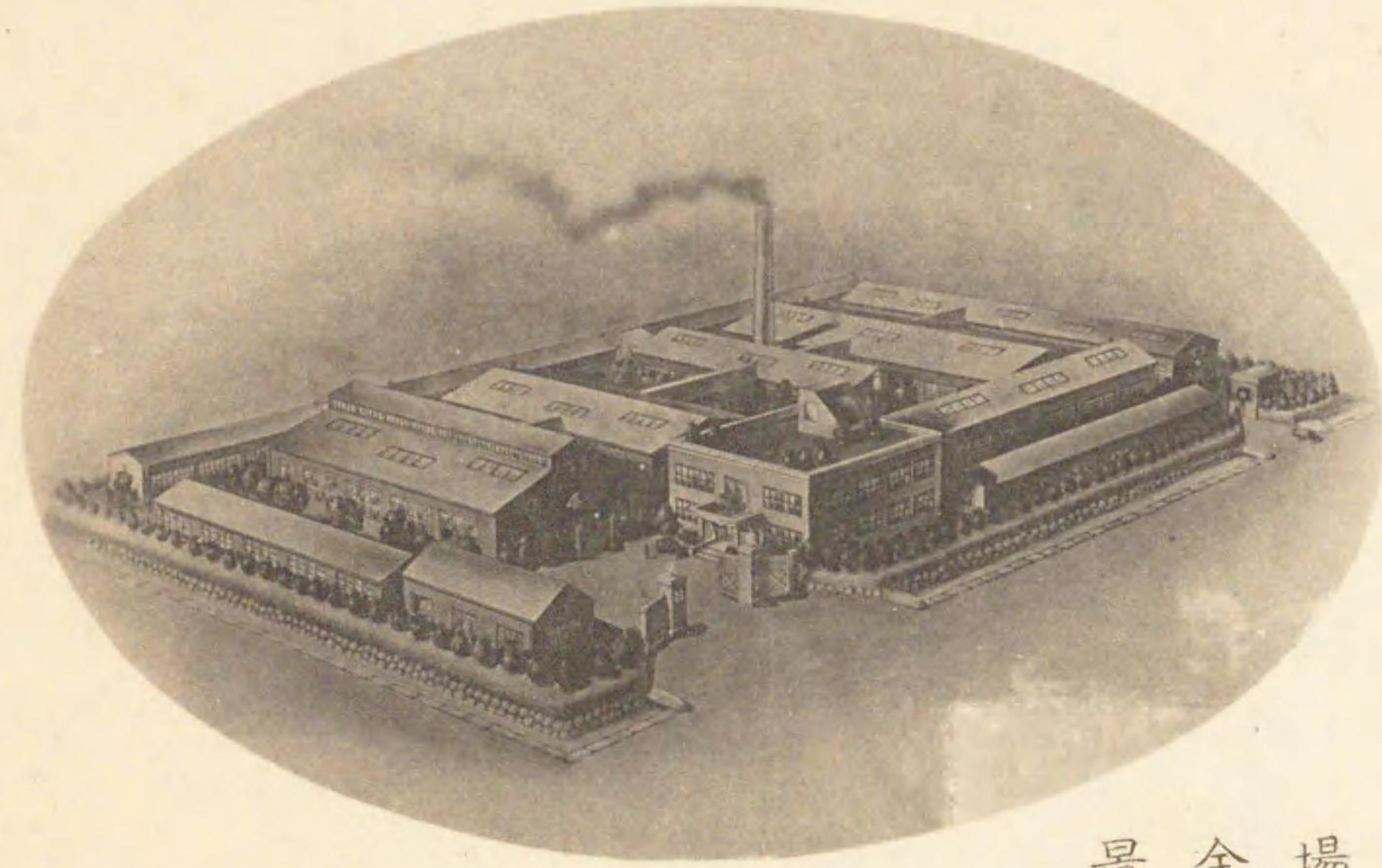
組合史の編纂を祝す

東京市方面委員 浦野倉 二

皇紀二千六百年の輝しき佳辰を迎へ茲に我が組合史の編纂者井田留三郎、柴田榮一両君に對し満腔の敬意と感謝を捧ぐる者であります

今や全世界を擧げて一大轉換期に遭遇致し我邦また新東亞建設の大業達成に全力を盡して居る時であります、而して事變勃發以來既に四年と相成りました、過般我那と善隣友好經濟提携及び共同防共を標榜せる新支那中央政府が漸く成立を見たことは誠に慶祝に堪へぬ所であります我邦の内外に於きまする實狀から考へますると時局の前途は遽に豫斷し得ざるものがあるのです、随ひまして吾々國民は此の際一段と奮起共勵し、歴史的大事業の完遂に邁進致さねばならぬと考へるのであります。然し乍ら現下國際狀勢の緊迫と長期聖戰の進展とにつきまして戰時體制下に於ける經濟統制が今後益々強化せられて來るものと考へられるのであります、

之に伴ひまして庶民生活に及ばず影響が愈々深刻の度を加へつゝあるものと存せられるのでありますから、此際我組合も亦此の新らしき社會狀勢に即應しまして、難局打開の爲に全面的活動を致さねばならぬ事と痛感致して居る次第であります。即ち從來の内容組織を内省しまして變轉殊に甚だしき此の時代に應ずべき新態勢を整へますと共に更に更に團結を鞏固にし連絡を密にして互に戒め互に勵まして全組合員の生活を基調とする國家政策への協力と申しませうか、積極的な活動に大童となつて、活潑なる前進に乗出し、そうして全組合員厚生と福利増進の爲に全機能を發揮するに萬全を盡さねばならぬと存する次第であります。茲に組合史の編纂を祝し聊か所信を申述べ祝辭といたします。



工場全景



各種糸類
製本カタン糸
ヘトバン
薄記糸
糸組紐

合名會社越前屋 多崎商店

本店 東京市京橋區京橋一丁目貳番地

電話京橋 (56) 三六六一 一三六七
三六六二 四八〇二

支店 大阪市南區順慶町一丁目四拾六番地

電話船場 一八六六

工場 東京市麻布區富士見町五拾參番地

電話三田(45) 二〇三三

多崎商店ノ沿革

合名會社越前屋多崎商店ハ慶應元年絲、組紐及雜貨商ヲ創業シ明治中世ノ頃ヨリ陸、海軍、警察官及諸官省制服用附屬品ノ製造竝ニ販賣ヲ開始シ引續キ其ノ業ヲ營ミ各戰役毎ニ陸海軍ヨリ直接間接ニ多大ノ御用命ヲ拜シ瑕瑾無ク使命ヲ果シ昭和四年一月二十日組織ヲ改メ合名會社越前屋多崎商店トシ各官省ノ外汎ク全國同業者及其ノ他ニ供給シ以テ今日ニ及ベリ

廻る機械の音を聞く

編者

- 一ッ人の模範とあがめられ明るい精神はつらつらと 廻る機械の音を聞く
- 二ッ奮發心を源動力に元氣で作業を續けつゝ 廻る機械の音を聞く
- 三ッ御國の富は産業から作業戰士の意氣しめせ 廻る機械の音を聞く
- 四ッよろずの神を頭べにいただき清い心で感謝する 廻る機械の音を聞く
- 五ッいつもにこゝ朗らかに互に語りつゝ助け合い 廻る機械の音を聞く
- 六ッ無理な作業はげがの元慈愛い深く一心こめて 廻る機械の音を聞く
- 七ッなんでもかんでも能率増進目標メットに進む心の意氣ぞ 廻る機械の音を聞く
- 八ッ病いは國のそん體育本意に心をそゝげ 廻る機械の音を聞く
- 九ッ根氣と根氣のこんくらべ腕によりかけ事業をはげむは國の爲 廻る機械の音を聞く
- 十デとうとう綴り出す本の山世界のはてまで送り出す 廻る機械の音を聞く

昭和十五年

十一代組合役員



長合組副代一拾
氏平範田增

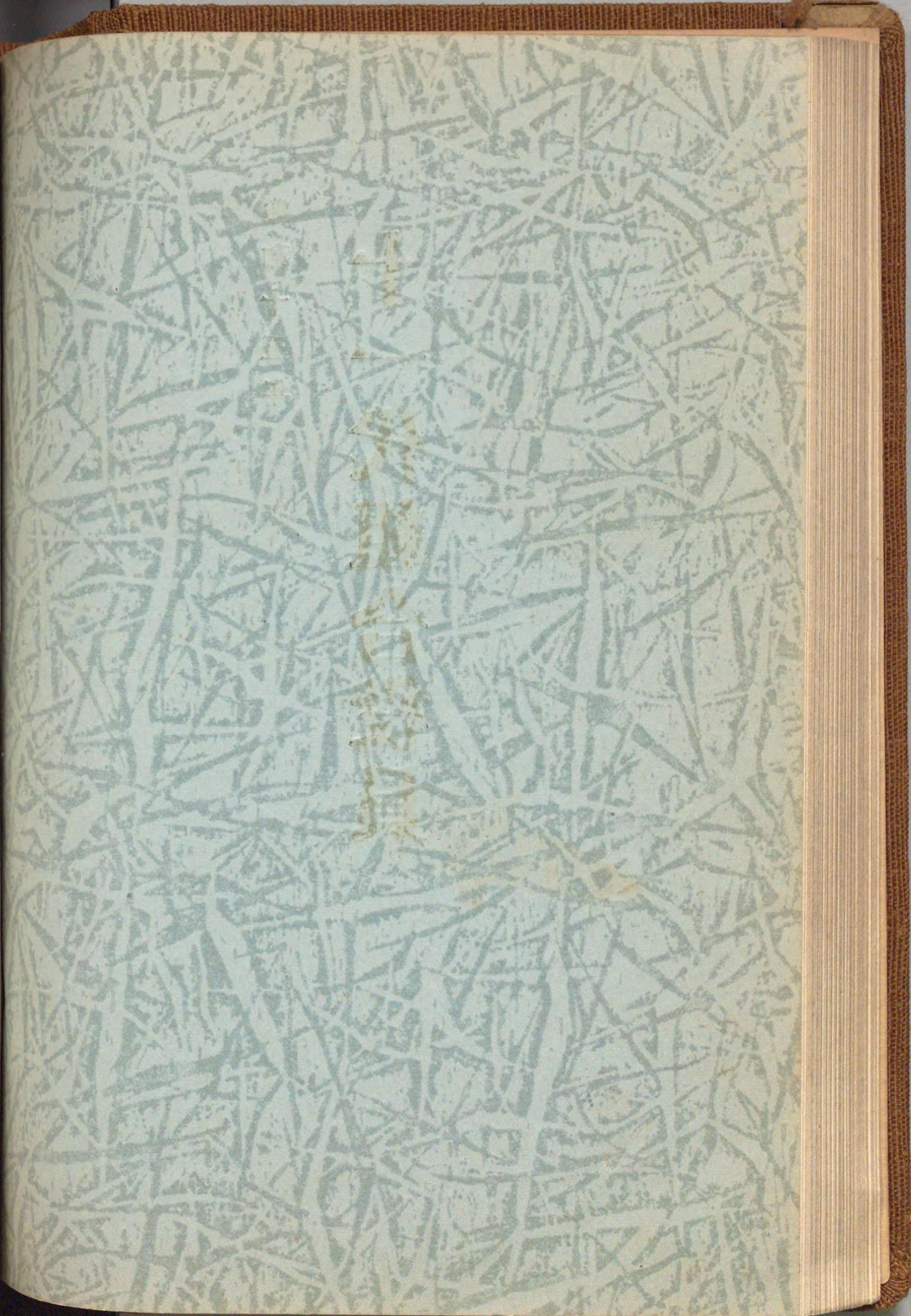


長合組代一拾
氏丞之仙根曾大



昭和十五年度役員

組合長	大曾根仙之丞
副組合長	增田範平
會計	齊藤 誠
會計	井田留三郎
書記長	柳田謙次
幹事長	柴田栄一
幹事	川口竹治
"	中山三郎
"	田中雅治
"	大出與助
"	多田豊治
"	洪谷國六
"	母谷為
"	渡辺三郎
"	小野田貞治郎



顧問 母谷竹之介 購買組合理事長 下平廣太郎
同常任理事 内藤和市

事業史

- 一、昭和十五年一月十四日小石川大正亭ニ於テ定時總會及ヒ新年ノ宴會ヲ開催ス(出席者二十七名)
各工場徒弟五年勤続者ノ表彰式ヲ行フ
女子一名 男子五名 計六名
- 一、昭和十五年一月二十一日錦町俱樂部ニ於テ臨時總會ヲ開催シ組合規約第五條ノ一部改正シ役員ノ任期ヲ滿一ケ年トス
- 一、昭和十五年二月十一日井田、柴田ノ両氏ヨリ組合史編纂ヲ提案ス
- 一、各委員制ヲ廢シ顧問制ヲ復活ス
- 一、昭和十五年五月二十八日錦町俱樂部ニ於テ定時總會ヲ開催シ製本機械綴材料共同購買組合規約ヲ全組合員ニ配付ス
- 一、昭和拾五年六月九日神田公園ニ於テ組合史編纂爲記念寫眞撮影ス(組合全員)

感謝狀

貴下ハ昭和十四年選ハレテ本組合會計長トナル
 ヤ時恰モ日支事變ノ爲メ諸物價高騰ト共ニ業界
 ノ單價向上ヲ計リ乃至材料ノ統制等々難關ニ逢
 着頗ル多事多難ナルヲ能ク克服シ組合ヲ今日有
 ラシメタルハ組合員ノ齊シク感謝措ク能ハサル
 所ナリ仍テ茲ニ金壹封ヲ贈呈シ謹テ感謝ノ意ヲ
 表ス

昭和十五年三月一日

東京製本機械綴組合
 組合長勳七等 大曾根仙之丞

増田範平殿

役歴

昭和七年	幹事兼調査員
十三年前期	同
十三年後期	同
十四年	會計
十五年	副組合長

増田範平氏

同氏ハ昭和七年幹事ニ舉ゲラレ同時調査員等ヲ歴任シ同十四年事變下
 最モ復雜ナル時季ニ名會計トシテ信任篤ク其ノ圓滿ナル人格ハ衆望ヲ
 擔ヒ選バレテ現副組合長ノ要職ニ就キ専心組合ノ爲メ盡碎セラレツツ
 アリ

増田範平略歴

明治三十六年茨城縣々立下妻中學校ヲ卒業シ同年北米合衆國ニ渡航ノ上二ケ年間英語研究傍ラ商業實務ニ專念シ次イデ知人ノ後援ニヨリ加州南部ノ最大都市ノ羅府市ニホテル兼雜貨商ヲ經營ス其ノ後約十數年時恰モ第一次歐洲大戰終結セシニヨリ歐洲人ノ米國渡航者激増シ爲メニホテル業ハ空前ノ好況時ニ際會ス然レドモ子女教育ノ見地ヨリ遂ニ意ヲ決シテ歸朝ス其ノ間排日問題勃發ノ時ニハ憤激措ク能ハズ腕ヲ撫セシ等今尙ホ感激無量ナルモノアリ歸朝後無聊ノ生活ニ苦ム中昭和四年偶然知人ヨリ現職業ヲ讓リ受ケシガ萬事米國的事業經營ニ對比シテ餘リニモ差異甚ダシキタメ廢業セント思ヒシ事アリシガ徐々本業ノ本質ヲ體得スルニ至リ繼續ヲ以テ今日ニ至レリ

事業史追加

- 一、昭和十五年一月十五日當組合モ追々年ヲ重ネ重要書類及ビ器具等ノ數モ殖ヘ從來通りニテハ紛失等ノ恐レアルニ依リ備品簿ヲ作製シ同時ニ書類箱五個新製役員ニ貸與ス
- 一、最近東洋製糸統印六十番綴糸ノ不良品續出シ其ノ數量相當多額ニ上リ善後策考究中ノ處大會根組合長ノ考案ニヨリ『ミシン油ニ二三分浸シ』後使用セバヨリ以上ノ効果有ル事ヲ各員ニ通知ス此レニヨリ組合員及ビ東洋製糸ノ損害ヲ防止シ能率ヲ増進セシコト大ナリ
- 一、昭和十五年七月二十二日錦町俱樂部ニ於テ臨時總會ヲ開催ス（出席者二十三名）同席上ニ於テ左ノ件ヲ決議ス
 - 一、組合規約第二十條及至二十三條從業員雇傭規定細目決定全會一致之ヲ承認連名捺印ス
 - 一、工員票發行之ヲ全組合員ニ配布ス
 - 一、昭和十三年十二月組合ノ統制強化ヲ圖ル爲組合各員ヨリ金壹百圓也ヲ保證積立金トシテ徵集セシガ今回其ノ使命ヲ完遂シタルニヨリ總會ノ決議ヲ經テ各員ニ返還ス
 - 一、昭和十五年八月十日先年東京府經濟部ノ斡旋ニヨリ製本組合トノ協定ノ急ギ仕事一割増請求ノ趣意書及ビ急ギ分用赤色傳票同封各得意先ニ發送ス

一、昭和十五年八月十二日組合旗及全組合員記念寫眞ヲ全員ニ配布ス
一、昭和十五年九月二十日次ノ株券ヲ全組合員ニ配給ス、同十五年五月規約改正セル共同購買組合資
金ヲ株券（額面金五拾圓拂込金拾貳圓五拾錢）ニシ綴機械壹臺ニ對シ株券壹枚ノ割ヲ以テ組合員
百五拾貳臺ニ對シ壹枚ヅツ割當配布ス、同十五年九月二十五日今春二月以來組合史ノ編纂ニカカ
リ此程漸ク完了シ各組合員ニ配布ス
以 上

此度開業ニ際シ井田氏ノ御紹介ニテ組合長大曾根氏ニ面會シ入會申込ミ致シマシタ處早速其手續ヲ指
示シ入會ヲ許可セラレ組合員ノ末席ヲ汚ス事トナリマシタ兩氏ニ種々ト御話ヲ承リ組合員各位ノ親睦
ト組合規程。其他。基礎ノ強固ナルニハ感激シテ居ル次第デアリマス、今後各位ト共ニ規約ヲ嚴守シ
組合員トシテ名ヲ汚サヌ様努力致シマスカラ何分宜敷御躉々ノ程御願ヒ申上ゲマス
入會ニ際シ大會根、井田兩氏ノ御親切ナル御指導ト御翰旋ヲ深謝致シ
益々組合ノ隆盛ヲ祝シ奉リ簡單乍ラ以上入會ノ御挨拶ヲ申上ゲマス

昭和十五年八月

王子區稻村西町五丁目五五

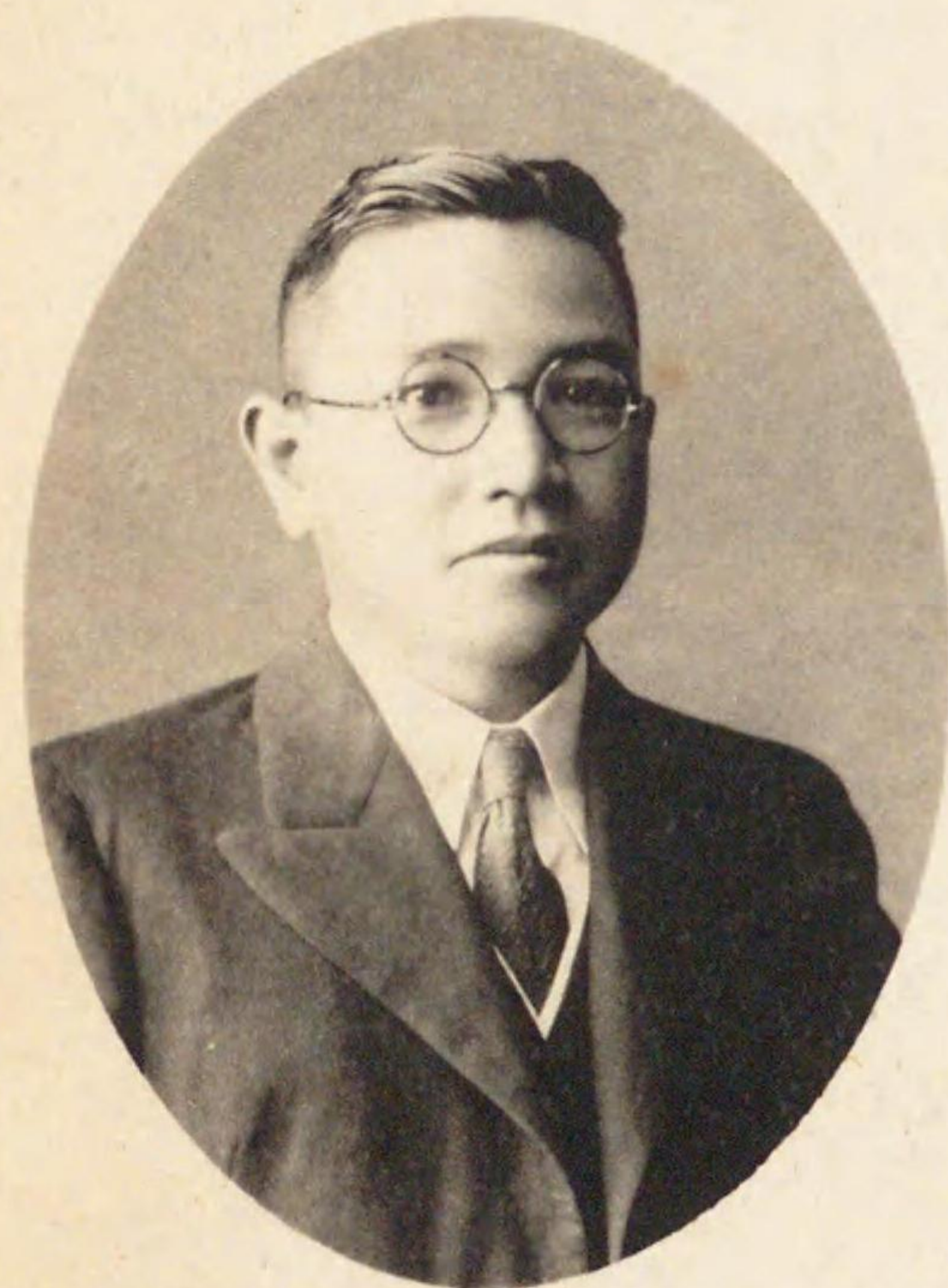
田 中 彌 一

歴代組合役員

員役合組代歷



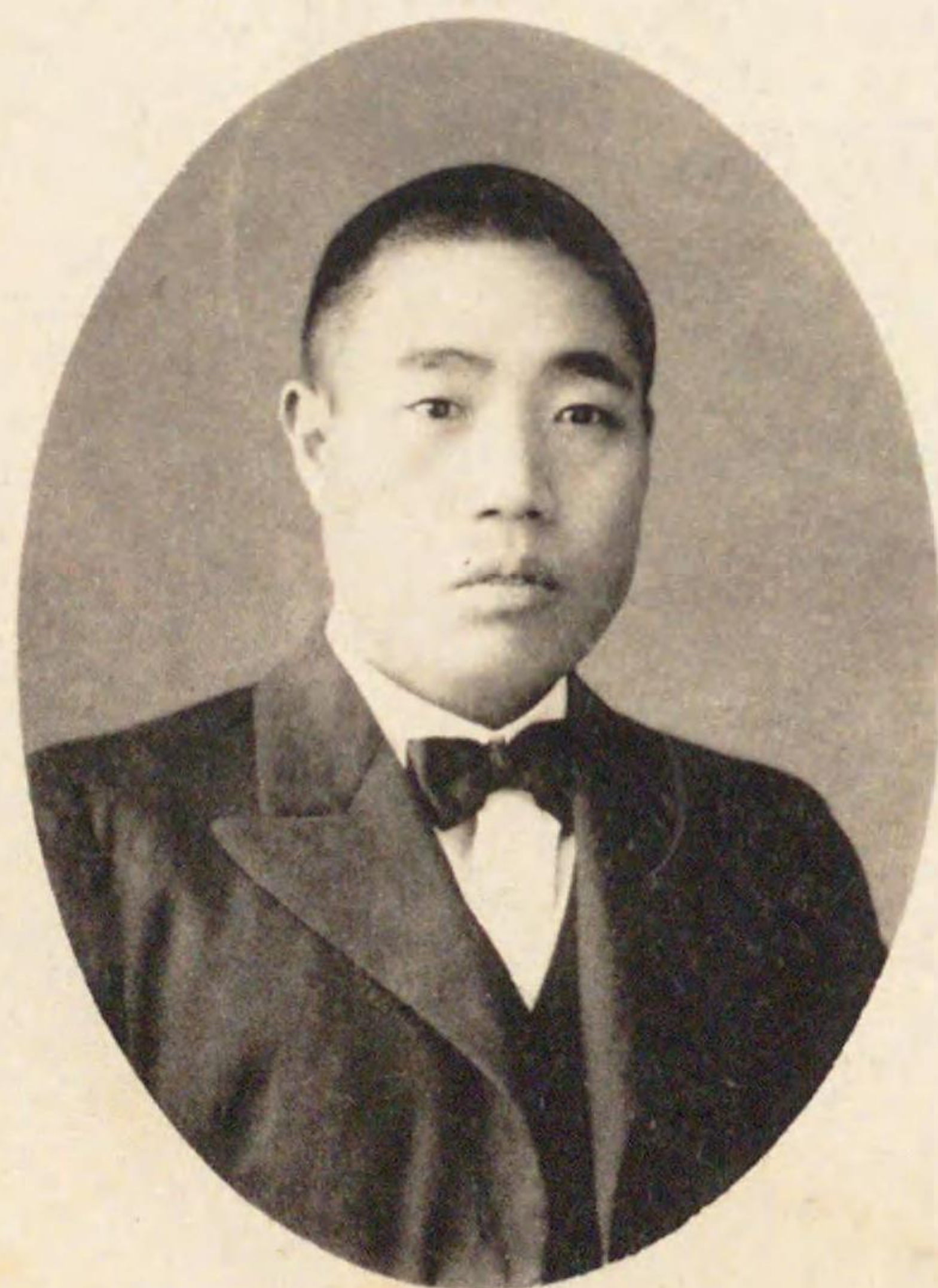
理事任常合組買購現
氏市和藤内



長事幹元
氏郎三山中



計會前
氏治豐田多



長記書現
氏次謙柳

星洲聯合會

感謝狀

貴下本組合會計就任中能ク組合ノ發展融和ニ盡
瘁セラレ其功勞甚タ偉大ナリ

今回期滿チ職ヲ辭セラル、ニ當リ茲ニ記念品ヲ
贈呈シ深ク感謝ノ意ヲ表ス

昭和十四年三月

東京製本機械綴組合

組合長 篠田宇吉

内藤和市殿

氏ハ初期當時ヨリ幹事會計等ヲ歷任シ現在講
買組合常任理事トシテ本組合創立以來ノ功勞
者タリ資性溫厚ニシテ組合員ノ德望亦厚シ

役歴

昭和元年	幹事
同三年	同
同四年	會計
同五年	同
同七年	幹事兼調査員
同九年	同
同十一年	會計
同十三年前期	同
同十三年後期	同 兼統制員
同十四年	幹事兼購買組合理事
同十五年	購買組合常任理事

内藤和市略歴

明治二十五年一月三十日生

愛知縣碧海郡安城町字出郷 出身

明治四十一年 横濱尾上町貿易商丸石商店店員

同 京橋榎町河岸貿易商スイフト商會店員

明治四十二年 神田區蠟燭町成田製本所 徒弟

大正五年 同 成田製本讓受 製本經營

同 十年 銀座高田商會 製本糸綴機械 二臺 注文

同 十一年 製本機械糸綴業 神田新石町 經營 二臺

同 十二年 大震災

同 十三年 製本機械糸綴業 神田區永富町 經營 四臺

昭和二年 増設 七臺 神田區美土代町電車通り移轉

同 三年 製本表紙張機械張業 神田區美土代町四番地 經營

自働張込機 二臺

自働小物紙折機 一臺

昭和五年 全集終了後 糸綴機械 四臺トス

昭和七年 神田區美土代町六番地移轉

機械糸綴に就いて私の思ひ出

内藤和市

大正八年製本職工時代に横濱のアドバタイザ製本印刷工場にて初めて糸綴機械を見て之れは面白い職業と思ふて之れで成功しようと思へましたが何を云ふにも金が先きで製本で損をして未だ故郷の父の借金も支拂はず此の機械をに入るには七千圓と云ふ大金を要するので買ふ事が出来ず何とか好い考へは無きかと半ヶ年餘も考へました自分の義兄の●●が資産家な故其人に有利有益なる事情を話して都合してくれと頼んだ處承諾してくれて資本を出す事になったので機械を注文し半ヶ年たつて機械を手に入れる事が出来ました。最初板張床の上に鐵板を敷き其上に機械を据付け足踏みにて練習を爲し一日に三四千枚が最上でした足踏み故足は疲れる手の調子は取れず二ヶ年ばかりの中にやつと動力掛けと爲し能率を上げて早く借金だけでも同業者の出来ない間に取り上げんと機械に取りかかりました處足跡みと違つた能率は上れど如何にせん針が折れて手間にならず考へた末機械の動搖を防ぐ爲め基礎工事を施し木臺を据へ其上に機械を取り付けやつとの思ひで針は折れなくなり此分なれば好からうと仕事に取りかかり瀨く一日壹萬枚位綴られ様になつたれども一冊一冊の境目を切つて糊をつける仕事に手数がかゝり一臺の機械に三人を要する始末で最初の考へた様には行かず思案の末横濱のアドバタイザに行き一冊の終りに空踏みをする事を覺へやつと糊付けは止めたれど紙質の厚薄に依りて糸がか

らんで困難しましたがメートルにて調節する事を悟とりだん／＼能率が上るやうになりました今日の様に工合よくは中々出来なかつたので第一綴り糸にも困まつて英國製の木巻ののカタン糸を使用しました其後半々年位たつて罎印ミシン用五十番手の糸が出来其後帝國製糸會社の金鍵印が出来然る後又日本カタン會社のアザミ印綴糸罎印製本用糸が出来て来ました今より考へて見れば御話になりませんのです其當時苦心したのは大倉書店より發行された言泉と云ふ四六倍版の四本テープ綴りを外國製の見本を持ち來り此の通りに綴ちてくれとの注文を受けたがテープ綴ちの經驗がないので横濱に行つて機械の取付け方を教はり一番駒の調子も取れず調子も別らず困まつて居りました其當時小菅刑務所に綴機械が据付けらるゝに就いて獨逸國より技師が來て居りましたので一日中見せて貰ひやつと組み付け調子が別りましたテープ綴ちには誰れが先きだと申しましたも小生より先きに綴ちた人は無いと思ひます其頃は一冊づゝに梓木を入れて前記言泉を一週間かゝつて六萬枚餘り綴ち上げて先方より大層賞められました其後普通綴りテープ綴兩方出来るやうになり安心して多少づゝ借金の返済も出来るやうになり心強く感じられ朝は早く夜は遅く働いて何とか負債の消却をと勤勉してゐる中彼の大震災に遭遇して苦心も財産も烏有に歸しましたが之れではならぬと綴機械の職工となり且又レイポルト商館の機械賣却先の試運轉を爲したり機械のブローカーなどをやつたりしてゐました大正十三年の暮に燒ケ機械の修理が出来再度工場を經營する事が出来まして今日に及んでゐますが創業當時を回顧すれば感慨無量です

終りに參考迄に其當時の綴り上げ賃銀を申し上げますと左記の通りでした

四六版壹千枚ニ付

金六拾錢

菊版

金七拾錢

テープ綴

金壹圓貳拾錢

感 謝 狀

貴下ハ昭和十四年選ハレテ本組合書記長トナリ
同時ニ會計、幹事長ヲ兼務シ時恰モ日支事變ノ
爲メ諸物價ノ高騰ト共ニ業界單價ノ向上乃至材
料ノ統制等々難關ニ逢着頗ル多事多難ナルヲ能
ク克服シ組合ヲ今日有ラシメタルハ組合員ノ齊
シク感荷措ク能ハザル所ナリ
仍而茲ニ金壹封ヲ贈呈シ謹ミテ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十五年三月一日

東京製本機械綴組合
組合長勳七等 大曾根仙之丞

多 田 豊 治 殿

氏ハ現幹事タリ圓滿無垢ノ人格者ニシテ
組合員全體ノ信望最モ厚ク書記長及會計
ニ任セラレルヤ眞ニ粉骨碎身組合ノ爲メ
寢食ヲ忘レ盡碎セラル實ニ本組合ノ至寶
タリ

役 歴

昭和	十一年	幹 事
同	十三年前期	幹 事
同	十三年後期	同 兼統制委員
同	十四年	書 記 長 兼 購買組合會計
同	十五年	幹 事

多田豊治略歴

明治二十七年六月二十五日埼玉縣忍町ニ生ル

明治四十一年五月上京ス神田有斐閣書店ニ入店シ勤續七年東京書籍商組合ヨリ表彰状ヲ授與セラル偶々同組合ニ於テ株式會社圖書陳列館ノ創設ニ當リ入社ス。病氣ノ爲メ退社ス。爾來俸給生活 外交生活等偶々先輩横瀨氏ノ獎メニ依リ昭和二年十一月三日神田區三崎町二丁目三番地ニ製本機械綴業ヲ開業シ今日ニ至ル

感

想

多田豊治

茲に光輝ある皇紀二千六百年を迎ふると共に吾が東京製本機械系綴組合も本年創立十五週年を迎へまして此の期に當り大曾根組合長の基に柴田幹事長、井田會計両氏の計劃に依り組合史發刊の報を聞き誠に意義あり時期を得た事と存じ寔に慶祝に堪へません。此の事たるや餘人の良くなさざる處幸ひ兩氏の熱心なる御努力に依りまして吾等が組合史の誕生に逢ひ欣快と共に深く感謝の意を表する次第であります。顧みるに吾等が業務は製本界幼かりし頃より家庭の内職仕事にてその傳統を踏襲して居り

ましたが先代山縣製本社長の歐米視察の際獨逸プレーマー會社より購入に端を發し爾來先輩諸賢の普及又苦心經驗にて漸次本業の内職業を離れ時世は出版物の大量となり、各種全集物の刊行等相次ぎ遂に内職業影を没し新工業として製本界に今日の確固たる地歩を收むるに至りました事は御同慶に堪へぬ次第であります、吾等は此の期に當り本組合の創立に統制に、又材料共同購買組合の設立等本組合の爲め永年多事多難を克服して能く今日斯くも優良なる組合に御努力を至されました先輩諸氏の幾多の御功績に付きまして此處に記して衷心深く感謝の意を表するものであります。

顧みる時素人出の私等も幾多の苦い經驗を味ひましたが又組合としても過渡期時代を経て今日得意先並に店員の登録制又賃銀の統制、材料の配給等々組合の恩恵に對しまして日々滿腔の感謝の念を禁じ得ません。

吾等は此の上とも大いに共同意識を強化して組合の發展向上に協力し宜しく一利の弊害を戒しめ共存共榮に相提携、實行して組合の益確固安帯の上に邁進されます事を切望する次第です。

組合史上梓に當りまして聊か所懐を記すと共に重ねて編纂者井田、柴田の御兩名の御努力に對しまして深盡の謝意を表します。

昭和十五年七月

略歴

柳謙次

明治三十五年生 新潟縣脇野町出身
 大正五年十五歳ノ折上京本郷帝大前松屋商店ニ入店勤続十九年ニシテ昭和九年獨立紙工品販賣業ヲ本郷四丁目ニ開業ス
 昭和十一年四月神田三崎町ニ移轉製本機械綴業ヲ兼業今日ニ至ル

感想

柳謙次

皇紀二千六百年を迎ひ我が業界の組合史編輯に至りたる事は誠に慶賀の至りであると共に編者井田、柴田両氏の御奮闘を感謝する次第であります
 昭和の御代は正に十五年我が組合も十五年の歴史を數ふるに至る本組合は其の組織的に當を得一致協力の基に過去幾多の苦難を切抜け他に類例なき繁榮を來たせし事は偏に先輩諸氏の切實なる努力の賜物と深く感謝致す次第であります
 昭和維新と言ふ如く幾多の變革を経て聖戰第四年を重ね世界各國は動移しつゝある時我が組合も亦以つて多事多端を豫想せざるを得ん事と思ふのであります
 今や出版界は日を追ふて隆盛を辿り日進月歩の情勢下にあると同時に我々組合員も益々其の重責を痛感し精心誠意事に當り本組合精心の基に一致協力以つて其の實を揚げ文化の一端に貢獻せん事を諸賢と共に痛感する次第であります

中山三郎略歴

明治卅七年栃木縣那須野ヶ原ニ生レ昭和貳年貳月上京
 同年三月木挽町ニ於テ開業昭和十一年合資會社文星社創立併合今日ニ及ブ

役歴

昭和五年	幹事	現幹事タリ少壯有爲ニシテ
同 七年	同 兼調査員	
同 九年	幹事 同	大イニ將來ヲ囑望セラル本
同 十一年	同 兼調査員	組合ノ同氏ニ期待スル事多
同 十三年前期	幹事 長	大ナルヲ信ズ
同 十五年	幹事	

感想

中山三郎

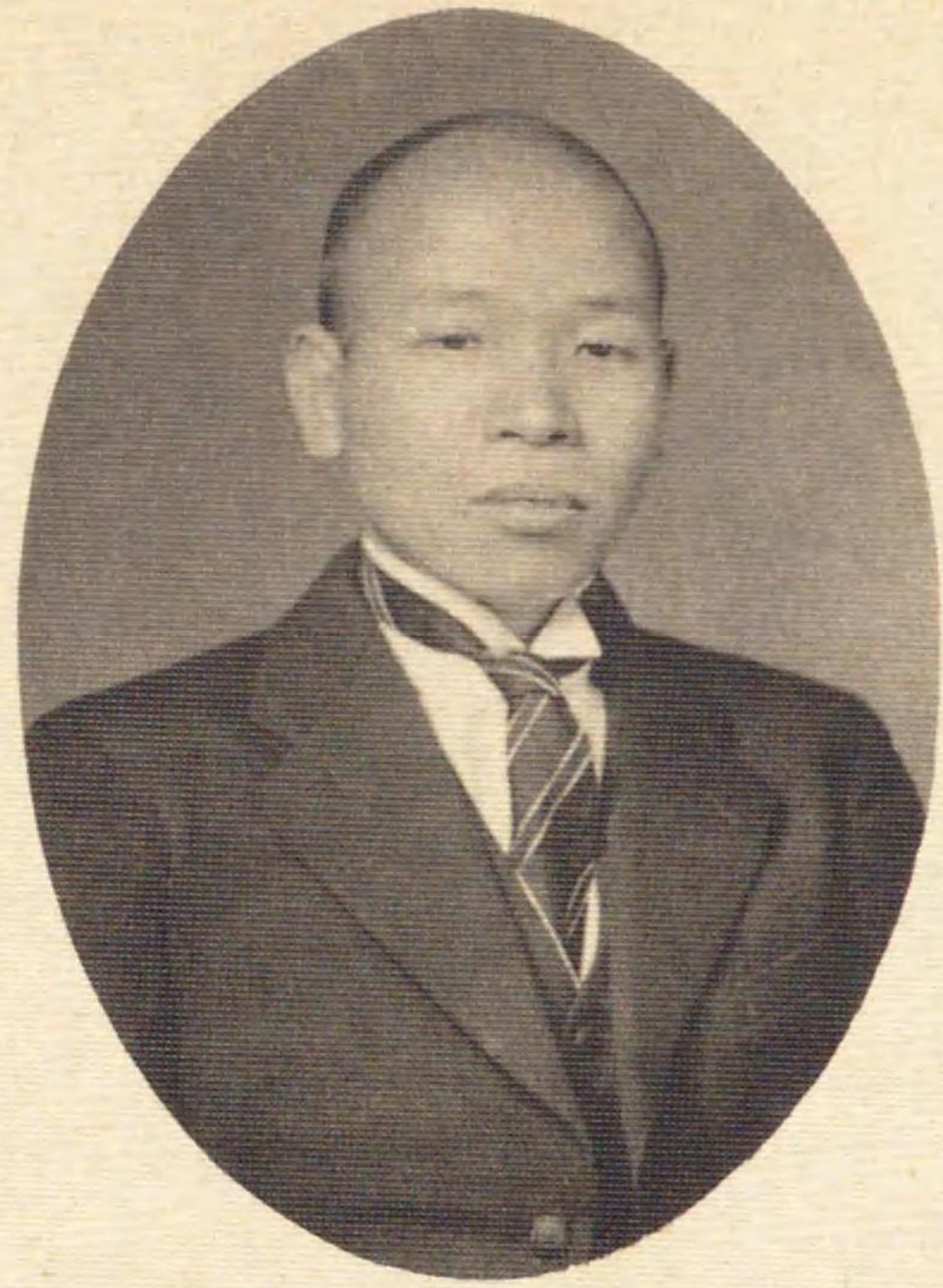
今回組合史編纂ニ當リ編者ノ御努力ニ對シ深く感謝スルト共に促サル、儘ニ與ヘラレタル一頁ニ愚言

ヲ述ベヤウ

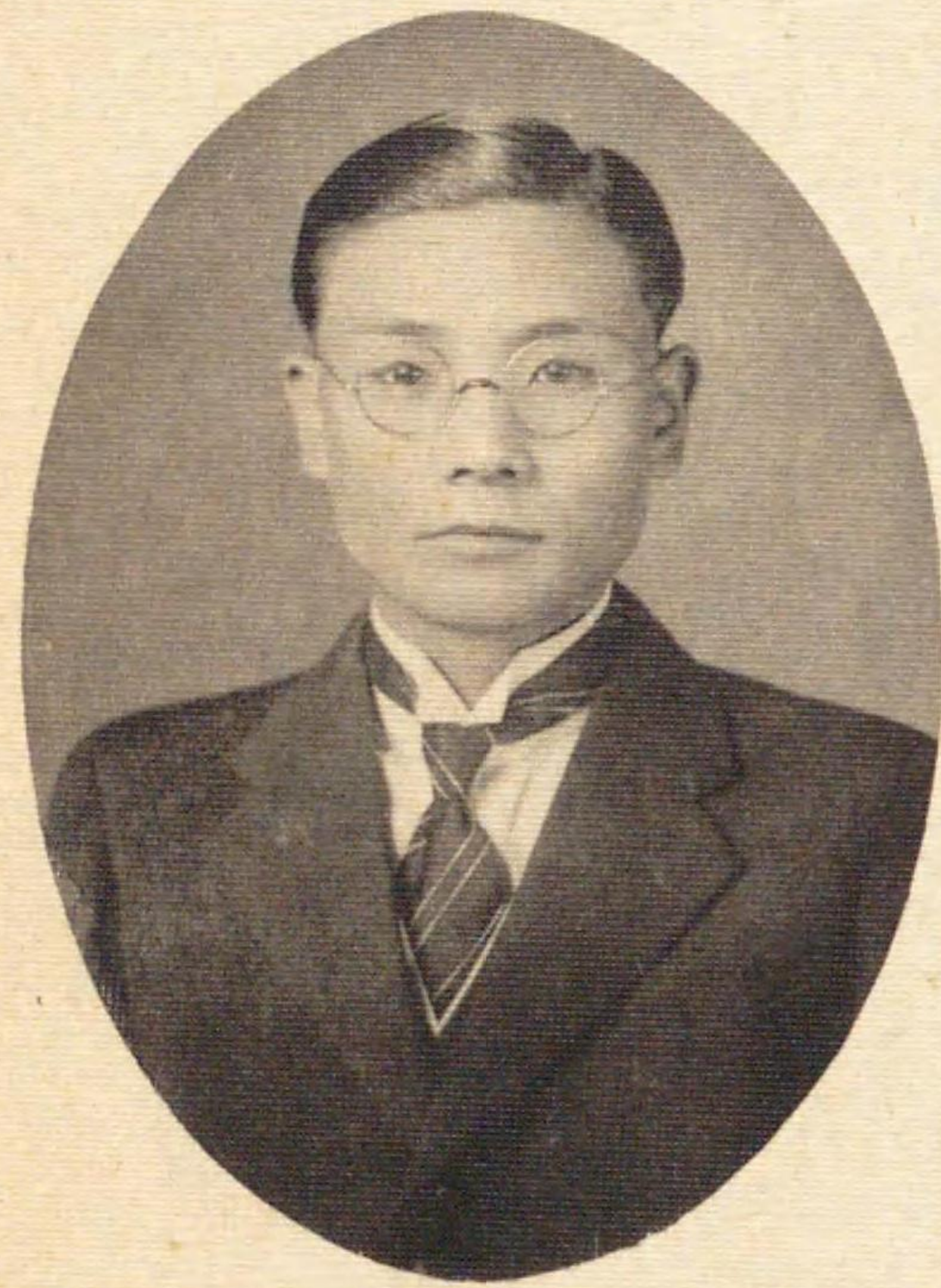
凡ソ宇宙界ノ森羅萬象ハ組織的ニ非ザルモノハナク何人モ之ヲ認ムルデアラウ古ノ名將ガ吾ガ子ニ對シ弓ノ矢ヲモツテ其ノ理ヲ説キ教訓セシ話ハ餘リニモ有名ダ實ニ一個ノ力ハ一個デ終ル場合ガ多イガ二個ガ相集リ協力シタ場合ハ三乃至十ノ力ヲ發揮スルコトガアル先ヅ例ヲ一ニ舉ゲテ見ヨウ我々日常生活上恩惠ニ浴シツ、アル電氣ハ一滴ノ雨水ノ協力ガ河川トナリ其ノ刺戟ヲ請ケテ微細ナ電子ノ協力ニ據テ我々人類界ニ光ヲ與ヘ尙且幾千幾萬ノ電動力トナルデハナイカ次ニ文字ニ就テダガ文字ノ起源等ハ僕ノ如ク淺學者ノ知ルヨシモナイガ古代文字ヲ見ルニ物體ノ形ヲ文字ニ變化セシメタモノガ多イガ萬物ノ靈長タル人類ノ人ト呼ブ字ハ單ナル形ノ變化トハ異リ凡ユル角度ヨリ檢討シ相當苦心ノ結果創造サレタモノト想フ長短二片ノ力ノ調和コソコノ文字否社會組織ガ構成サレルノデハアルマイカ各個人ガ自己本意ニノミ行動スルトキハコ、ニ無理ヲ生ジ二片ハ共ニ倒ル、ノハ必然ダコレダ心セヨ互ニ助ケ共ニ生キヨウ即チ協力ダ共存共榮ダ我ガ組合員各位ハ現今統制經濟非常時局下ニアツテ平和産業群内ニ於テハ比較的安泰ニ過シ得ルコトハ先輩諸氏ノ御健力ハ言フ迄モナイガ斯ノ全集反動時代ニ於ケル野獸ニ等シイ確執ノ蒙昧ヨリ醒メ眞ニ人字ノ本質ニ立戻リ利己的感念ヲ放擲シ協力一致行動シタ賜ニ外ナラヌノデアル本年ハ恰モ皇紀二千六百年ノ意義深イ年ダ敬愛スル諸兄ヨ將來益々本組合同上發展ノ爲メ延テハ自己ノ爲メダガツチリトスクラムヲ組ンデ邁進シヨウデハナイカ。

小石川支部員

員部支川石小



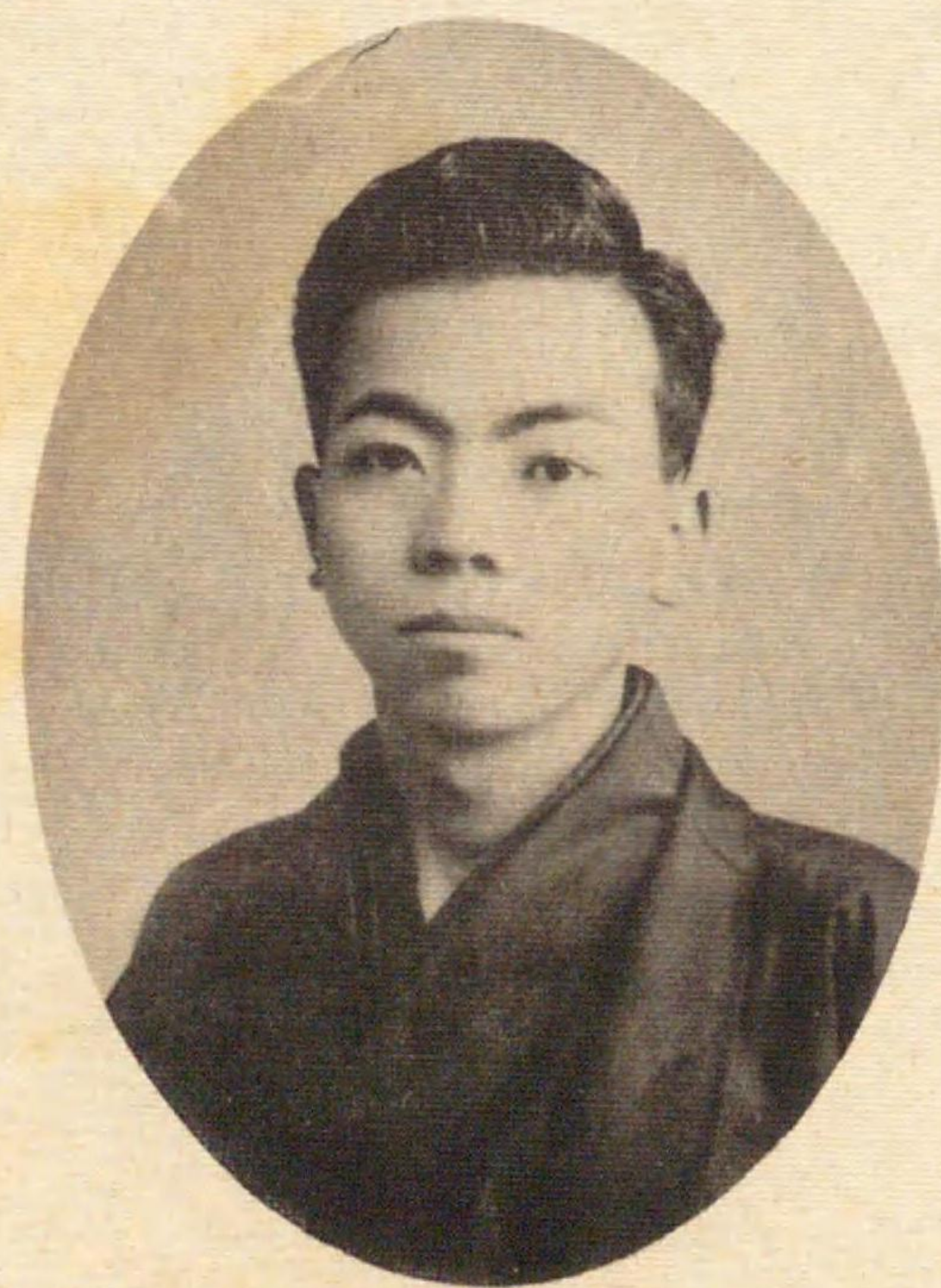
事幹合組現
氏郎三辺渡



員委制統合組元
氏郎太新島高



事幹合組現
氏為家母



員委制統合組元
氏郎次貞田野小

役 歴

渡 邊 三 郎

昭和十一年度	幹 事
同 十二年度	同
同 十三年度前期	同
同 十四年度	同
同 十五年度	同

渡 邊 三 郎 略 歴

明治參拾八年八月九日新潟縣新發田町に生る

大正元年四月尋常小學校入學大正七年三月卒業同年四月高等科入學大正九年三月卒業同年五月

牛込區の鹽谷製本所入所昭和五年六月小石川區餌差町に綴業開業昭和十二年十月小石川區初音

町に移轉今日至る

役 歴

昭和十一年度 幹事兼調査員
 同 十二年度 同
 同 十三年度前期 幹 事
 同 十四年度 幹 事
 同 十五年度 同

略 歴 母 家 爲

生れは明治二十二年。由緒ある水戸の某家に誕生。太平洋は黒潮の大洗にて産湯を使ふ。江戸へ乗込んで来たのは大正五年。最初「そばや」を経営。昭和二年綴業に轉向爾來幾星霜今日に至る。

機 械 の 音

母 家 爲

「お前も大分八釜しくなつて来たな。一つ治して来い。」旦那の命令で、斯界の權威某鐵工所へ行き、此處で叩き直される事約一ヶ月にて退院した。

「ほう、大分立派になつたな、一つ立廻つてみる。」あらゆる角度に於て優秀ぶりを發揮しつつしかもつつましやかな音をたててすう／＼と氣持よく滑らかに廻轉する。

「上等々々。」旦那は大満悦であつた。

實際。世の中に機械程勤勉なものはあるまひ。適時に油を注して氣をつけながら掛ければ無限の力を示しつつ四季寒暖の別なく働く、數年仕事を續けて、疲勞すれば一ヶ月程療養して元氣を取戻し、又潑刺として職務に精進する。

そこで機械は何と云ふ音をたててゐるか。曰く「働け………」張切つてゐる時には小聲で力強く。少し疲れてくると一段と聲を勵まして。

略 歴

小野田 貞次郎

明治三十四年七月二十一日千葉縣夷隅郡大多喜町に生る。幼少より故ありて、母の手ひとつにて他家或るいは行商等をして育てられ義務教育まで困苦の中にも終了を受けたり。十六歳の時柳田氏の世話にて東京市神田區今川小路一ノ一山縣製本工場に徒弟として入所。昭和三年大會根仙之丞氏の媒酌にて妻帯す。尙我々の將來を思はれて機械まで廉價に提供され現住所に綴業を開業當時家内の副業なりしも全集盛大期なりしを以て好成绩を擧げたりしも忽ち不況になり月收五拾圓内外廢業せんとせし事幾度なりしが其の都度大會根氏に勵まされ居りし折り同四年杖とも柱とも頼む主人に先だたれ退社の期を逸し居る内昭和七年製本組合より十六年の勤續表彰を受け。其の後も若主人に仕へ居る内都合により九年退社、重役小澤嘉一氏の絶大なる盡力により本格的に同業を爲す事になれり。

當時小石川區ではすでに佐藤、春原、若林、浦野、渡邊諸氏經營中なりしも不況に合ひ春原、若林兩氏廢業、佐藤氏の後高嶋氏變りて經營、以つて三氏非常に私に同情下され組合組織も強固になりつゝ在りしも一方ならぬ好意により尙荆妻朝子獻身的努力とにより今日に至る事出来た次第なり。

最近支那事變の爲め統制經濟を受けしも幸ひ業界多忙となり。渡邊、多田、増田、田中諸氏より得意の分與を受け營業の多忙なるにつけ開業當時得意先僅か二軒の時を思へば先輩諸氏の好意と本組合の如何にありがたきかと日夜感謝し居る次第なり。

京橋支部員

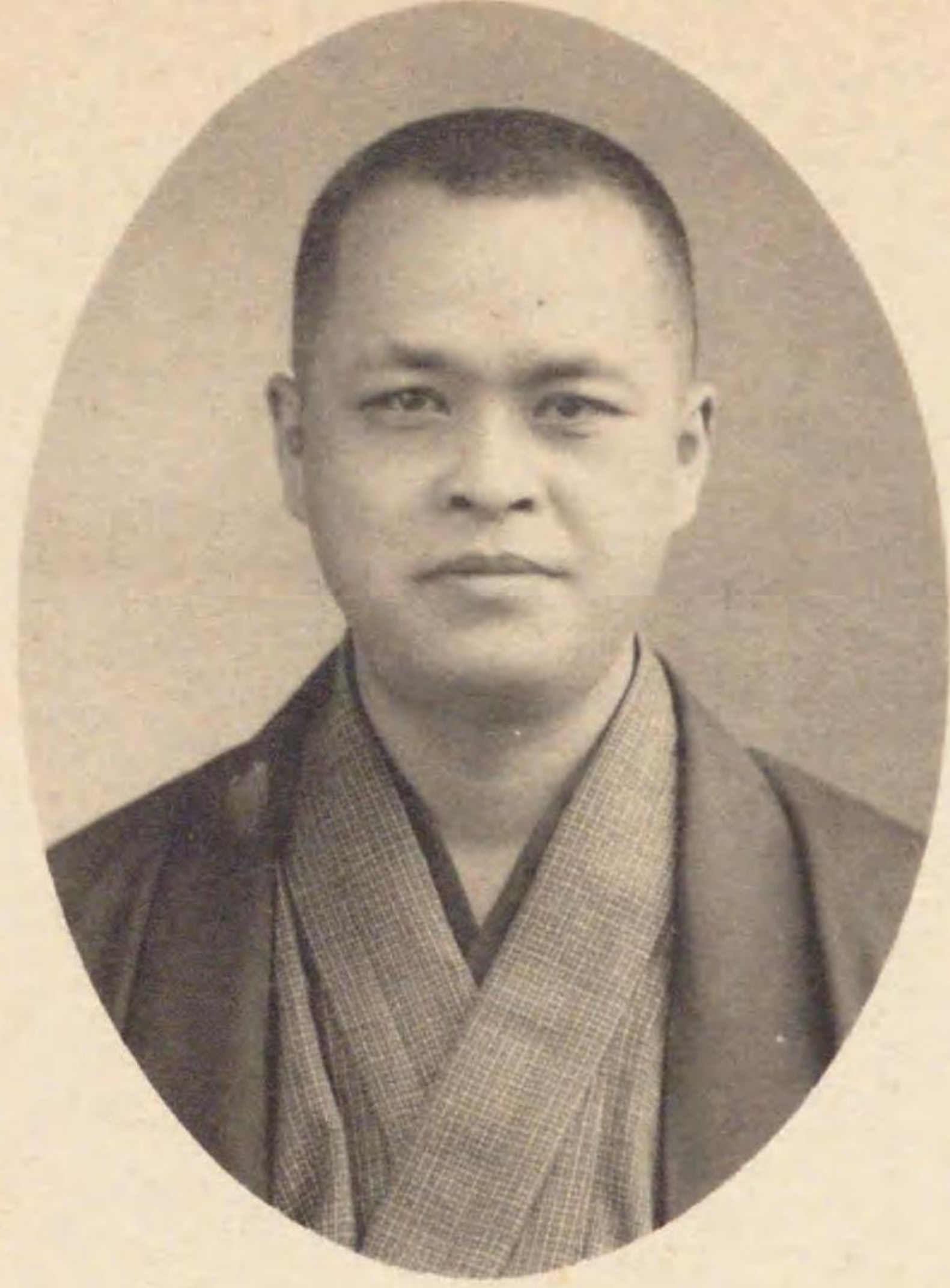
略 歴

高 島 新 太 郎

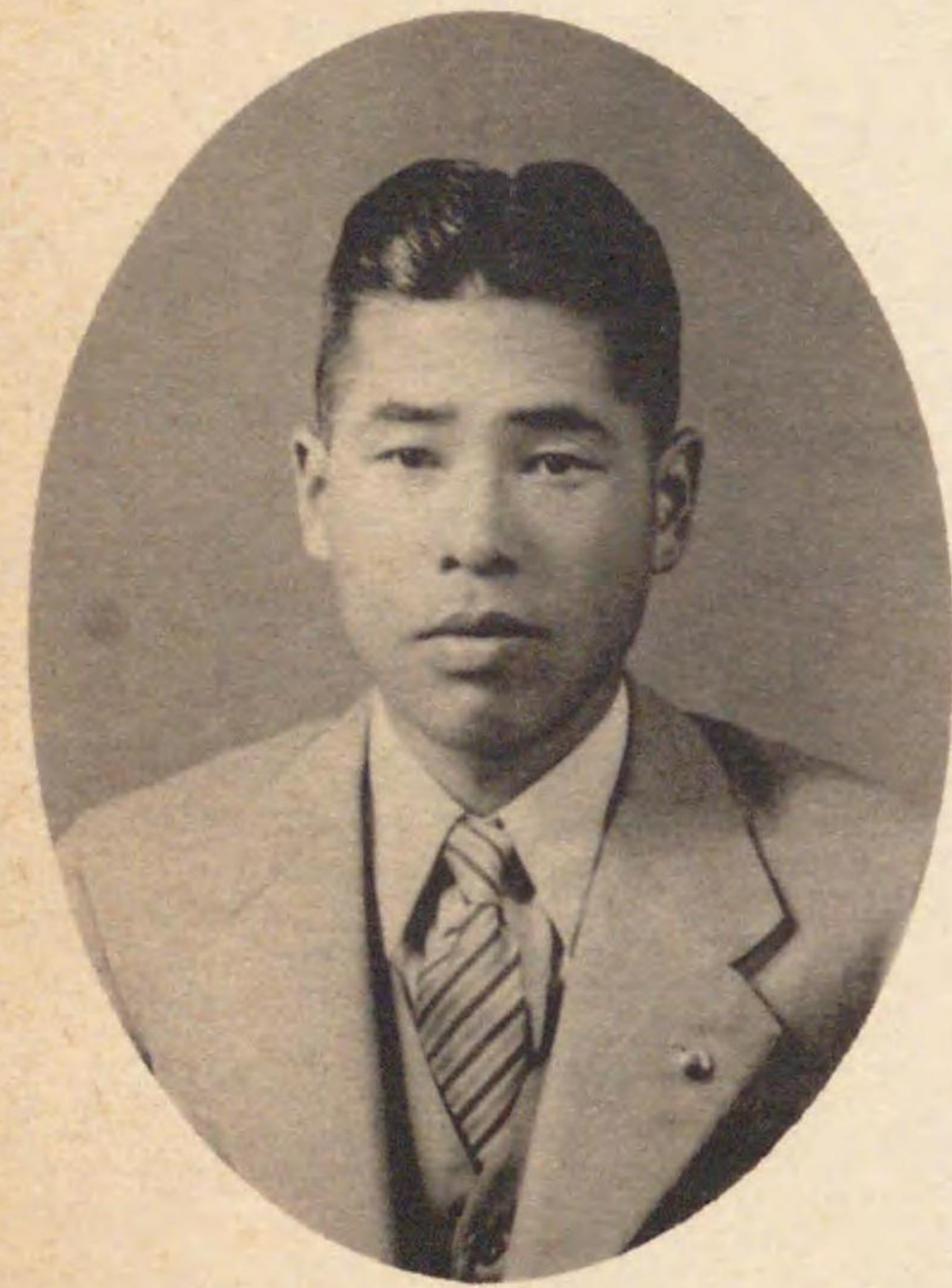
福井縣の農家に生れ、高等小學校卒業間も無く東京の叔父の世話にて日本橋馬喰町の鈴木文房具問屋に奉公致し十八歳にて同店の萬年筆部主任に任定され兵隊検査にて年期終へ田舎より參千圓の資本借り受け小石川柳町に萬年筆製造販賣開店致しました。そこで三年營業を營み續きましたが不幸にも失敗、やむ無きに至りました。その時昭和五年三月兄のすゝめにより戸崎町の現住所に製本綴業機械三臺にて開業致す事になりました、これも一年二年と不景氣に見まわれそれは全々製本には素人の私は何度止めたい氣持ちがおきたか事か、しかし一度失敗致して居る私は、今にその内に何とかと思つて居る内仕事にもなれ商賣も年々忙がしくなり三臺にては御得意様に満足するほど間に合わ無くなり昭和十四年三月四臺に増設致し現在に至りました。これも皆御得意様と組合の御蔭と深く感謝致して居ります。

昭和十五年六月

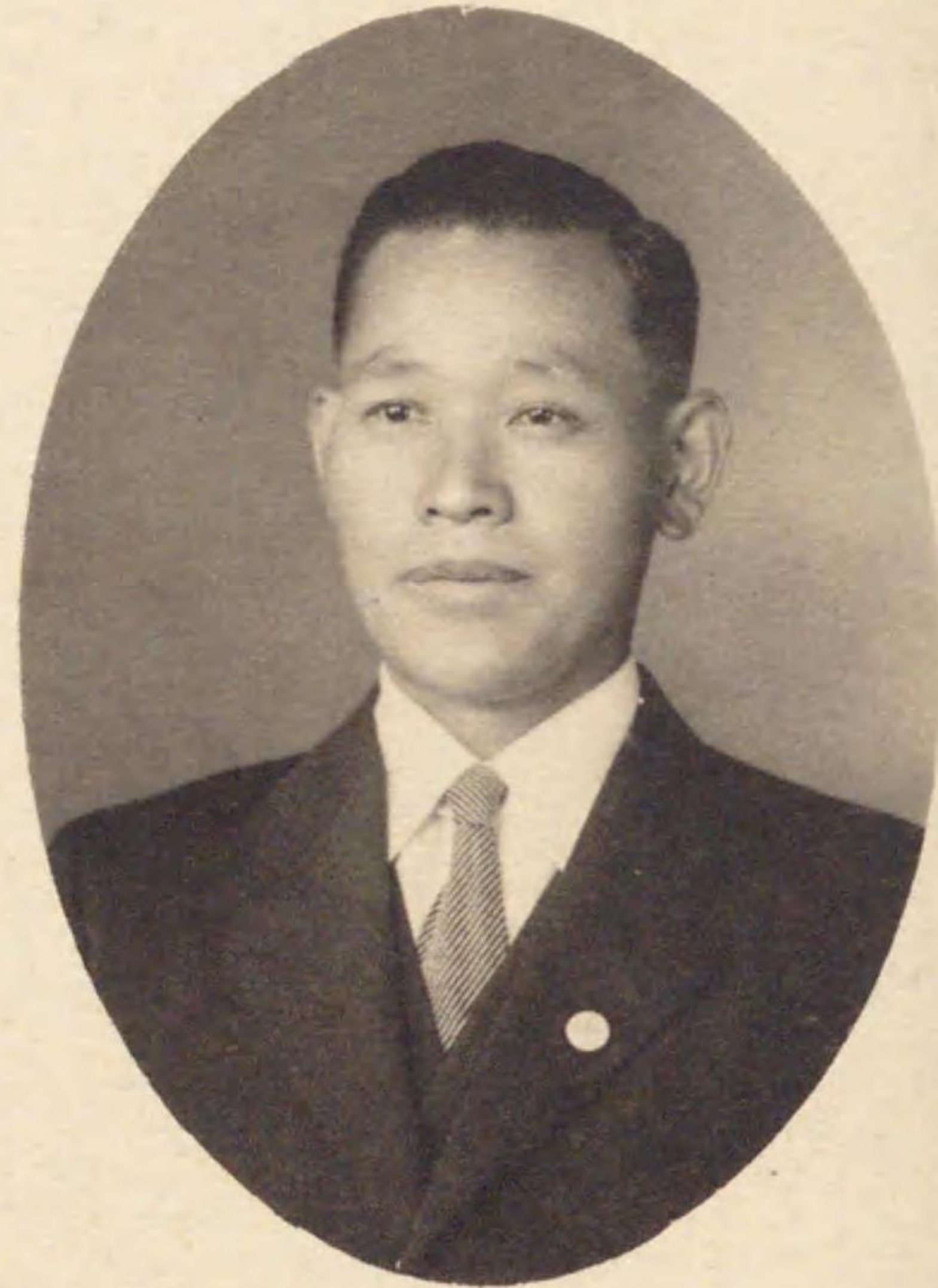
京 橋 支 部 員



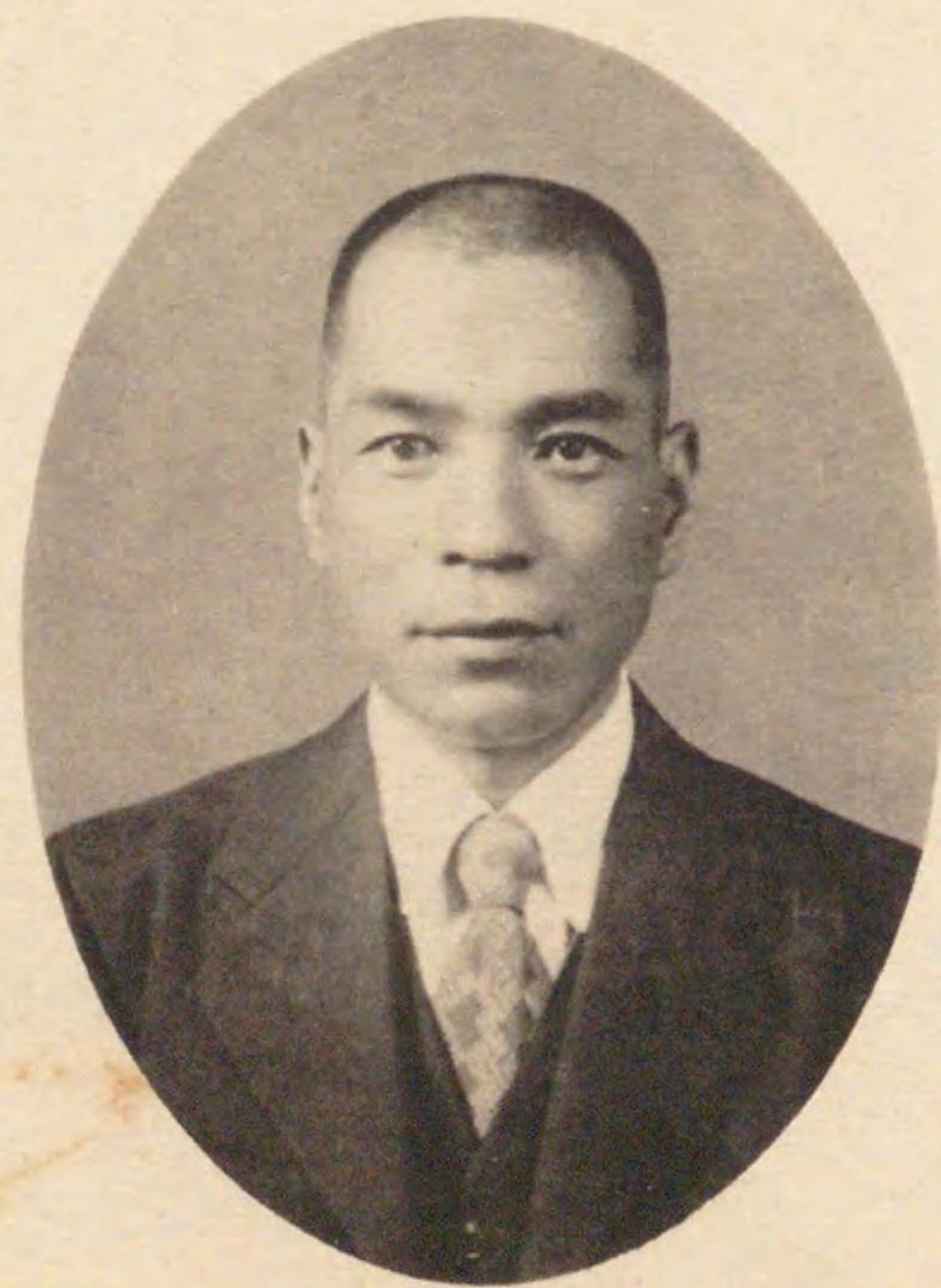
元組合調査員
川口 尹氏



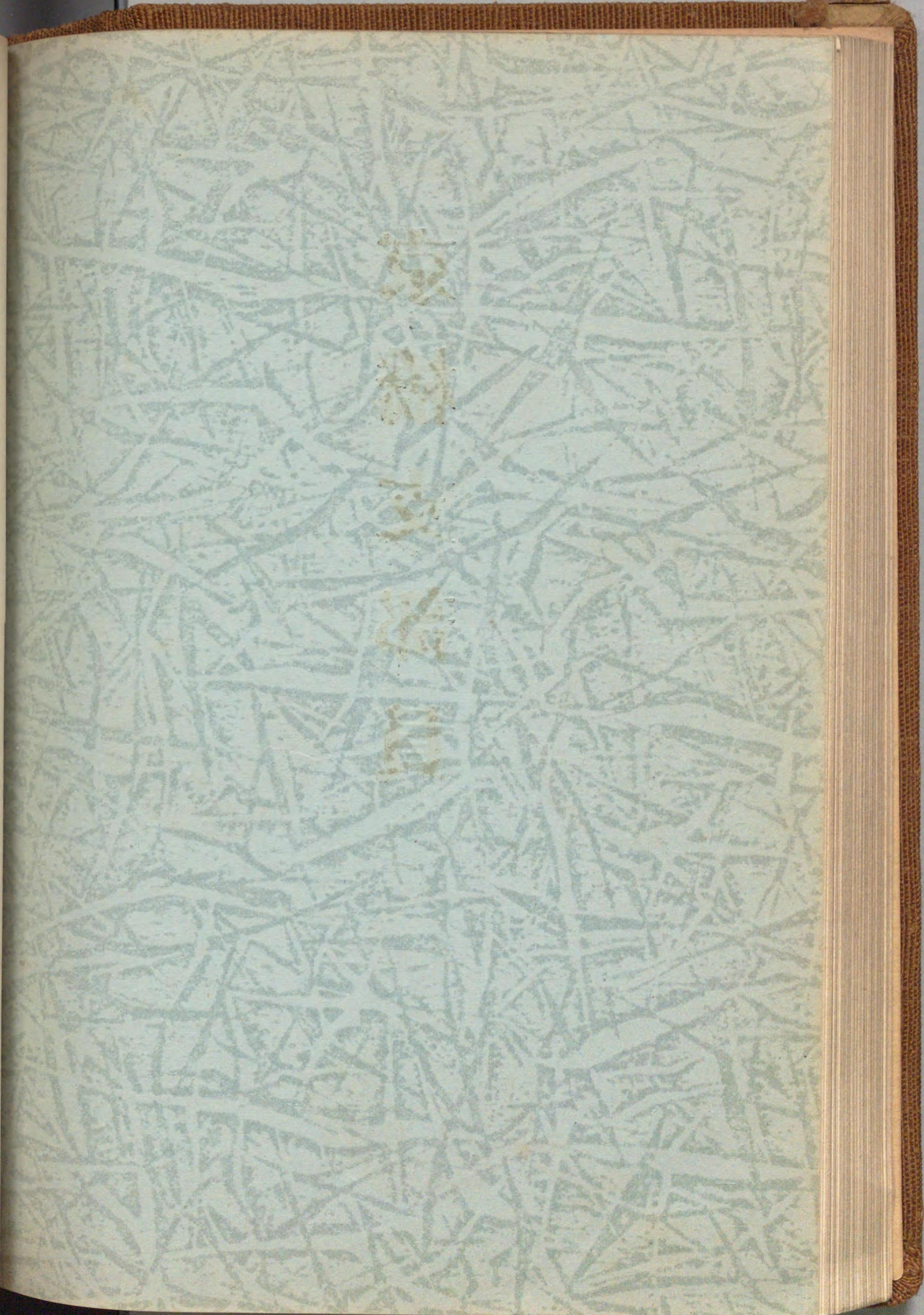
宿本政雄氏



元組合幹事
栗間登久治氏



松山久吉氏



略

歴

川

口

尹

今回皇紀二千六百年ヲ記念トシテ組合史ノ編纂サレマス事ハ誠ニ欣快ニ堪ヘナイ次第デアリマ
ス

一組合員トシテ是非履歴ノ一端ヲト懇望サレ幾多先輩諸氏ノ前ニ申上ル言辭モ御座イマセンガ
南總ノ一寒村ニ農家ノ三男ト生レ大正八年佐倉歩兵五十七聯隊ニ入營スル迄親ノ膝下ニアリテ
自然ニ親ミ、除隊後志ヲ立テ僅ノ旅費ヲ持テ上京シ、幾多難コースヲ經テ、大正十五年現在ノ
所ニ開業スル迄ノ苦イ過去ヲ追想スル時感慨無量ノモノガアリマス。齡四十ニシテ惑ハズトカ
？ 未ダ一ツトシテ成ル事ナク喘デ居リマスガ、只家内健全ナルヲ無上ノ幸福ト日々感謝致シ
テ居リマス、而時局ハ寸刻ノ油斷モ許サズ自力更生國策ニ添ヒ長期建設デ邁進スル覺悟デ御座
イマス

以 上

略歴と感想

栗間登久治

明治二十八年四月四日廣島縣山縣郡加計町に生れ十五歳まで慈愛深き両親の懷に送る。

同四十三年志を立て建築職に身を投じ事後専心自己の職務に精勤す。

大正十三年二月上京建築業を以て大震災後の帝都復興に努む事二年。

同十五年四月京橋區新富町に製本機械綴業を開業。

昭和十一年文星社創立と共に合併今日に至る。

私は父母様に早く死別して寂しく日を送り人生の無情を感じさせられ色々迷ひの末他力
安心より推されて彌陀誓願不思議に救はれ今日一日は御恩報謝と喜びにたへません。

何時の間にやら我身を反省してお恥しい

痲癩カンシヤクはもつて生れた鈴の玉

あたりさわりとなるぞかなしき。

其の中に他力の信の玉ありて

またなりもどる彌陀の名鐘

略歴

宿本政雄

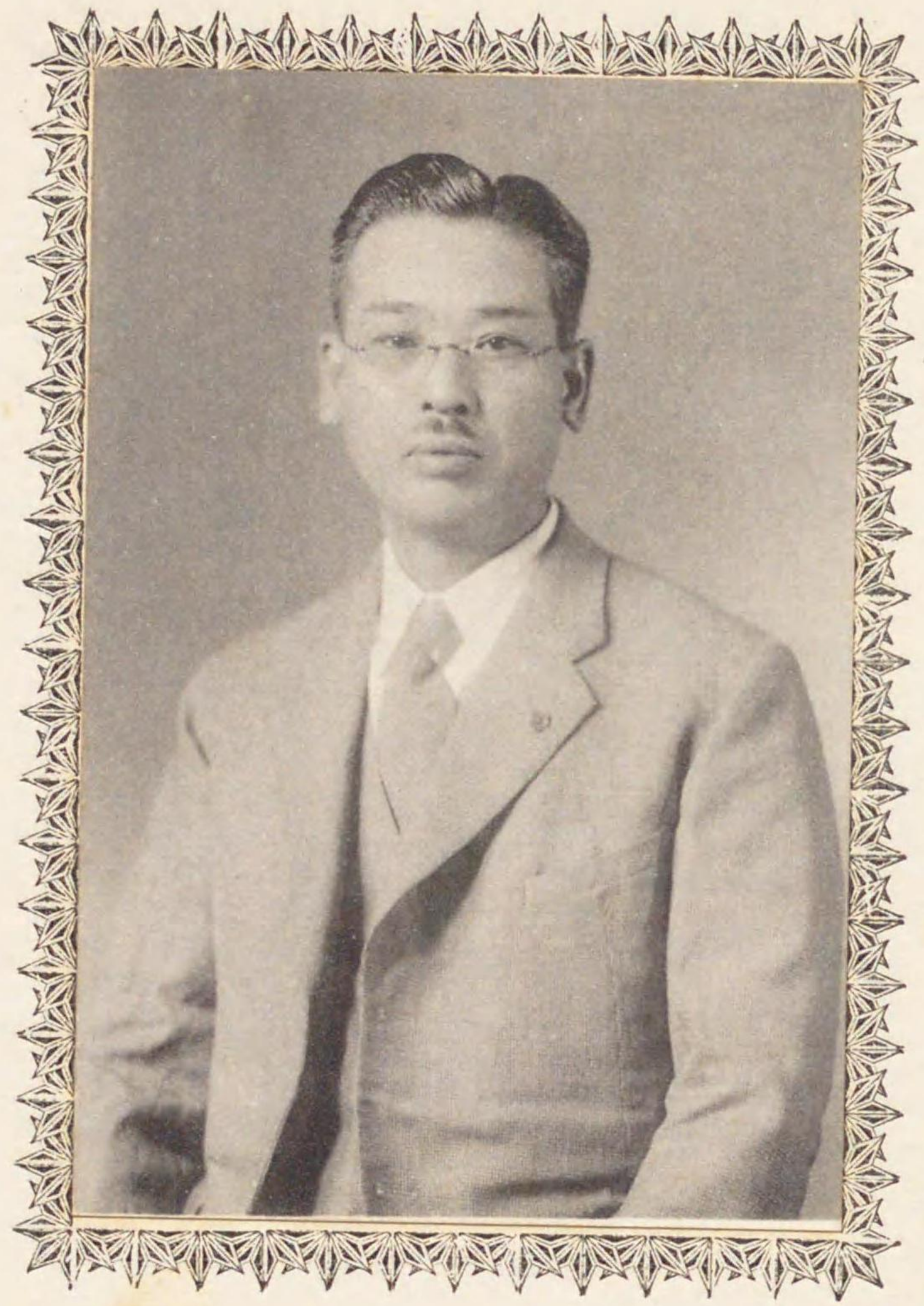
明治四十一年十二月東京市京橋區具足町ニテ生レ

昭和二年十二月京橋區京橋一ノ八ニ於テ父名儀ニテ開業

昭和十一年九月文星社創立ト共ニ入社現在ニ至ル

略 歴 松 山 久 吉

明治廿三年八月神田區松枝町に生る
明治四拾四年製本業に従事
昭和三年五月製本綴業にて獨立
昭和拾壹年九月文星社設立と共に入社す



中 根 與 市 氏

機械ノ修理ハ親切本位ヲ以ツテツトメテ迅速ニ御用命ニ應ジマス
高級印刷機
製本糸綴機
製本針金綴機
諸機
製作販賣
東京市神田區三崎町二丁目四番地ノ四
日本大學裏通リ
主 中 根 鐵 工 所
電話九段(33)三九七九番

感想

中根 鐵工所主

昭和十五年は皇紀貳千六百年支那事變滿三週年に當り實に記念すべき年で有ります。今回綴業組合史編纂者よりの勸に依り何かとの事で、此の機會を利用して小生のくだら無い一くさりをのべさせて頂きます。申す迄も無く戦事下の今日吾等銃後の國民は各自與へられた使命を守らなくてはなりませんお互に出來るだけ物を大切し無駄をはぶきましょう、國策の線に添い貯金も致しませう、吾等は自分の家業に精心して銃後國民の模範をしめませう。今日事務局の波に乗て居る人より、さらわれて居る人々が多く有る様に見うけられます、今一時の収入に目がくれて將來獨立性の事業を見限り又今迄での主人を顧みず誠に遺憾にたへない次第です。先の事を考へ無いにも程が有ると思ひます。なぜなれば時局波も風おさまれば、おだやかとなる此の時こそ失業者は雲霞の如くさまようで有りませう。永い間一方の仕事にたずさわり町工場に職をもとむればとて腕は出來ず、此上歳を取つて來て居る使ひ道の無い人間になつてはどうしまししょう、其のへんをよく考へていただか無いと困る事に成りますから青少年方は尙更よく考へて下さい、一つの工場に永く勤め立派に年期も明け仕事熱心に自分は行先一家の工場主になる事をたのしみに働くべきで有る、給料のみをのぞみ働く人は成功をおぼつか無い人である、一つの工場へ永く辛棒し獨立して事業をやる様にならなくてはだめです、一工場へ永く居る時は

自分の身に無形の財産がつく、無形とはたとへば少資本で獨立事業を始めたとすれば一から十迄機械工具は揃ひません、自分の受けた仕事に工具の不足な場合は親方の所へ借にも行れるし、又仕事に付て相談にも乗つてくれる、何かにつけて面倒を見て下さる、それがすなはち無形の財産で有ります。今迄轉々して居る處も定まらない外より來た者にだれが面倒を見てくれる者があるでせうか、考へ見てもわかるでせう、私は大正十二年五月事業を始めました、それ迄岩田鐵工場に十二年辛棒して居て三千圓貯金を致しました、それを資本に現在の所に工場を建てました、すぐ九月一日のあの大地震に機械もなにもかも一夜の中に灰となり、しかた無く國元へ歸りましたが私は總領に生れ弟が五人も有るのに父はその貧しき中より田畑を賣つて金に替へて行くと云れたなれど「私は總領です」私が田畑を賣つて實家より金を持って出たと有れば必ず弟が後日入用の事が出來るに違ひ有りません。父には辭退して再度上京して灰かたづけやつて居た其時隣家文明舎の社長が中根君早く工場を開き賜へと云はれ復興するには先立つ物金です、三四ヶ月で工場を灰にしたのですから私に金の有ようはずは有りません、それでも有難い事には其社長さんの御話に當社の機械をいの一に修理してくれんかと云れお金は前金で支拂ふと革靴の中から金壹千圓札束を渡され地獄に佛のたとへ、早速工場を建て職工まで雇ひ残る金は拾七圓でしたが又社長さんが千圓と云ふ大金を證文一つ入れず貸して下さいました。それはなせでしょう、會社とても早く商賣を始めたいのは申す迄も有りませんなれど私に貳千圓の大金を